

1 章 調査結果

1. 部活動・スポーツクラブ

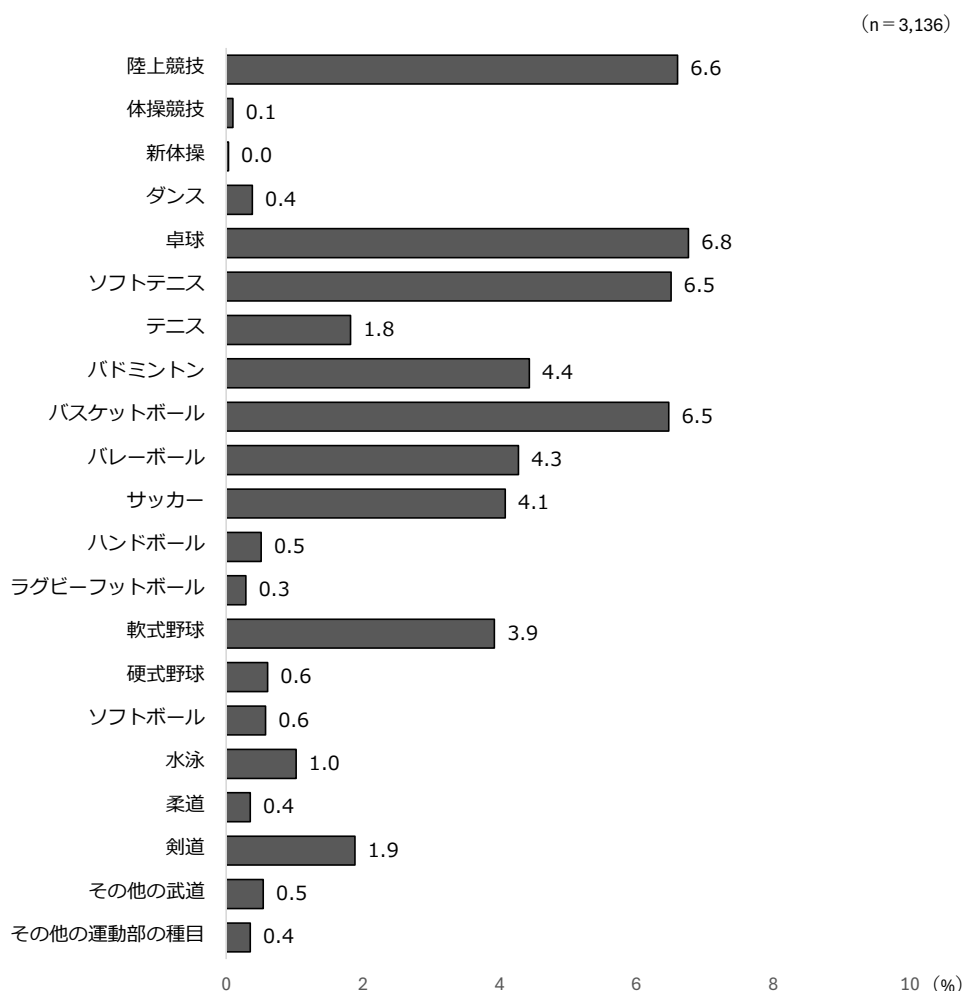
1.1 部活動の種目

中学生が加入している部活動の種目を整理した。2 つ以上の部活動に加入している場合は活動日数が多いものを、日数が同じ場合には中学生がより熱心に取り組んでいるものを選んでもらった。また、転部している場合には現在の部活動を選択し、3 年生で引退している場合には 2024 年度の 4 月から引退前の活動を振り返って回答してもらった。引退以外の理由で部活動をやめて現在いずれの部にも加入していない場合は、非加入として扱っている。

まず運動部をみると、7%を超える種目はなく、6%台に達したのは「陸上競技」「卓球」「ソフトテニス」「バスケットボール」であった(図表 1-1-1)。「バドミントン」「バレーボール」「サッカー」が 4%台で続いた。3%台は「軟式野球」のみで、「テニス」「水泳」「剣道」は 1%台であった。

次に文化部を確認すると、8%台の「吹奏楽」、7%台の「美術・工芸」が比較的多かった(図表 1-1-2)。続いて、「茶道」「自然科学」「パソコン」が 1～2%台に達していた。

図表 1-1-1 中学生が加入している部活動の種目(運動部)

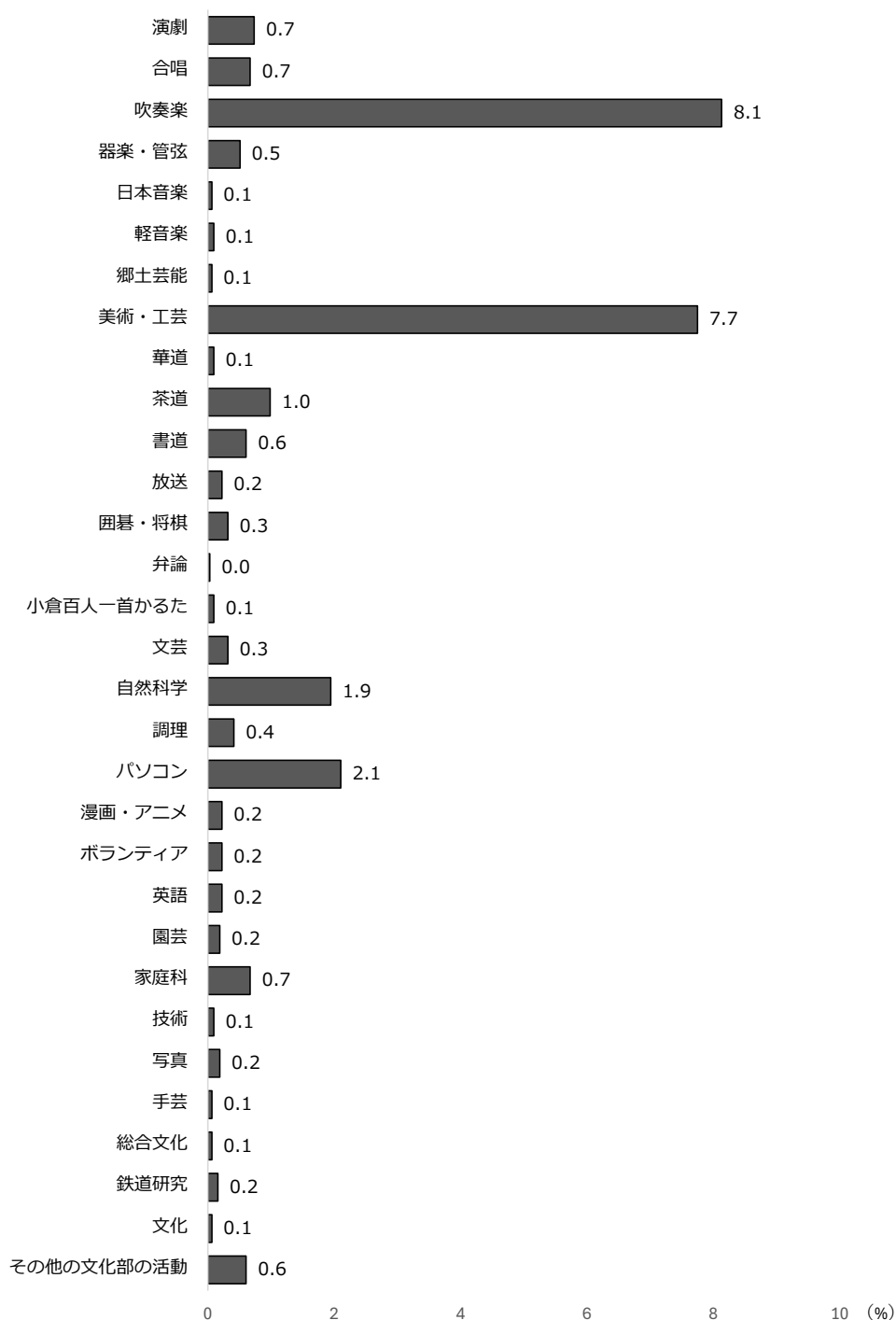


注1) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「サッカー(フットサル含む)」、「水泳(飛込、水球、アーティスティックスイミング含む)」、「その他の武道(弓道、相撲、空手など)」。

注2) 「新体操」が小数点第二位を四捨五入した結果「0.0」になっているが、実際には 0.03%(実数としては 1 人)である。

図表 1-1-2 中学生が加入している部活動の種目（文化部）

(n = 3,136)



注 1) 質問紙の項目に含まれていなかったものの、「その他」の回答で一定数みられた「英語」「園芸」「家庭科」「技術」「写真」「手芸」「総合文化」「鉄道研究」「文化」を繰り上げて図表に記載している。

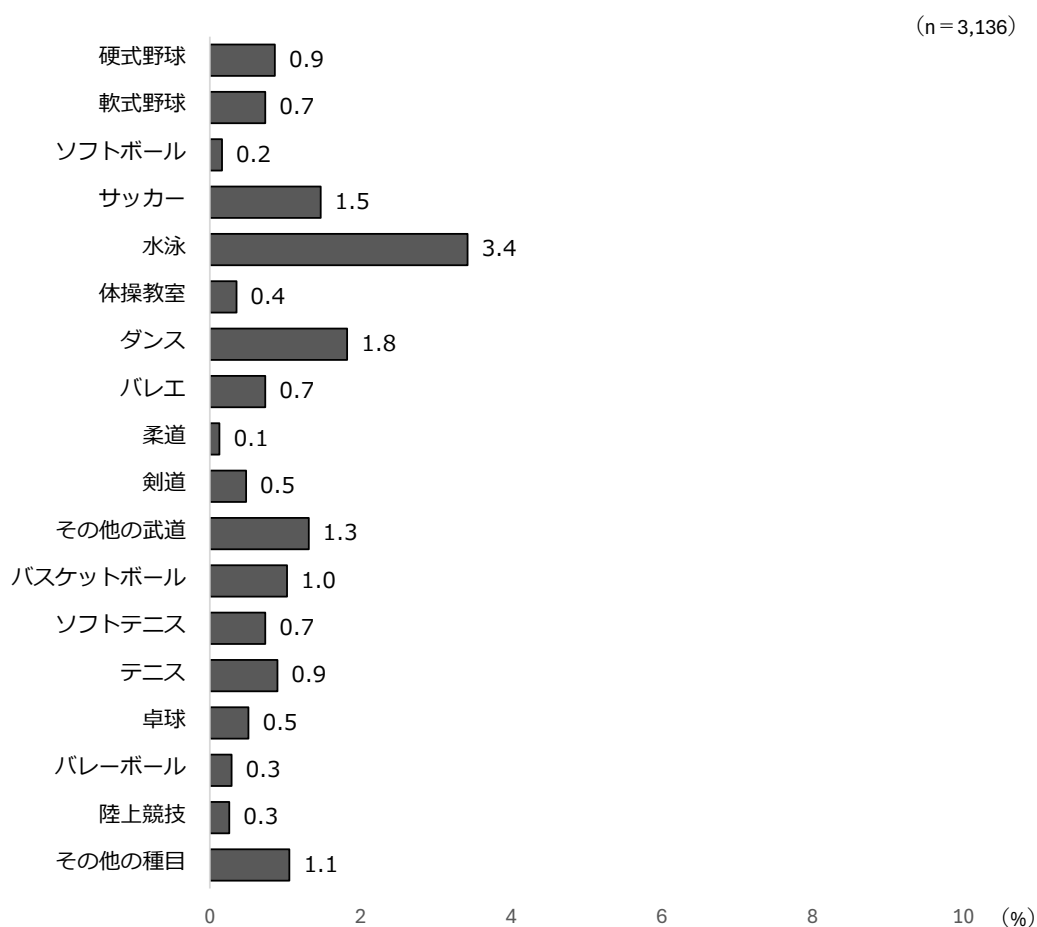
注 2) 「弁論」が小数点第二位を四捨五入した結果「0.0」になっているが、実際には 0.03% (実数としては1人) である。

1.2 スポーツクラブの種目

中学生が加入しているスポーツクラブの種目を整理した。2 つ以上ある場合には活動日数が多い種目を、日数が同じ場合は子どもがより熱心に取り組んでいるものを選んでもらった。また、中学 3 年生で高校受験のために退会・休会した場合は、2024 年度 4 月から退会・休会までの活動を振り返って回答してもらった。

全体の傾向をみると特定の種目が高い割合を占めることはなく、「水泳」のみが 3% 台に達して最も多かった(図表 1-2)。1% 台に達していたのは「サッカー」「ダンス」「その他の武道」「バスケットボール」であった。

図表 1-2 中学生が加入しているスポーツクラブの種目



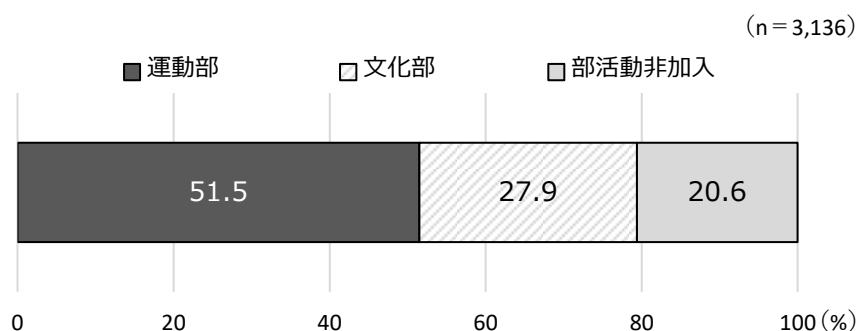
注1) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「サッカー(フットサル含む)」、「水泳(飛込、水球、アーティスティックスイミング含む)」、「その他の武道(弓道、相撲、空手など)」。

注2) 質問紙の項目に含まれていなかったものの、「その他の種目」の回答で一定数みられた「卓球」「バレーボール」「陸上競技」を繰り上げて図表に記載している。

1.3 部活動・スポーツクラブの加入状況

1.1 および 1.2 の回答をもとに、部活動やスポーツクラブの加入状況を整理した。まず部活動の加入状況をみると、運動部 51.5%、文化部 27.9%、非加入 20.6%であった(図表 1-3-1)。性別では、運動部は男子 60.9%、女子 41.3%、文化部は男子 17.6%、女子 39.1%で、男子のほうが運動部に加入する割合が高かった(図表 1-3-2)。学年別では非加入の割合が1年生 17.7%、2年生 20.5%、3年生 23.5%と、学年が上がるほど高くなる傾向がみられた。運動部や文化部の割合に明確な差は確認されなかった。

図表 1-3-1 部活動の加入状況



図表 1-3-2 部活動の加入状況(子どもの性別、学年別)

(%)

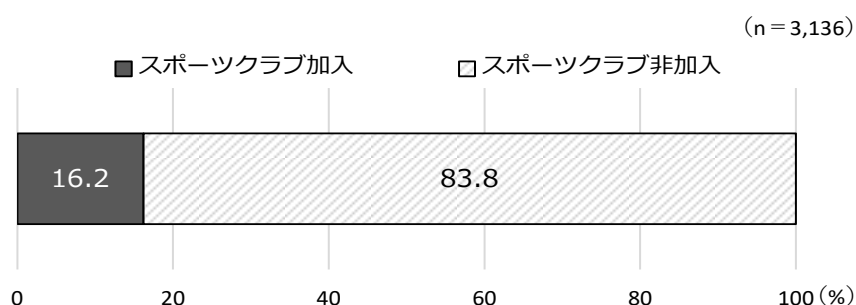
	性別		学年別		
	男子	女子	1年生	2年生	3年生
	(n=1,628)	(n=1,508)	(n=1,028)	(n=1,061)	(n=1,047)
運動部	60.9	41.3	52.5	51.8	50.1
文化部	17.6	39.1	29.8	27.7	26.4
部活動非加入	21.5	19.6	17.7	20.5	23.5

続いてスポーツクラブの加入状況をみると、加入は 16.2%、非加入は 83.3%であった(図表 1-3-3)。性別に加入率をみると、男子 19.0%、女子 13.2%で、男子が 5.8 ポイント高かった(図表 1-3-4)。学年別では 1 年生 17.8%、2 年生 17.3%、3 年生 13.5%と、3 年生が 4 ポイントほど低かった。

本報告書では、図表 1-3-1 および図表 1-3-3 で示した加入状況をもとに、運動部・文化部・スポーツクラブ別の分析を行っている。部活動とスポーツクラブの両方に加入している場合は、双方の分析対象に含めている。

部活動とスポーツクラブの加入パターンを詳細にみると、全体で最も多かったのは「運動部のみ加入」41.9%で、「文化部のみ加入」24.6%、いずれにも加入していない「部活動・スポーツクラブ非加入」17.3%と続いた(図表 1-3-5)。また、9.6%は運動部とスポーツクラブの両方に加入していた。性別にみると、「運動部のみ加入」や「運動部とスポーツクラブに加入」は男子の割合が高く、「文化部のみ加入」は女子の割合が高かった。学年別では、「部活動・スポーツクラブ非加入」の割合が 1 年生 14.0%、2 年生 16.3%、3 年生 21.5%と、3 年生で多い傾向がみられた。

図表 1-3-3 スポーツクラブの加入状況



図表 1-3-4 スポーツクラブの加入状況(子どもの性別・学年別)

(%)

	性別		学年別		
	男子	女子	1年生	2年生	3年生
	(n=1,628)	(n=1,508)	(n=1,028)	(n=1,061)	(n=1,047)
スポーツクラブ加入	19.0	13.2	17.8	17.3	13.5
スポーツクラブ非加入	81.0	86.8	82.2	82.7	86.5

図表 1-3-5 部活動・スポーツクラブの加入パターン(子どもの性別・学年別)

(%)

	全体	性別		学年別		
		男子	女子	1年生	2年生	3年生
	(n=3,136)	(n=1,628)	(n=1,508)	(n=1,028)	(n=1,061)	(n=1,047)
運動部のみ加入	41.9	48.6	34.7	42.5	41.8	41.5
文化部のみ加入	24.6	15.0	34.9	25.7	24.6	23.5
スポーツクラブのみ加入	3.3	4.1	2.4	3.7	4.1	2.0
運動部とスポーツクラブに加入	9.6	12.3	6.6	10.0	10.1	8.6
文化部とスポーツクラブに加入	3.3	2.5	4.2	4.1	3.1	2.9
部活動・スポーツクラブ非加入	17.3	17.4	17.2	14.0	16.3	21.5

部活動やスポーツクラブへの加入状況を世帯年収別に確認した。なお、世帯年収に関する設問で「わからない・答えたくない」を選択した場合は、分析から除外している。

まず部活動の加入状況についてみると、運動部の加入率は世帯年収「400万円未満」では42.3%であったのに対し、ほかの群ではいずれも5割を超えていた(図表1-3-6)。文化部の加入率と世帯年収との間に明確な関連はみられなかったが、部活動非加入の割合は「400万円未満」で28.7%、「600万円未満」で21.2%と、ほかの群に比べて高かった。スポーツクラブの加入率も「400万円未満」では9.0%と最も低く、「1,000万円未満」「1,000万円以上」ではいずれも2割を超えていた(図表1-3-7)。

部活動とスポーツクラブを合わせた加入パターンでは、「運動部とスポーツクラブに加入」は「1,000万円未満」13.8%、「1,000万円以上」13.4%とほかの群より高い割合を示した(図表1-3-8)。これに対し「400万円未満」では「部活動・スポーツクラブ非加入」が25.5%と高く、家庭の経済状況と部活動やスポーツクラブへの加入状況との間に一定の関連が示唆された。

図表 1-3-6 部活動の加入状況(世帯年収別)

(%)

	400万円 未満	600万円 未満	800万円 未満	1,000万円 未満	1,000万円 以上
	(n=310)	(n=476)	(n=565)	(n=419)	(n=447)
運動部	42.3	54.6	51.3	56.3	53.2
文化部	29.0	24.2	31.7	27.9	28.9
部活動非加入	28.7	21.2	17.0	15.8	17.9

図表 1-3-7 スポーツクラブの加入状況(世帯年収別)

(%)

	400万円 未満	600万円 未満	800万円 未満	1,000万円 未満	1,000万円 以上
	(n=310)	(n=476)	(n=565)	(n=419)	(n=447)
スポーツクラブ加入	9.0	15.8	16.5	21.5	21.7
スポーツクラブ非加入	91.0	84.2	83.5	78.5	78.3

図表 1-3-8 部活動・スポーツクラブの加入パターン(世帯年収別)

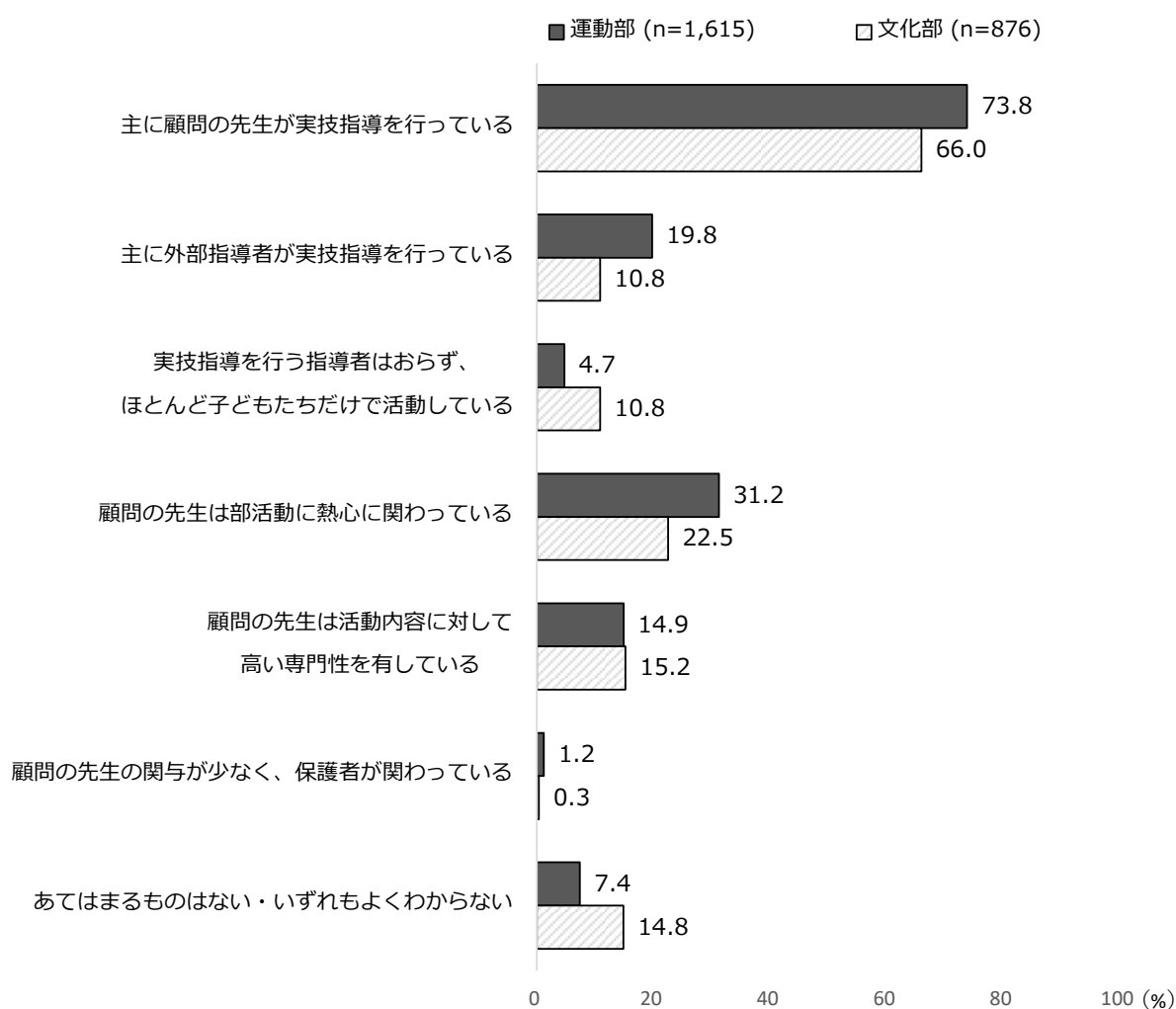
(%)

	400万円 未満	600万円 未満	800万円 未満	1,000万円 未満	1,000万円 以上
	(n=310)	(n=476)	(n=565)	(n=419)	(n=447)
運動部のみ加入	38.4	44.1	41.6	42.5	39.8
文化部のみ加入	27.1	21.8	28.1	24.1	24.2
スポーツクラブのみ加入	3.2	2.9	3.2	3.8	3.6
運動部とスポーツクラブに加入	3.9	10.5	9.7	13.8	13.4
文化部とスポーツクラブに加入	1.9	2.3	3.5	3.8	4.7
部活動・スポーツクラブ非加入	25.5	18.3	13.8	11.9	14.3

1.4 部活動の指導者

部活動の指導者について整理した。その結果、「主に顧問の先生が実技指導を行っている」が運動部・文化部ともに6割を超えていた(図表1-4)。運動部と文化部を比較すると、「主に顧問の先生が実技指導を行っている」は運動部73.8%、文化部66.0%(以下同)、「主に外部指導者が実技指導を行っている」は19.8%と10.8%、「顧問の先生は部活動に熱心に関わっている」は31.2%と22.5%で、いずれも運動部のほうが高かった。運動部では文化部に比べて、大人の関与が多い状況で活動が行われている可能性がある。一方、「実技指導を行う指導者はおらず、ほとんど子どもたちだけで活動している」は運動部4.7%、文化部10.8%で、文化部の割合が高かった。

図表 1-4 部活動の指導者

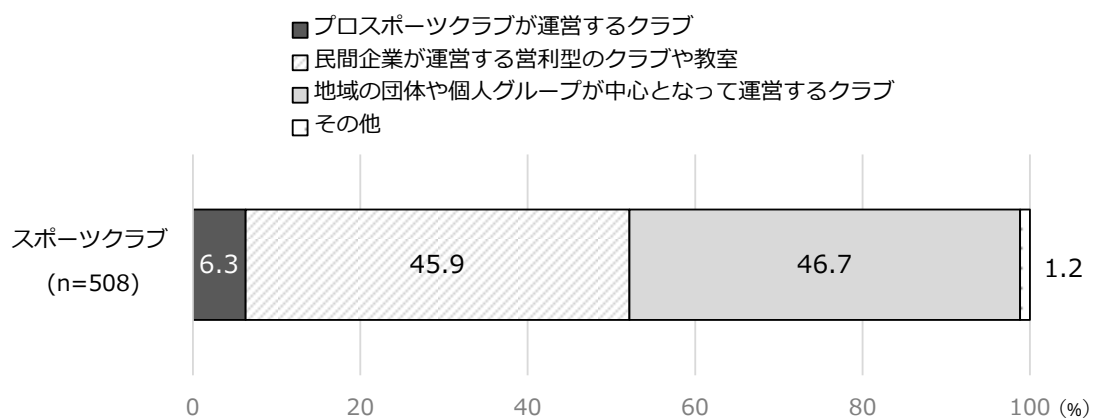


注 1) 複数回答。

1.5 スポーツクラブの運営団体

スポーツクラブの運営団体は、「民間企業が運営する営利型のクラブや教室」が 45.9%、「地域の団体や個人グループが中心となって運営するクラブ」が 46.7%で、両者を合わせると 9 割を超えていた(図表 1-5)。「プロスポーツクラブが運営するクラブ」は 6.3%であった。

図表 1-5 スポーツクラブの運営団体



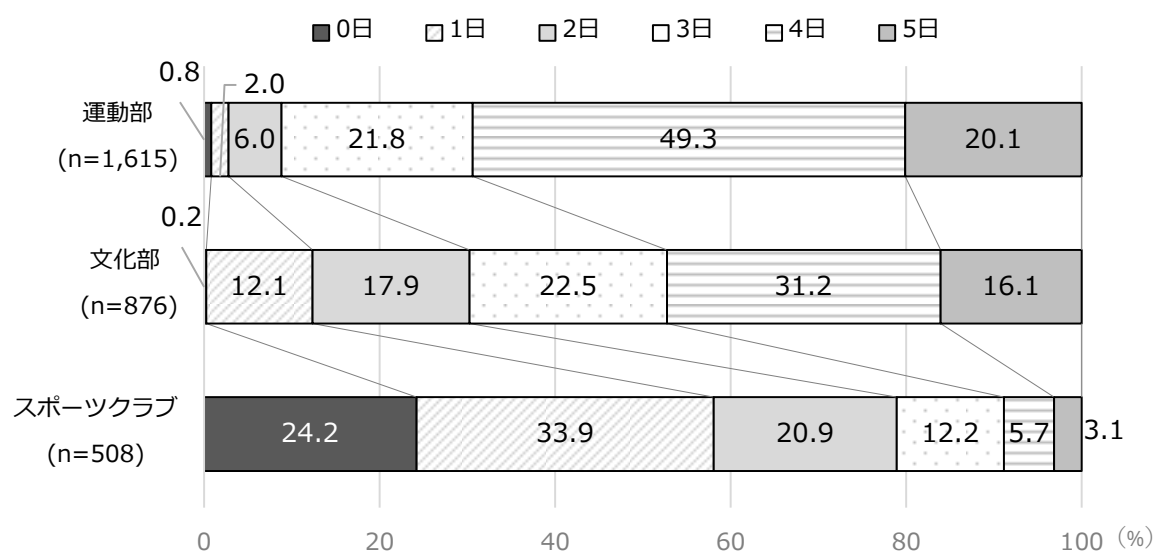
注 1) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「プロスポーツクラブが運営するクラブ(JリーグやBリーグ、その他トップリーグのジュニアチームなど)」、「民間企業が運営する営利型のクラブや教室(民間のスイミングスクールや体操教室、ゴルフスクールなど)」、「地域の団体や個人グループが中心となって運営するクラブ(スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、ボーイズリーグ・シニアリーグ、地域の道場など)」。

1.6 活動日数・活動時間

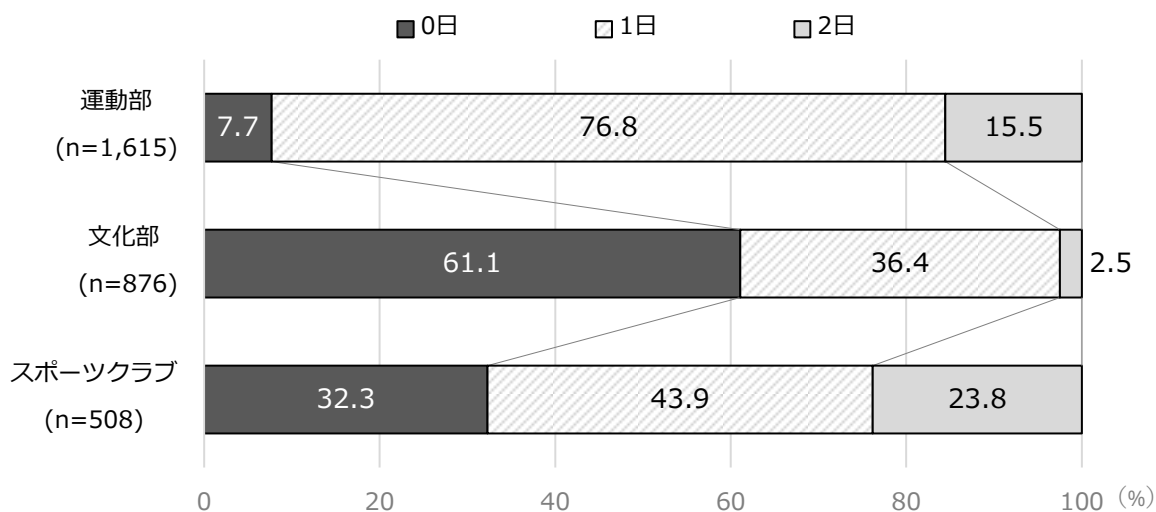
部活動やスポーツクラブの活動日数を整理した。まず平日の活動日数をみると、「4日」以上の割合は、運動部 69.4%、文化部 47.3%、スポーツクラブ 8.8%で、「3日」以下は、運動部 30.6%、文化部 52.7%、スポーツクラブ 91.2%であった(図表 1-6-1)。部活動はスポーツクラブよりも平日の活動日数が多い傾向がみられた。

次に休日の活動日数をみると、「0日」の割合は、運動部 7.7%、文化部 61.1%、スポーツクラブ 32.3%、「1日」は、運動部 76.8%、文化部 36.4%、スポーツクラブ 43.9%、「2日」は、運動部 15.5%、文化部 2.5%、スポーツクラブ 23.8%であった(図表 1-6-2)。運動部は大半が1日に集中している一方、スポーツクラブは0日や2日の割合も比較的高く、休日の活動日数は分散していることがわかる。

図表 1-6-1 活動日数(平日)



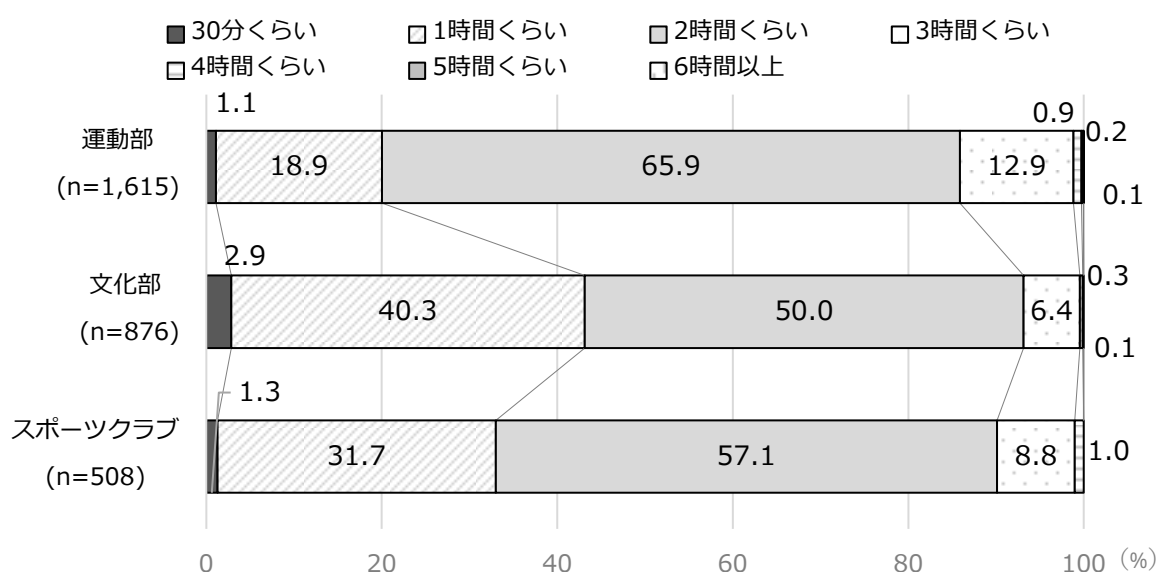
図表 1-6-2 活動日数(休日)



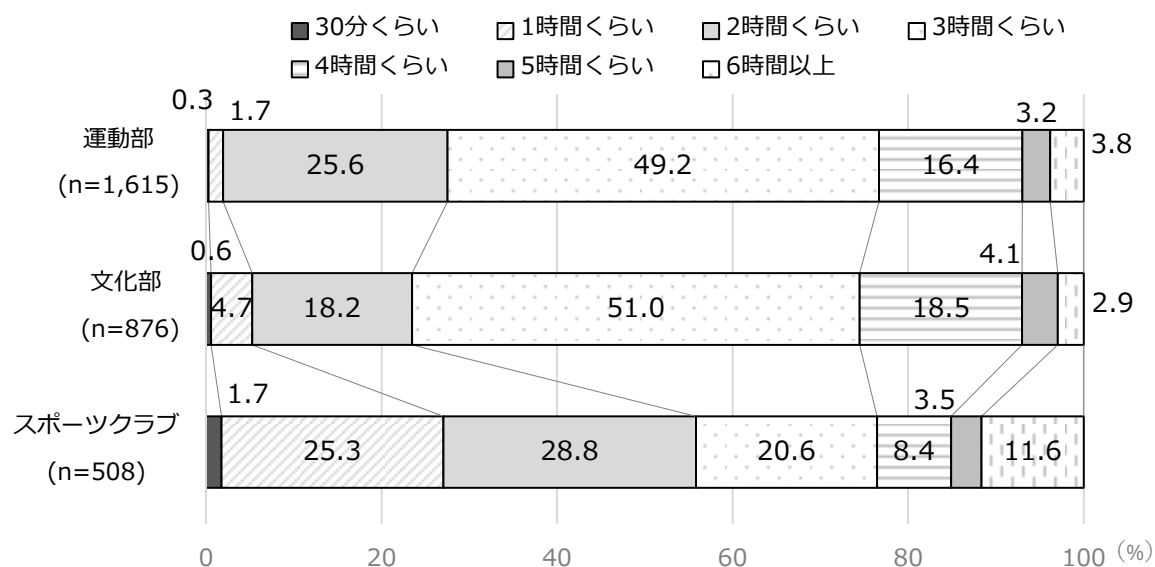
部活動やスポーツクラブの1回あたりの活動時間を整理した。まず平日の活動時間をみると、「2時間くらい」以上の割合は、運動部 80.0%、文化部 56.8%、スポーツクラブ 66.9%で、「1時間くらい」以下の割合は、運動部 20.0%、文化部 43.2%、スポーツクラブ 33.0%であった(図表 1-6-3)。運動部やスポーツクラブは、文化部より平日の活動時間が長い傾向がみられた。

次に休日の活動時間をみると、「3時間くらい」以上の割合は、運動部 72.6%、文化部 76.5%、スポーツクラブ 44.1%で、「2時間くらい」以下の割合は、運動部 27.6%、文化部 23.5%、スポーツクラブ 55.8%であった(図表 1-6-4)。休日の活動時間は、運動部や文化部がスポーツクラブよりも長い傾向にあった。ただし、図表 1-6-2 で確認したように、文化部は休日の活動日数 0 日の割合も高いため、まったく活動しない部と休日にも長時間活動する部に二極化していると推察される。

図表 1-6-3 活動時間(平日)



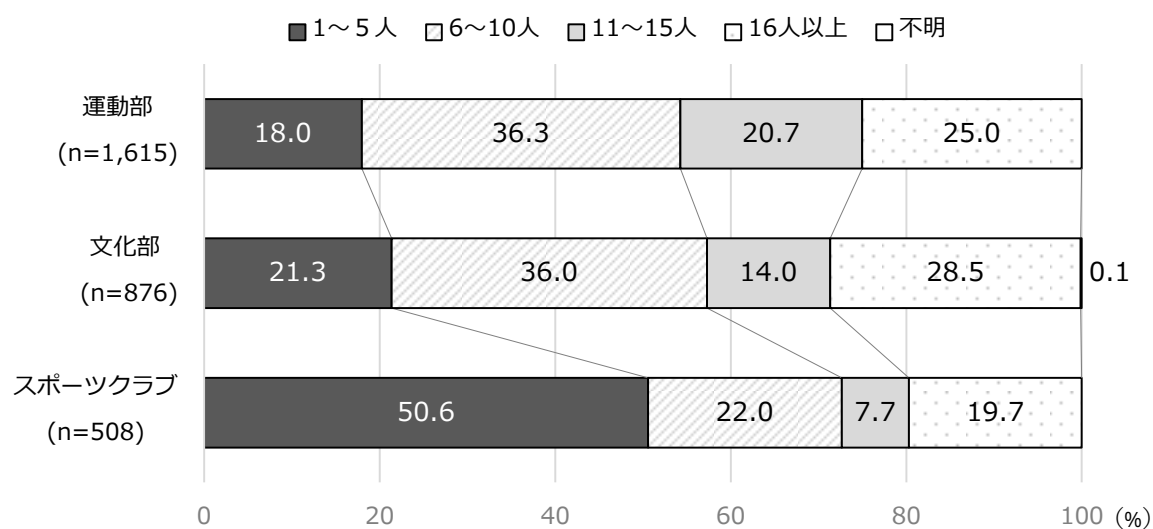
図表 1-6-4 活動時間(休日)



1.7 部員数・スポーツクラブ会員数

1 学年あたりの部活動の部員数およびスポーツクラブの会員数を整理した。運動部と文化部では、「6～10 人」の割合が最も高く、運動部 36.3%、文化部 36.0%であった(図表 1-7)。スポーツクラブでは「1～5 人」が 50.6%で最も高かった。また、11 人以上の割合を比較すると、運動部 45.7%、文化部 42.5%、スポーツクラブ 27.4%であった。1 チームあたりの人数は、運動部や文化部のほうがスポーツクラブよりも多い傾向がみられた。

図表 1-7 部員数・スポーツクラブ会員数



注 1) 運動部と文化部は「同学年の部員数」、スポーツクラブは「同学年の会員数」をたずねている。

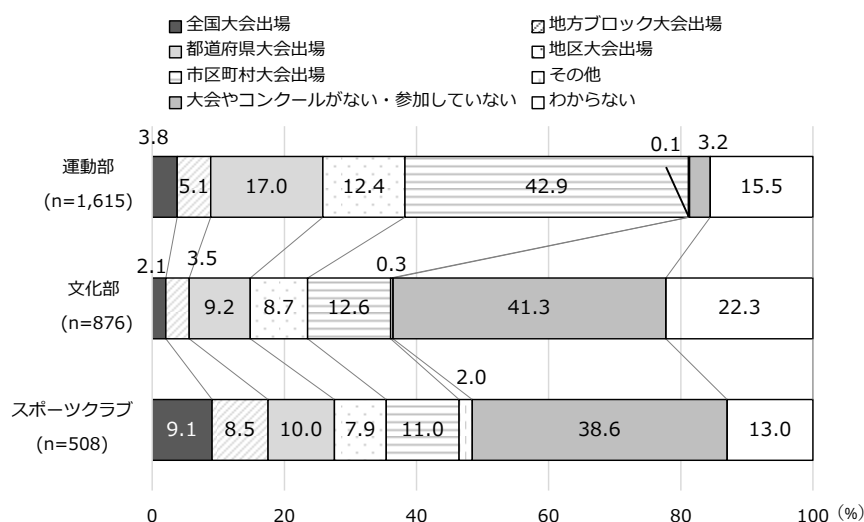
注 2) 文化部はデータクリーニングの過程で 1 件、異常値がみられたため「不明」とした。

1.8 大会・コンクールへの参加

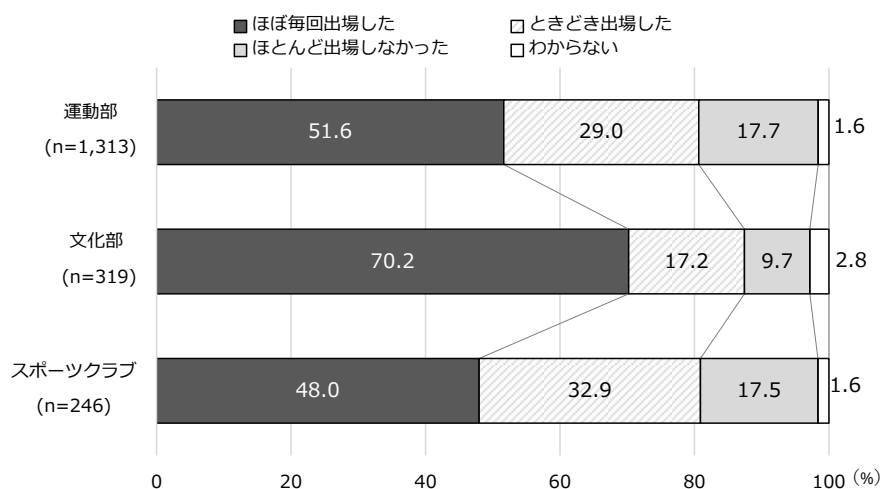
部活動やスポーツクラブの大会・コンクールへの参加状況を整理した。まず、子どもが加入しているチームが 2024 年度に出場した最も上位の大会やコンクールについてたずねたところ、運動部では「市区町村大会出場」が 42.9%、文化部とスポーツクラブでは「大会やコンクールがない・参加していない」がそれぞれ 41.3%、38.6%で最多であった(図表 1-8-1)。運動部とスポーツクラブを比較すると、「市区町村大会出場」から「都道府県大会出場」までを合計した割合は運動部 72.3%、スポーツクラブ 28.9%で運動部のほうが高く、「地方ブロック大会出場」と「全国大会出場」を合わせた割合は運動部 8.9%、スポーツクラブ 17.6%で、スポーツクラブのほうが高い傾向がみられた。

次に子ども自身がどれくらい大会やコンクールに出場したかをたずねたところ、「ほぼ毎回出場した」の割合は、運動部 51.6%、文化部 70.2%、スポーツクラブ 48.0%であった(図表 1-8-2)。図表 1-8-1 で確認したように、文化部は「大会やコンクールがない・参加していない」の割合が高い点に留意が必要だが、運動部やスポーツクラブに比べて大会やコンクールに出場できる機会は多いことがわかる。

図表 1-8-1 チームの大会・コンクール参加状況



図表 1-8-2 中学生の大会・コンクール参加頻度



注 1) 図表 1-8-1 で「全国大会出場」～「その他」のいずれかを選んだ場合のみ回答。

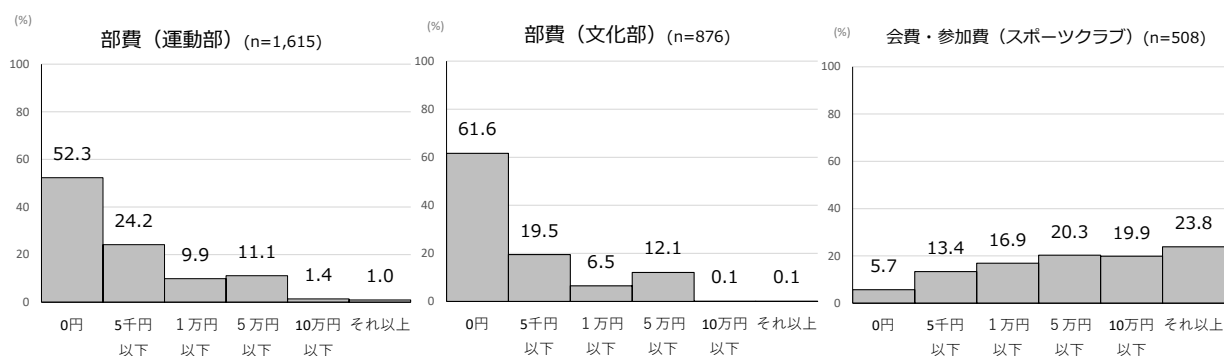
1.9 家庭が負担する費用

運動部・文化部およびスポーツクラブ加入者を対象に、活動に対して1年間で家庭から支払うおよその費用をたずねた。具体的な金額を数値で記入してもらい、自治体の補助金などが出ている場合は除いた金額を回答するよう指示した。

最初に費目ごとの傾向を確認する。まず運動部・文化部の部費、スポーツクラブの会費や参加費について、支出額の分布を示した(図表 1-9-1)。部費については「0 円」が最も多く、運動部 52.3%、文化部 61.6%が該当した。多くの部では、部費を徴収せずに活動していることがわかる。次いで多かったのは「5 千円以下」で、運動部 24.2%、文化部 19.5%であった。5 万円を超える支出はわずかな割合にとどまった。

一方、スポーツクラブの会費や参加費では「0 円」の割合は 5.7%と少なく、部活動に比べて有料の活動が一般的であるといえる。支出額は低額から 10 万円超まで幅広く分布し、平均値は 68,172 円、中央値は 36,000 円であった。

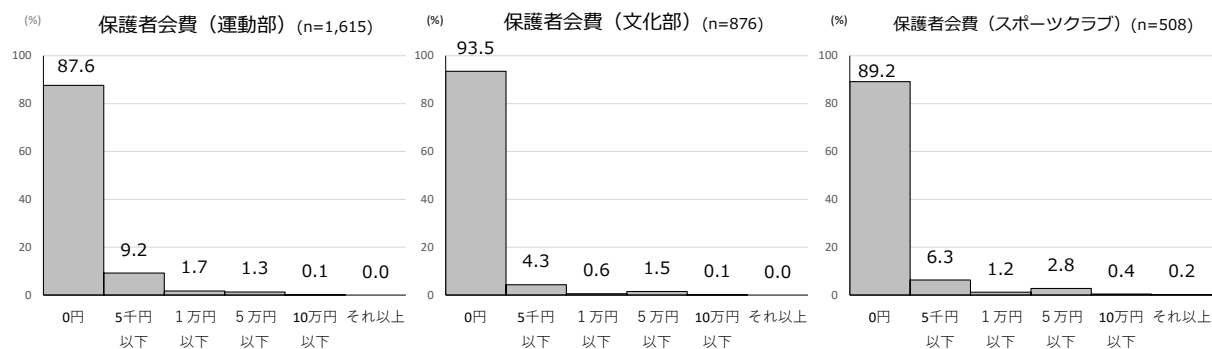
図表 1-9-1 部費・会費



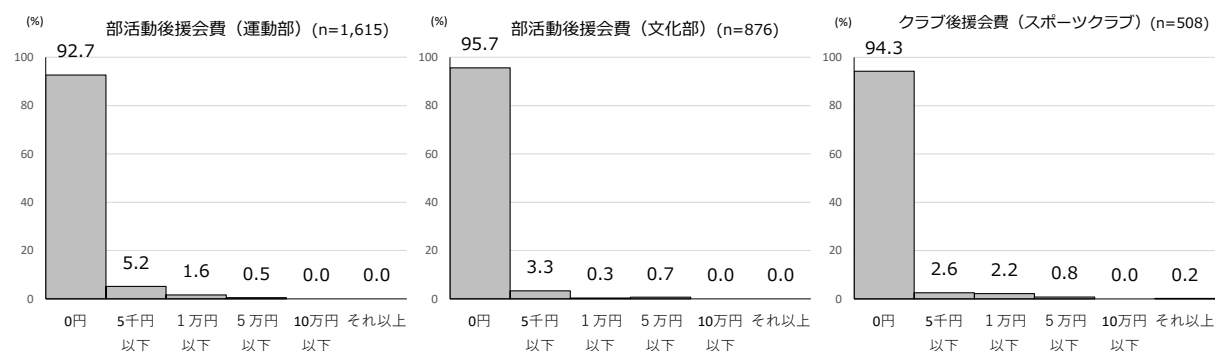
続いて保護者会費を確認する(図表 1-9-2)。運動部・文化部・スポーツクラブいずれにおいても「0 円」が約 9 割を占め、最も多かった。多くの部で保護者会費は徴収されていないことがわかる。次に多かったのはいずれも「5 千円以下」であった。

部活動後援会費やクラブ後援会費についても、「0 円」が 9 割を超え、次いで「5 千円以下」が多かった(図表 1-9-3)。保護者会費と同様の傾向がみられる。

図表 1-9-2 保護者会費



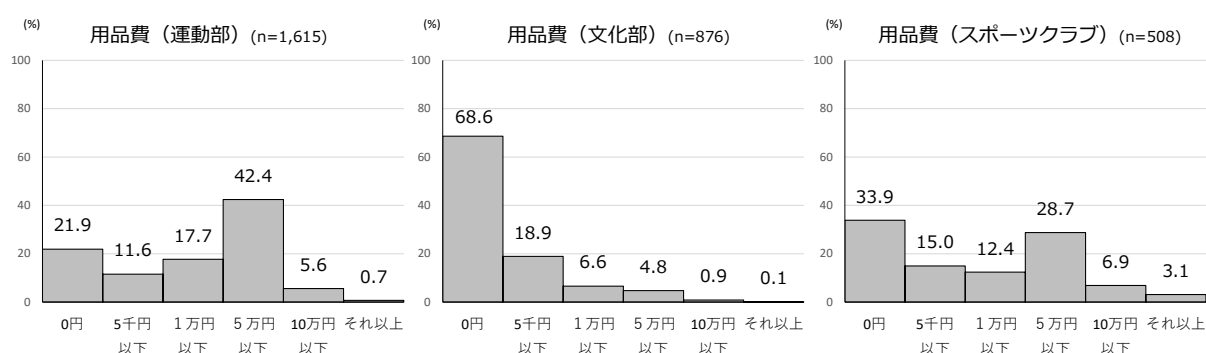
図表 1-9-3 部活動・クラブ後援会費



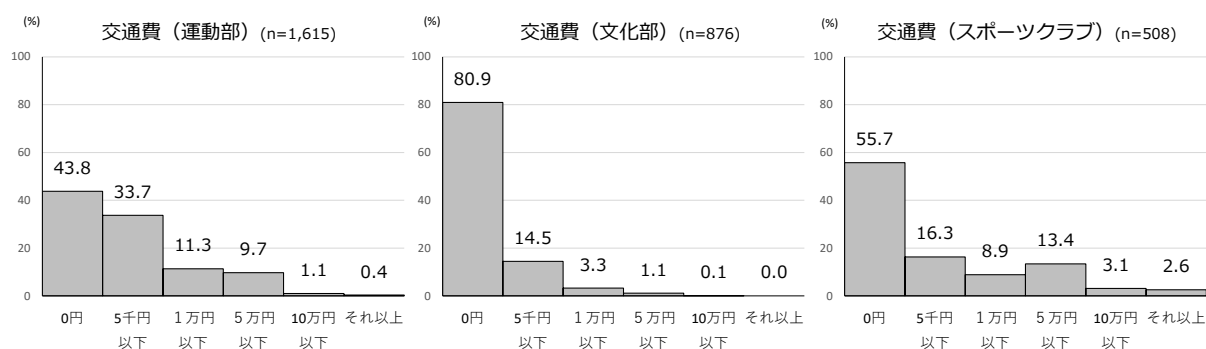
活動に使用する用具・道具、ユニフォームや衣装などの購入費や修理代をあわせて用品費としてたずねた(図表 1-9-4)。運動部では「5 万円以下」が 42.4%と最も多く、「0 円」21.9%が続いた。文化部では「0 円」が 68.6%にのぼり、次いで「5 千円以下」18.9%であった。運動部では比較的用品費が高いのに対し、文化部では支出がないケースが多いことがわかる。スポーツクラブについては、分布の傾向や平均値・中央値も運動部と比べて大差はなかった。

続いて交通費を確認する(図表 1-9-5)。運動部では「0 円」43.8%、「5 千円以下」33.7%をあわせて 8 割近くを占めた。文化部は「0 円」が 80.9%と突出している。スポーツクラブでは「0 円」が 55.7%を占める一方、「5 万円以下」13.4%、「10 万円以下」3.1%、「それ以上」2.6%と、部活動に比べて高額になるケースが多い傾向がみられた。

図表 1-9-4 用品費



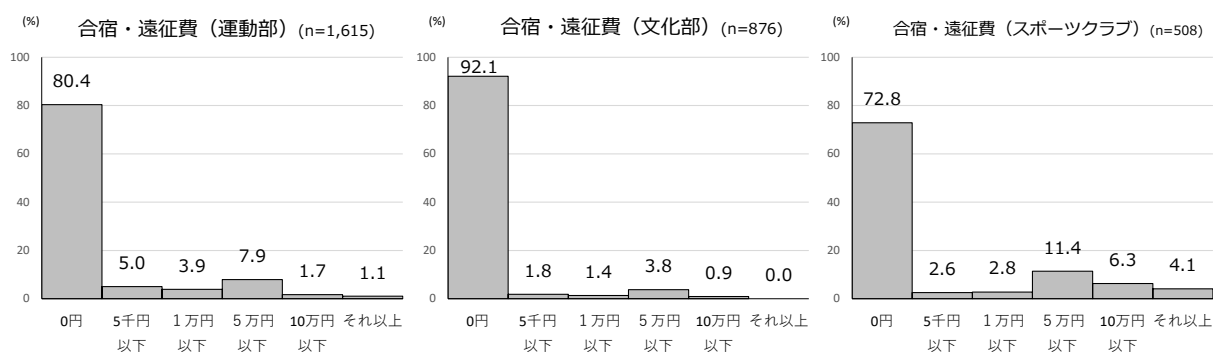
図表 1-9-5 交通費



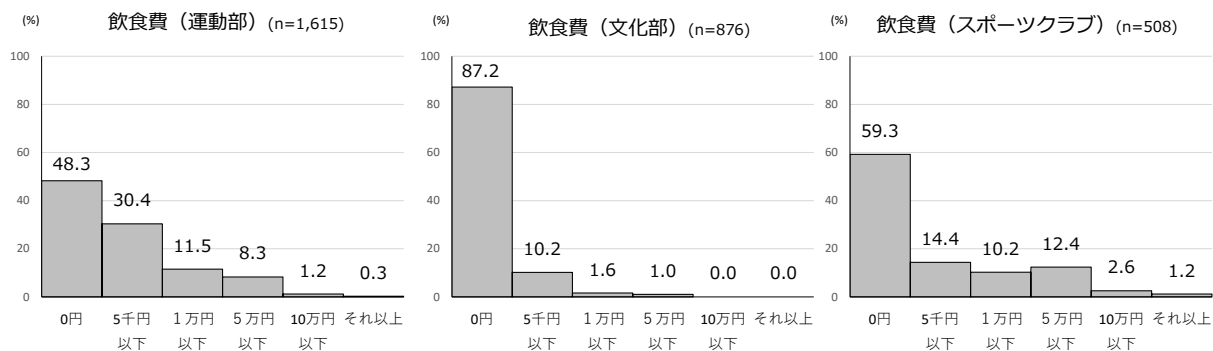
合宿・遠征費を確認すると、いずれも最も多かったのは「0 円」で、運動部 80.4%、文化部 92.1%、スポーツクラブ 72.8%であった(図表 1-9-6)。次に多かったのは「5 万円以下」で、合宿や遠征を実施している場合には1～5 万円程度の支出が中心である。スポーツクラブでは「10 万円以下」6.3%、「それ以上」4.1%と、比較的高額な支出が生じているケースも確認された。

練習や試合時に必要な昼食代や軽食代、飲み物代などを飲食費としてたずねた(図表 1-9-7)。運動部では「0 円」が 48.3%と文化部やスポーツクラブに比べて低く、何らかの飲食費を支出している家庭が多い。文化部は「0 円」が 87.2%で、大半が飲食費を必要とはしていない。スポーツクラブでは「0 円」が 59.3%を占める一方、「5 万円以下」が 12.4%と部活動に比べて高い傾向がみられた。

図表 1-9-6 合宿・遠征費



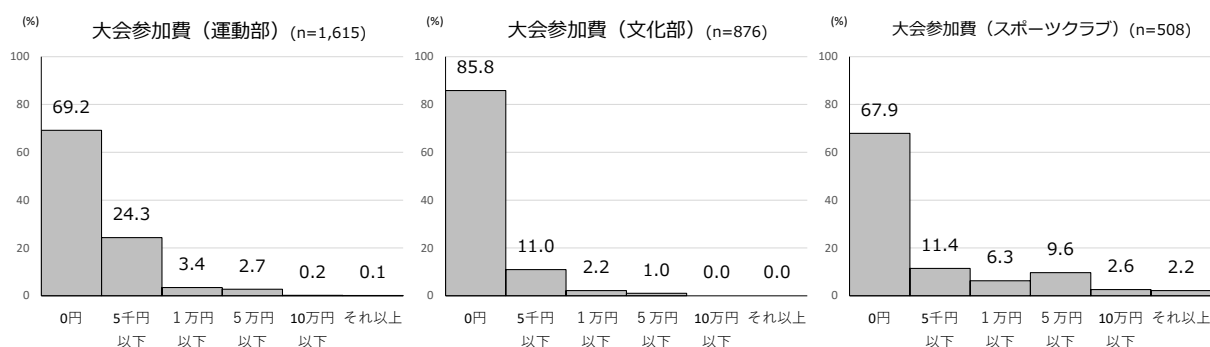
図表 1-9-7 飲食費



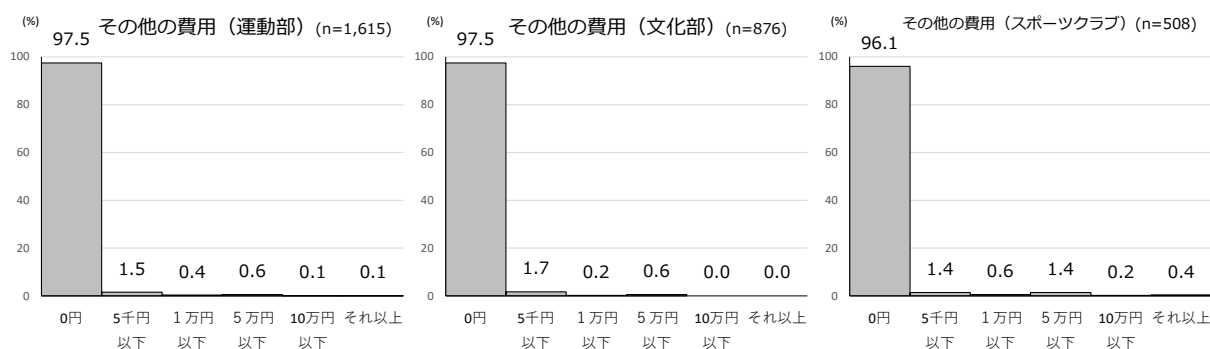
大会やコンクール、発表会への参加費をたずねた(図表 1-9-8)。なお、「その他の費用」に記載された「検定料」「登録料」などは、この大会参加費に含めて集計している。運動部では「0 円」69.2%、「5 千円以下」24.3%、文化部ではそれぞれ 85.8%、11.0%、スポーツクラブでは 67.9%、11.4%であり、いずれも大半が 5 千円以下に収まっていた。文化部では「0 円」の割合が特に高く、大会やコンクールへの参加自体が少ないことが影響していると考えられる。

最後に「その他の費用」について確認した(図表 1-9-9)。運動部・文化部・スポーツクラブのいずれにおいても約 97%が「0 円」と回答した。費用が発生している場合、具体的には「指導者への謝礼」「親睦会や送別会の会費」「練習場所の使用料」などがあげられた。

図表 1-9-8 大会参加費



図表 1-9-9 その他の費用

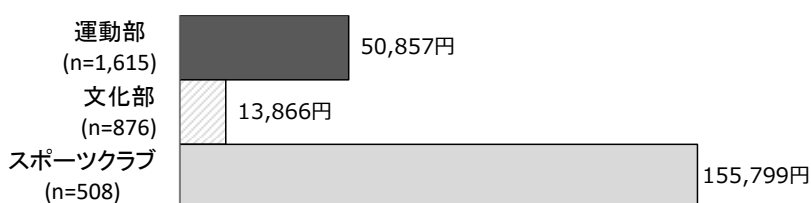


ここまで確認してきた費目別の支出額をもとに総額を算出し、平均値を求めた(図表 1-9-10)。平均値は運動部 50,857 円、文化部 13,866 円、スポーツクラブ 155,799 円で、スポーツクラブは運動部の約 3 倍であった。ただし、金額は個人差が大きく、一部に高額なケースもあるため、平均値の解釈には慎重を要する。なお、外れ値の影響を考慮した処理を施しても、スポーツクラブの費用が運動部の約 3 倍である傾向に変化はみられなかった。

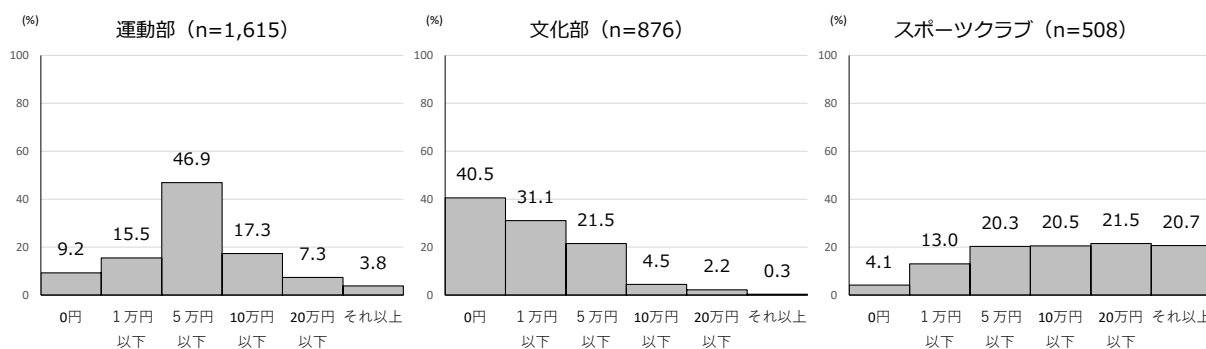
金額の分布をみると、運動部は「5 万円以下」に半数近くが集中しているが、「0 円」や 10 万円を超える金額もそれぞれ約 1 割みられ、支出額には幅がある(図表 1-9-11)。文化部は「0 円」が 40.5%と最も多く、金額が上がるにつれて割合は漸減する。スポーツクラブでは「0 円」が 4.1%と部活動に比べて低く、「5 万円以下」から「それ以上」までほぼ均等に分布していた。

運動部・文化部・スポーツクラブそれぞれについて、費目ごとの合計額を総支出額の合計で除し、費用の内訳を算出した(図表 1-9-12)。運動部では「用品費」の割合が最も高く、41.2%を占めた。次いで「合宿・遠征費」14.2%、「部費」13.2%であった。文化部では「部費」が 31.4%と最も高く、「用品費」25.9%、「合宿・遠征費」15.6%が続いた。スポーツクラブでは「会費・参加費」が 43.8%と突出し、「用品費」14.1%、「合宿・遠征費」13.2%が続く。

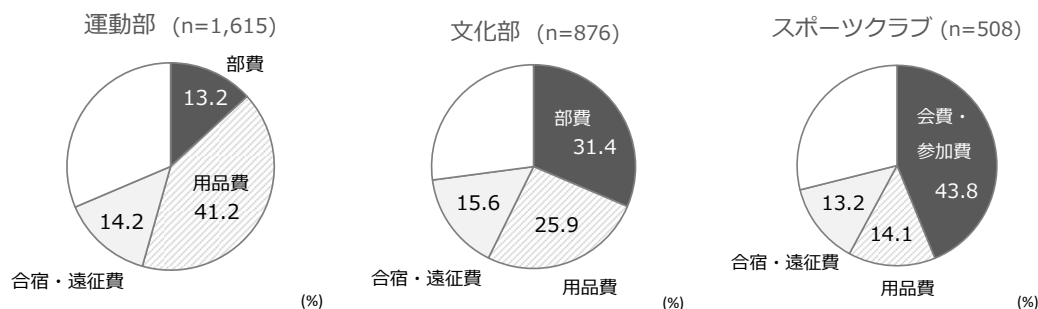
図表 1-9-10 費用総額(平均値)



図表 1-9-11 費用総額の分布



図表 1-9-12 費用総額の内訳(上位 3 費目)



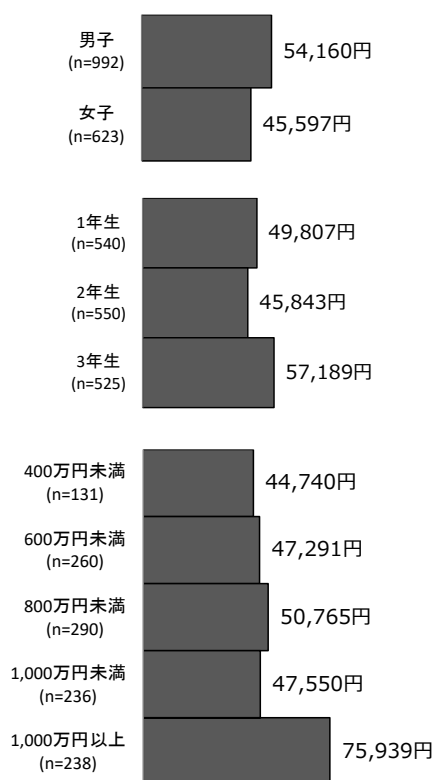
注 1) 白色の部分は 4 位以降の費目の合計を示す。

続いて運動部およびスポーツクラブにおける費用総額の平均値を、属性別に確認する(図表 1-9-13、1-9-14)。まず子どもの性別にみると、運動部では男子 54,160 円、女子 45,597 円であった。スポーツクラブでは男子 142,998 円、女子 175,676 円で、女子のほうが約 3 万円高かった。女子の回答にはバレエやダンス、乗馬において会費・大会参加費が高額となる例や、留学費用が発生したケースが含まれ、年間の費用総額が 100 万円を超える事例が複数みられた。これらの影響により、平均値が押し上げられたと考えられる。

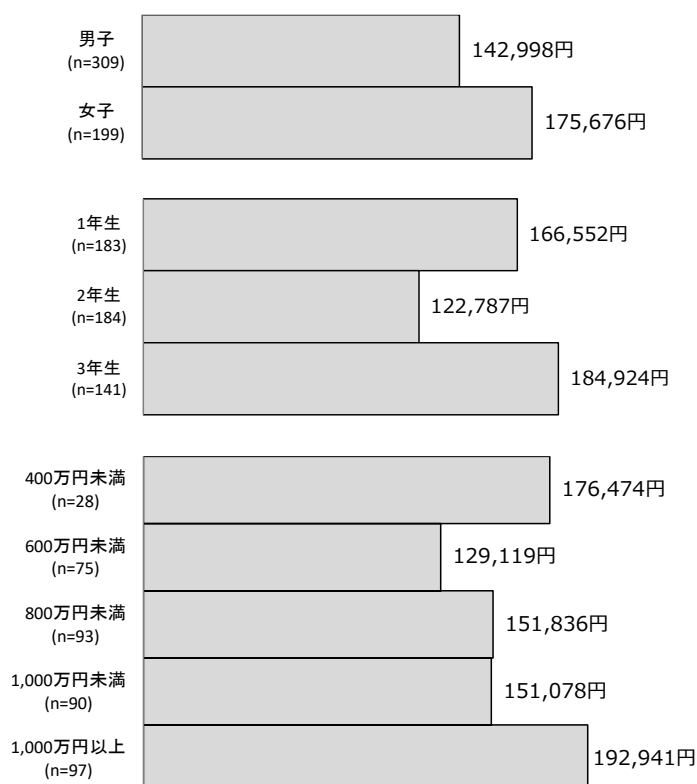
学年別では、運動部・スポーツクラブともに 2 年生がほかの学年より低い傾向にあった。図表は割愛するが、1 年生では用品費、3 年生では交通費や合宿・遠征費が高いのに対し、2 年生にはほかの学年と比べて高額な費目がみられず、合計値は低くなっている。

世帯年収別にみると、運動部では「1,000 万円以上」の群が 7 万円台と顕著に高かったが、その他の群では 4～5 万円台で差はみられなかった。「1,000 万円以上」の群は約 2 割が私立中学校に在籍し、図表 1-9-15 に示す中学校の種類による違いの影響が考えられる。スポーツクラブについても「1,000 万円以上」は 19 万円台とほかの群より高額であった。なお、「400 万円未満」はケース数が 28 と少なく、慎重な解釈が求められる。

図表 1-9-13 運動部の費用総額平均値
(子どもの性別、学年別、世帯年収別)



図表 1-9-14 スポーツクラブの費用総額平均値
(子どもの性別、学年別、世帯年収別)

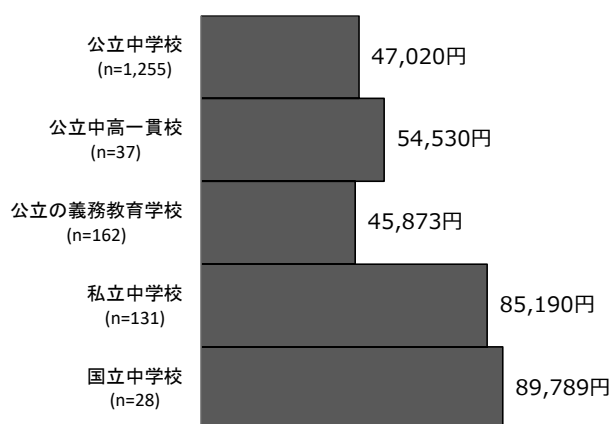


運動部の費用を中学校の種類別にみると、公立では 4～5 万円台であるのに対し、私立および国立の中学校では 8 万円台となった(図表 1-9-15)。スポーツクラブの費用を運営団体別にみると、「民間企業が運営する営利型のクラブや教室」では 166,196 円、「地域の団体や個人グループが中心となって運営するクラブ」では 148,761 円で、2 万円弱の差があった(図表 1-9-16)。

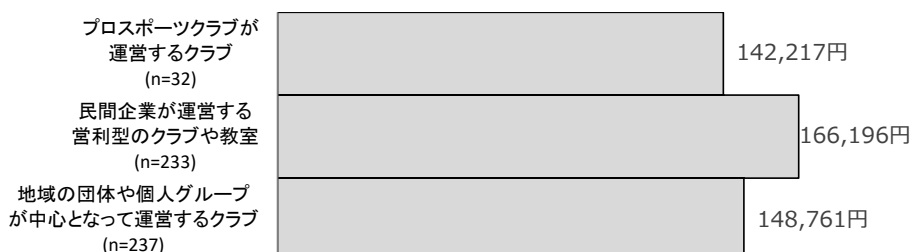
所属するチームの出場した大会別にみると、運動部では「全国大会出場」が 207,066 円と突出して高く、「地方ブロック大会出場」96,489 円、「都道府県大会出場」57,459 円と徐々に低くなり、「大会やコンクールがない・参加していない」は 25,806 円であった(図表 1-9-17)。「全国大会出場」には高額な支出を伴うケースが含まれ、平均値を押し上げている側面はあるが、それらを調整してもチームの成績別では最も高かった。なお図表は割愛するが、「全国大会出場」では保護者会費を除くすべての費目で支出が最も多く、平均値は部費 29,518 円、用品費 49,180 円、交通費 30,278 円、合宿・遠征費 59,967 円などとなっている。

スポーツクラブでも「全国大会出場」が 422,915 円と最も高く、「大会やコンクールがない・参加していない」が 81,867 円と最も低かった(図表 1-9-18)。運動部と同様に、「全国大会出場」には一部に高額な支出が含まれているが、調整してもほかの群より高い水準であった。また、2 つの図表で同じ大会レベルの金額を比べると、いずれもスポーツクラブの費用は運動部の 2～3 倍にのぼることがわかる。

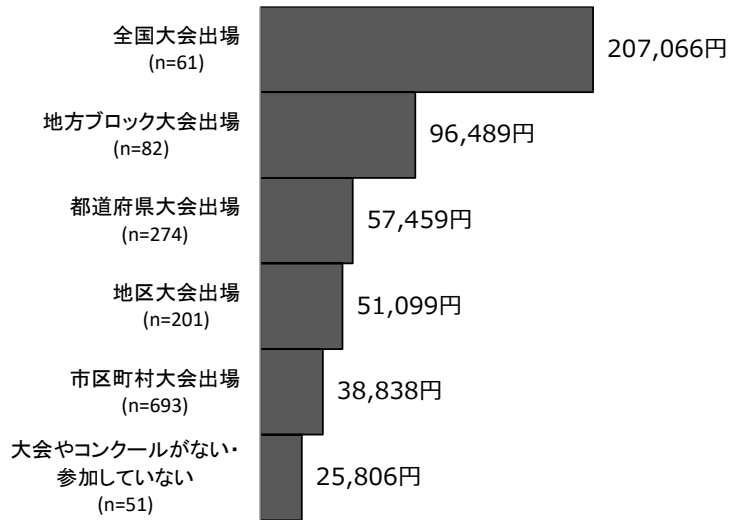
図表 1-9-15 運動部の費用総額平均値(中学校の種類別)



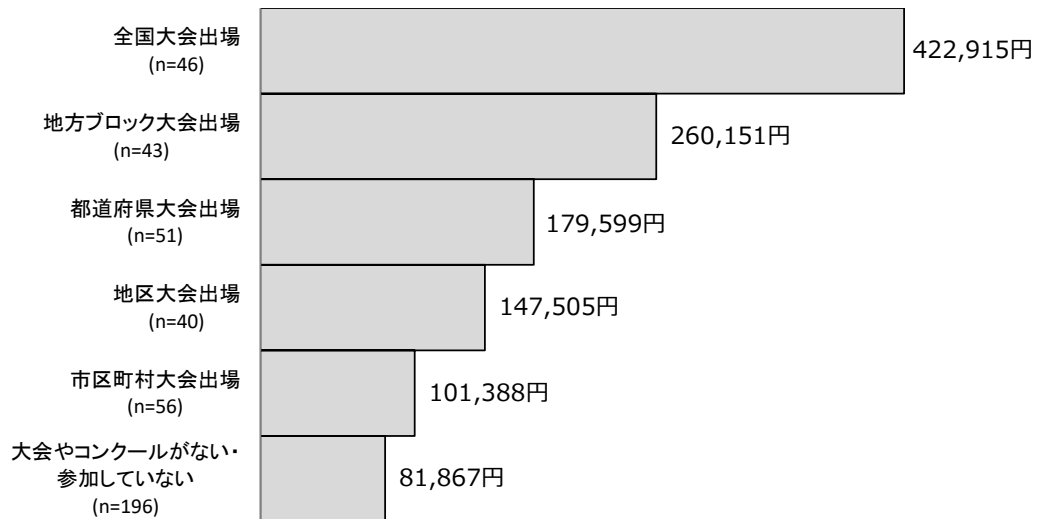
図表 1-9-16 スポーツクラブの費用総額平均値(運営団体別)



図表 1-9-17 運動部の費用総額平均値(大会別)



図表 1-9-18 スポーツクラブの費用総額平均値(大会別)



注 1) 図表 1-9-17 および 1-9-18 では、ほかのグラフとは異なり目盛りの最大値を 45 万円に設定している。

部活動およびスポーツクラブにかかる費用の総額を、種目別に確認した。ここでは度数が 10 以上の種目に限定し、平均値の高い順に整理している。種目別にみるとそれぞれの度数が小さくなるため、金額の高い個人が含まれると平均値が上がりやすい点には留意が必要である。実際、図表の上位の活動にはそのようなケースが含まれており、調整すると平均値が変動する活動もみられたが、全体的な傾向が大きく変わることはなかった。

運動部をみると、硬式野球が約 14 万円、ハンドボール、サッカー、水泳、剣道、ソフトボール、テニス、陸上競技の 7 競技が 5 万円以上で、運動部全体の平均値を超えていた(図表 1-9-19)。文化部では合唱、器楽・管弦、吹奏楽が 3～4 万円台であったが、全体的に低額で年間 1 万円を下回る活動も多くみられた。スポーツクラブをみると、上位 8 種目で年間の負担額が 10 万円を超えていた(図表 1-9-20)。また、「水泳」「剣道」以外の種目では、部活動に比べて高い支出額であった。

図表 1-9-19 部活動の費用総額(種目別)

	平均値(円)	度数
硬式野球	145,342	19
ハンドボール	94,675	16
サッカー	92,517	128
水泳	88,356	32
剣道	66,939	59
ソフトボール	64,972	18
テニス	60,664	57
陸上競技	52,660	207
ソフトテニス	48,600	204
軟式野球	47,471	123
合唱	46,548	21
器楽・管弦	44,063	16
柔道	41,364	11
その他の武道	40,294	17
ダンス	38,767	12
バスケットボール	37,463	203
バドミントン	33,337	139
バレーボール	32,391	134
卓球	31,516	212
吹奏楽	30,053	255
演劇	11,657	23
文芸	8,050	10
自然科学	6,435	61
その他の文化部の活動	5,868	19
書道	5,779	19
茶道	4,014	31
家庭科	3,055	21
美術・工芸	2,683	243
パソコン	2,530	66
囲碁・将棋	1,600	10
調理	1,077	13

図表 1-9-20 スポーツクラブの費用総額(種目別)

	平均値(円)	度数
バレエ	476,217	23
硬式野球	297,778	27
サッカー	254,130	46
卓球	176,188	16
テニス	169,518	28
ダンス	157,593	57
軟式野球	141,304	23
バスケットボール	102,084	32
その他の武道	82,850	41
ソフトテニス	78,643	23
水泳	78,519	107
剣道	63,820	15
体操教室	47,918	11

注 1) 度数が 10 以上の種目や活動のみを示している。

注 2) 図表 1-9-19 の二重線は運動部の平均値、点線は文化部の平均値、図表 1-9-20 の二重線はスポーツクラブの平均値の位置を示す。

1.10 部活動・スポーツクラブにある保護者の組織

部活動・スポーツクラブにある保護者の組織について整理した。まず、加入している部活動・スポーツクラブに「学校から保護者への説明や保護者同士の懇談が行われる集まり(以下、「説明・懇談」)」、「部の活動を支援する保護者会や後援会などの組織(以下、「保護者会・後援会」)」、「保護者が務める役員(以下、「役員」)」、および「あてはまるものはない」がどの程度の割合で存在しているのか確認する(図表 1-10-1)。

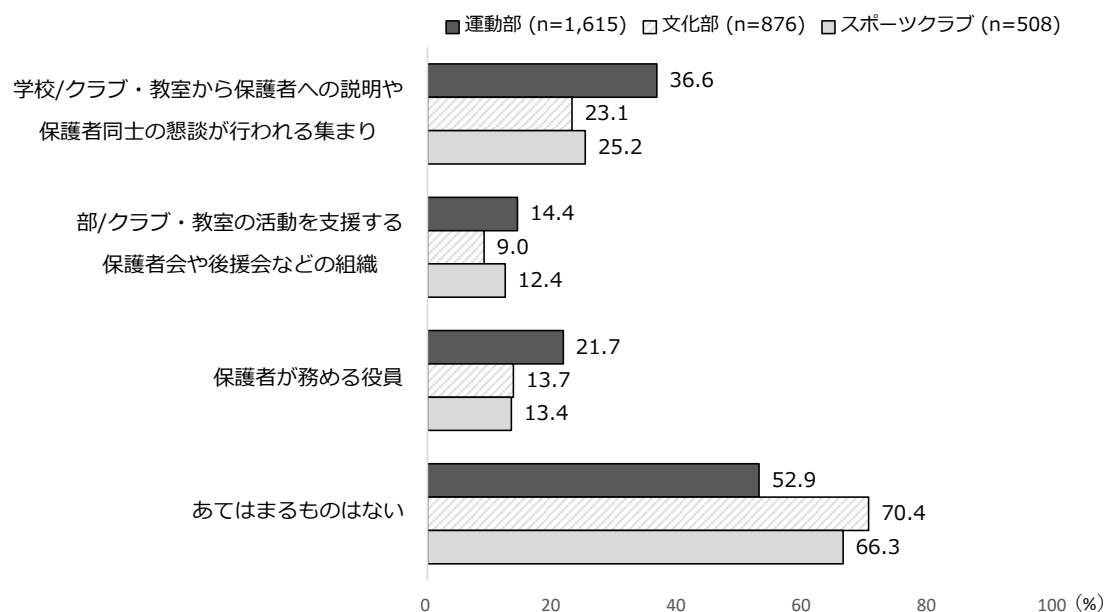
全体的な傾向として、運動部・文化部・スポーツクラブのいずれも「あてはまるものはない」が過半数を占めていた。3 群を比較すると、文化部が 70.4%で最も高く、運動部が 52.9%で最も低かった。「あてはまるものはない」を除くと、いずれの群でも最も多いのは「説明・懇談」で運動部が 36.6%、ほかの群は 2 割強であった。「保護者会・後援会」は 3 群ともに 1 割前後、「役員」は運動部で 21.7%、ほかの 2 群では約 13%であった。3 つの組織はいずれも運動部に最も多く存在し、特に「説明・懇談」「役員」がほかの 2 群と比較して多い傾向がみられた。

次に、回答した保護者がこれらの組織に実際に参加している割合を確認した。図表は部活動・スポーツクラブの比較、運動部に所属する子の母親と父親の比較、スポーツクラブに所属する子の母親と父親の比較の順に示している。まず、部活動・スポーツクラブを比較すると、全体的な傾向として運動部・文化部・スポーツクラブのいずれも「あてはまるものはない」が 6 割以上を占めていた(図表 1-10-2)。3 群の中では文化部が 80.4%で最も高く、運動部が 65.2%で最も低かった。参加している組織に着目するといずれも運動部の割合が最も高く、「説明・懇談」27.2%、「保護者会・後援会」10.5%、「役員」10.6%であった。文化部はいずれも最も低く、「説明・懇談」は 16.1%と運動部を 10 ポイント以上下回った。

続いて運動部に所属する子どもをもつ母親と父親で比較すると、「あてはまるものはない」が母親 56.0%、父親 74.1%で、母親のほうが組織に参加している割合が高い(図表 1-10-3)。なかでも「説明・懇談」は母親 36.0%、父親 18.8%で大きな差がみられた。「保護者会・後援会」「役員」についても差は小さいものの、いずれも母親のほうが参加している傾向にある。

スポーツクラブに所属する子どもをもつ母親と父親を比較すると、「あてはまるものはない」の割合には差がなく、唯一 5 ポイント以上の差がみられたのは「役員」で母親 9.7%、父親 4.4%であった(図表 1-10-4)。スポーツクラブでは運動部に比べて、全体的に母親と父親の差は小さかった。

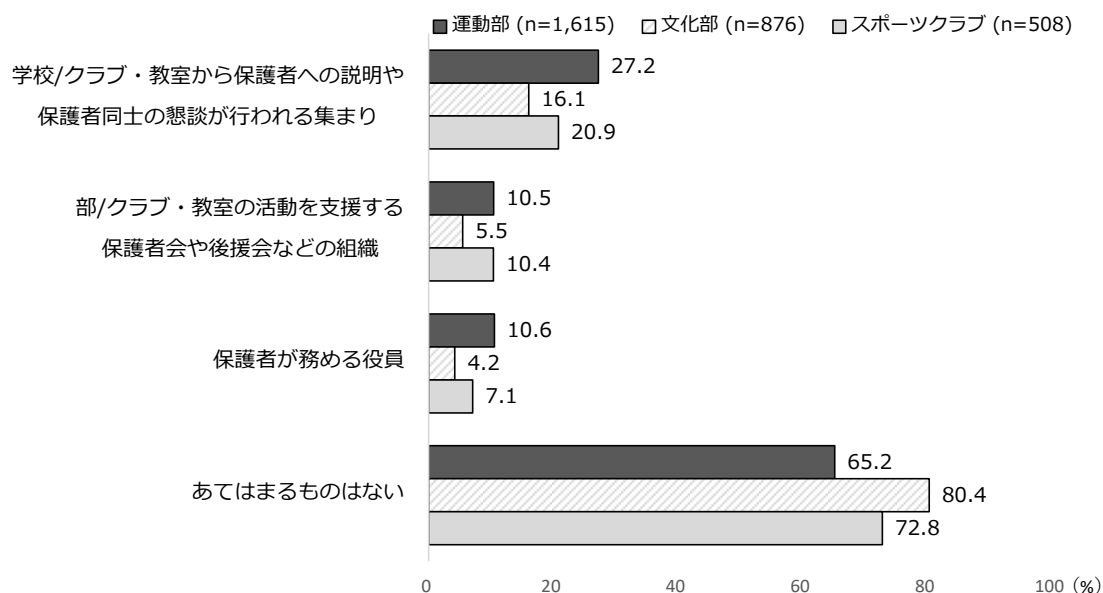
図表 1-10-1 部活動・スポーツクラブにある保護者の組織



注 1) 複数回答。

注 2) 質問紙上では、「保護者が務める役員」は「代表、会計、書記など」という注釈をつけている。

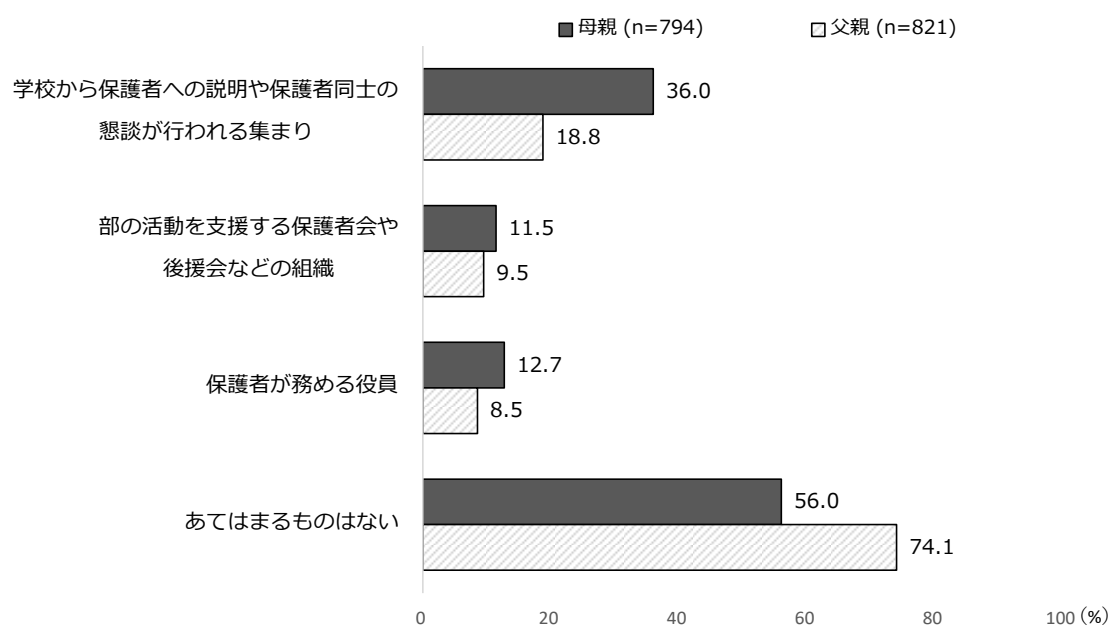
図表 1-10-2 保護者が参加している組織



注 1) 複数回答。

注 2) 質問紙上では、「保護者が務める役員」は「代表、会計、書記など」という注釈をつけている。

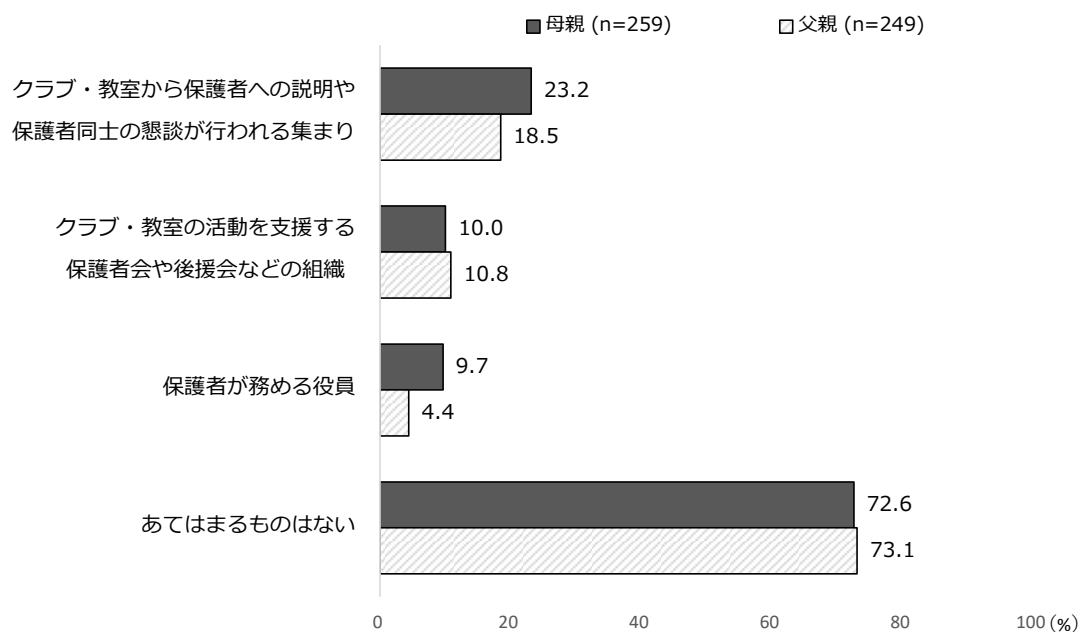
図表 1-10-3 保護者が参加している組織（運動部/母親・父親別）



注 1) 複数回答。

注 2) 質問紙上では、「保護者が務める役員」は「代表、会計、書記など」という注釈をつけている。

図表 1-10-4 保護者が参加している組織（スポーツクラブ/母親・父親別）



注 1) 複数回答。

注 2) 質問紙上では、「保護者が務める役員」は「代表、会計、書記など」という注釈をつけている。

1.11 保護者の関与

部活動・スポーツクラブでの保護者の関与について整理した。全体的な傾向として、運動部・文化部・スポーツクラブいずれの群も「お子様の送迎をする」「お子様の飲み物や食事を用意する」などの自身の子どもに関する項目、「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」「保護者間の連絡や情報共有を行う」といった情報共有の項目が高い割合を示した(図表 1-11-1)。

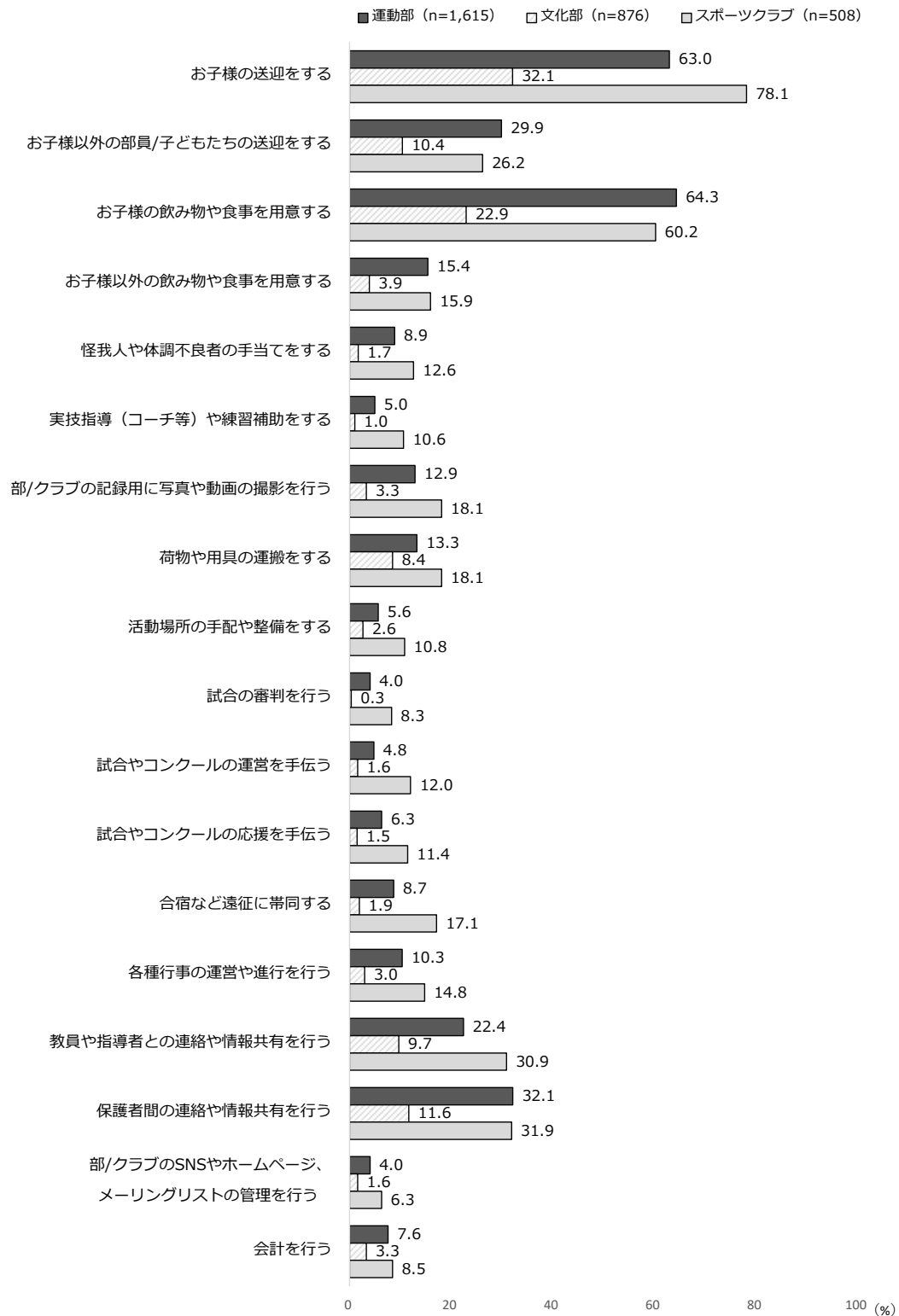
文化部は運動部やスポーツクラブと比べて、いずれの項目でも低い割合を示した。なかでも、「お子様の送迎をする」「お子様以外の部員/子どもたちの送迎をする」「お子様の飲み物や食事を用意する」「お子様以外の飲み物や食事を用意する」「怪我人や体調不良者の手当てをする」「部/クラブの記録用に写真や動画の撮影を行う」「合宿など遠征に帯同する」「各種行事の運営や進行を行う」「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」「保護者間の連絡や情報共有を行う」では、5 ポイント以上の差がみられた。また、運動部との差は小さいものの、スポーツクラブと比較すると「実技指導(コーチ等)や練習補助をする」「荷物や用具の運搬をする」「活動場所の手配や整備をする」「試合の審判を行う」「試合やコンクールの運営を手伝う」「試合やコンクールの応援を手伝う」「会計を行う」でも 5 ポイント以上の差がみられ、すべての項目で文化部のほうが低かった。

運動部とスポーツクラブを比較すると、運動部のほうが高かったのは「お子様以外の部員/子どもたちの送迎をする」「お子様の飲み物や食事を用意する」「保護者間の連絡や情報共有を行う」であったが、いずれも差は 5 ポイント未満であった。そのほかの項目ではスポーツクラブのほうが高く、「お子様の送迎をする」「実技指導(コーチ等)や練習補助をする」「部/クラブの記録用に写真や動画の撮影を行う」「活動場所の手配や整備をする」「試合やコンクールの運営を手伝う」「試合やコンクールの応援を手伝う」「合宿など遠征に帯同する」「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」では 5 ポイント以上の差がみられた。

運動部に所属する子どもの母親と父親を比較すると、「お子様の飲み物や食事を用意する」「保護者間の連絡や情報共有を行う」で母親が 5 ポイント以上高く、母親の関与のほうが多い傾向にあった(図表 1-11-2)。続いて、スポーツクラブに所属する子の母親と父親で比較すると、母親のほうが 5 ポイント以上高かった項目は「お子様の飲み物や食事を用意する」「保護者間の連絡や情報共有を行う」であった(図表 1-11-3)。一方、父親のほうが 5 ポイント以上上回る項目は「お子様以外の子どもたちの送迎をする」「実技指導(コーチ等)や練習補助をする」「試合の審判を行う」「各種行事の運営や進行を行う」であった。

これらの結果から、スポーツクラブに所属する子の父親のほうが、運動部の子どもの父親に比べてより多く関わっていることがわかる。また、スポーツクラブでは、母親は飲食の用意や保護者間の連絡など直接競技に関わらない内容が多く、父親は技術指導や審判など競技やスポーツそのものに関わる内容が多くみられ、母親と父親の関与の仕方が異なっていた。

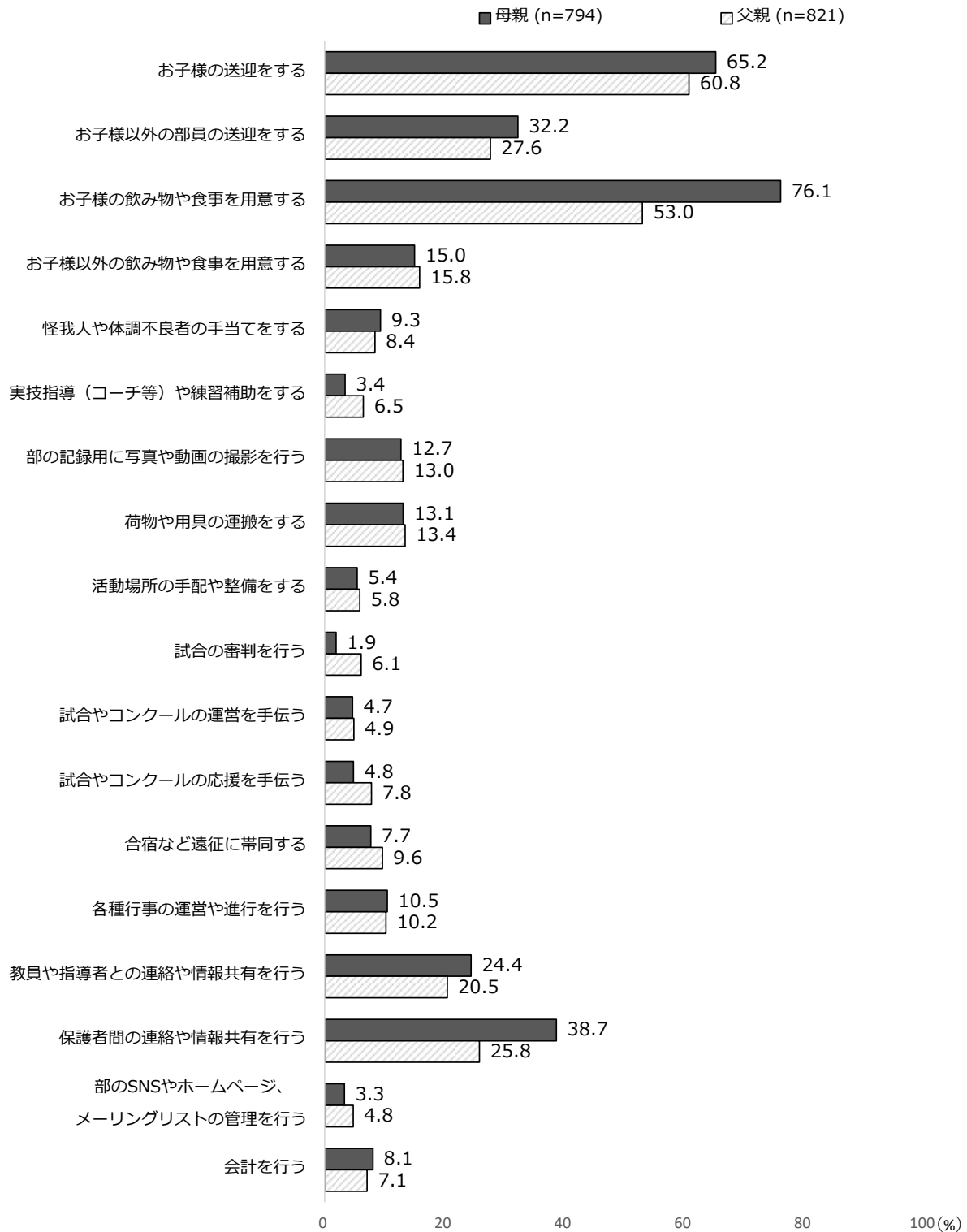
図表 1-11-1 保護者の関与



注 1)「よくする」+「時々する」の%。

注 2) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

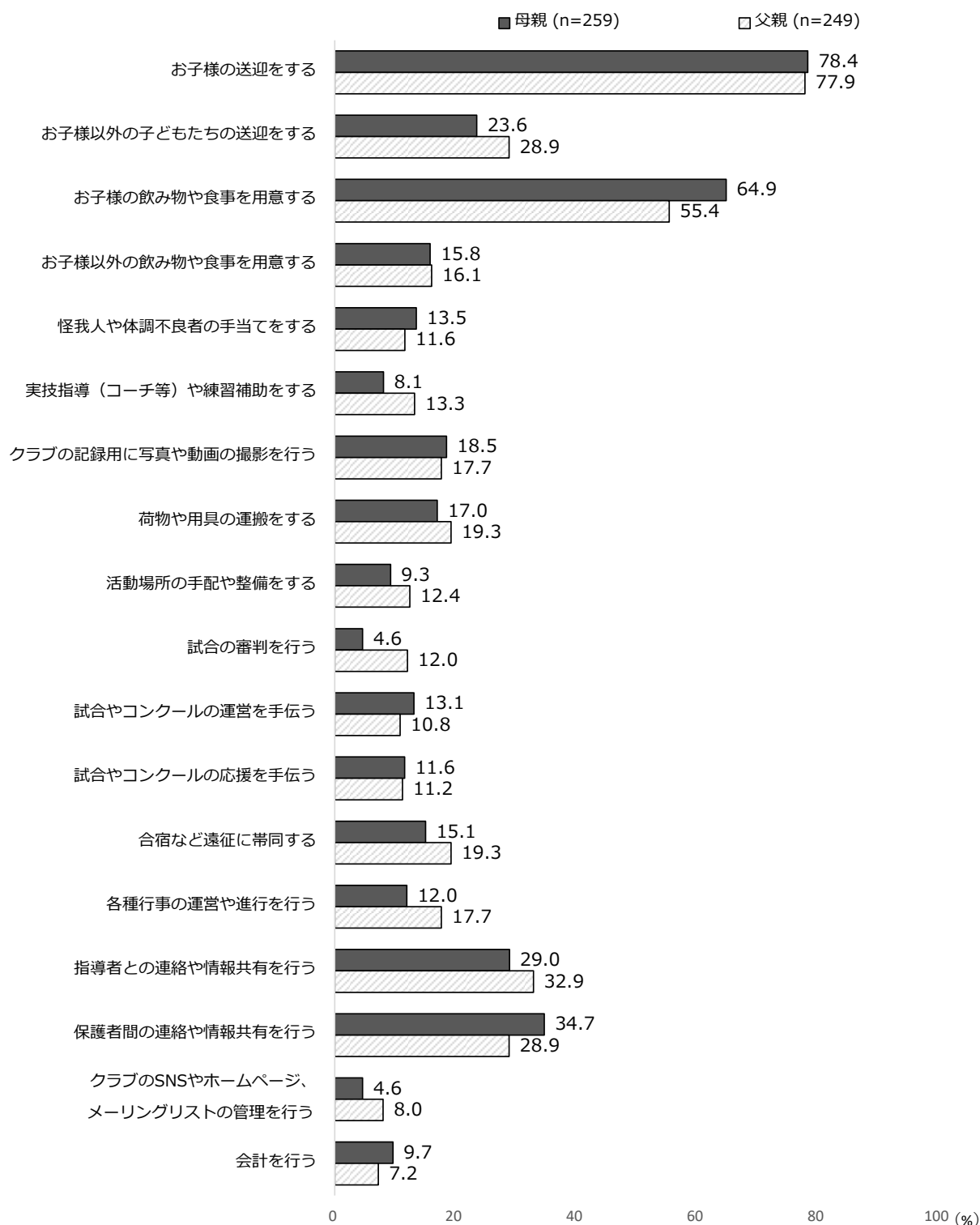
図表 1-11-2 保護者の関与(運動部/母親・父親別)



注 1)「よくする」+「時々する」の%。

注 2) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」

図表 1-11-3 保護者の関与(スポーツクラブ/母親・父親別)



注 1)「よくする」+「時々する」の%。

注 2) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

1.12 保護者のやりがい・負担感

保護者の関与に対するやりがい・負担感について整理した。本項で扱う項目は、1.11 でたずねた保護者の関与について「あまりしない」「時々する」「よくする」のいずれかを選んだ人が回答対象となるため、項目ごとに n 数が異なる。たとえば、図表 1-12-1 では「試合の審判を行う」が最も少なく、n=291 であった。図示した割合は、各項目について部活動とスポーツクラブの回答の実数値(のべ人数、両方加入している場合は重複を含む)から算出した。具体的には、「まったくやりがい/負担を感じていない」「あまりやりがい/負担を感じていない」「まあやりがい/負担を感じている」「とてもやりがい/負担を感じている」の 4 件法のうち、「まあ感じている」と「とても感じている」を選んだ人数を合計し、4 件すべての回答数で割っている。

全体的な傾向として、「部/クラブの SNS やホームページ、メーリングリストの管理を行う」を除いたすべての項目で、やりがいを感じる保護者の割合が負担を感じる割合を上回った。特に「試合の審判を行う」「会計を行う」以外の項目では、「やりがいを感じている」と「負担を感じている」の間に 5 ポイント以上の差がみられた(図表 1-12-1)。

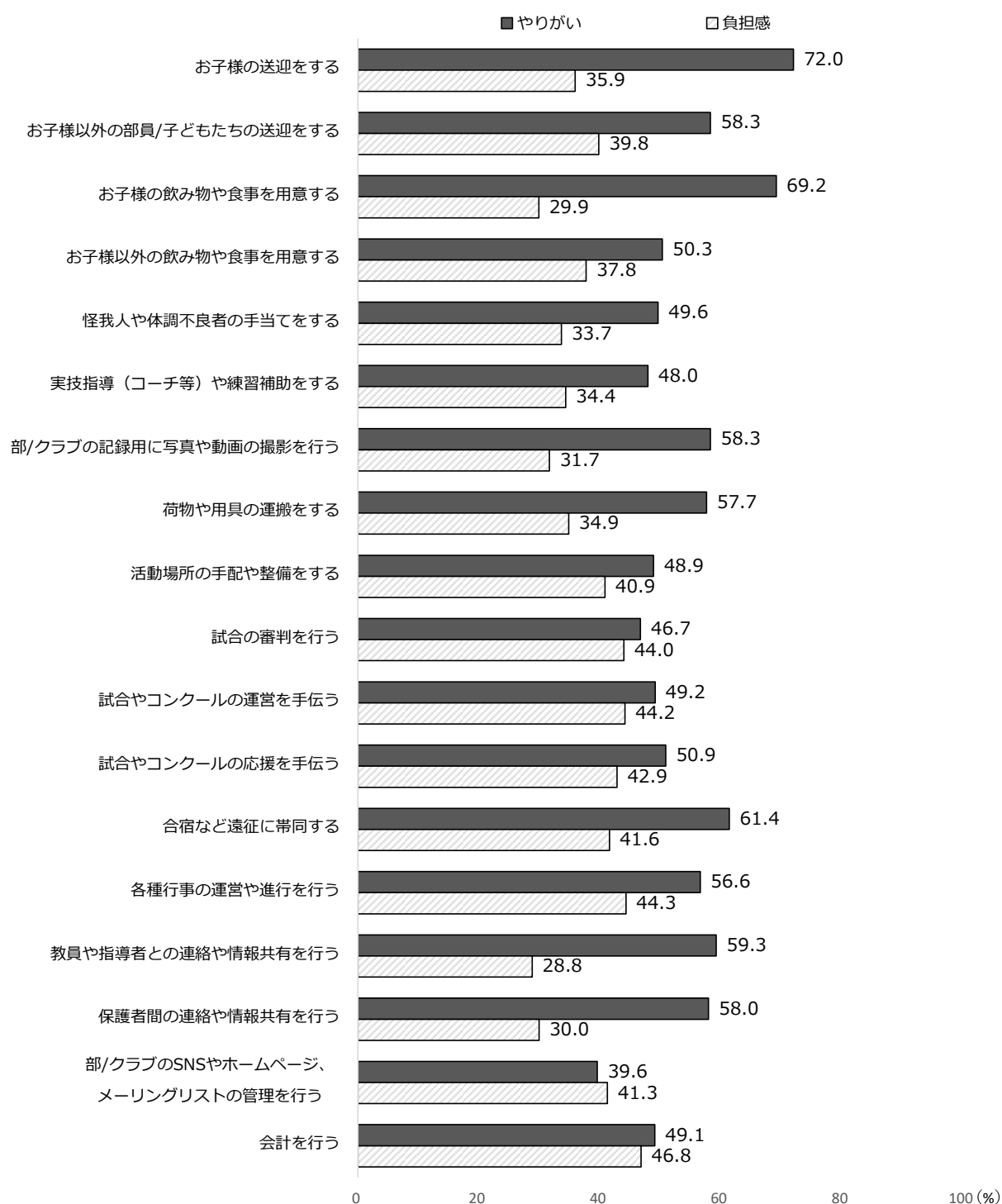
次に、保護者のやりがいについて、部活動とスポーツクラブの比較を行う(図表 1-12-2)。全体的に文化部ではやりがいが低く、スポーツクラブでは比較的高い傾向がみられた。文化部が運動部とスポーツクラブより 5 ポイント以上低かった項目は、「お子様の送迎をする」「お子様の飲み物や食事を用意する」「お子様以外の飲み物や食事を用意する」「試合の審判を行う」「試合やコンクールの運営を手伝う」「試合やコンクールの応援を手伝う」「合宿など遠征に帯同する」「各種行事の運営や進行を行う」「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」「保護者間の連絡や情報共有を行う」「部/クラブの SNS やホームページ、メーリングリストの管理を行う」であった。一方、スポーツクラブが部活動より 5 ポイント以上高かった項目は「お子様以外の飲み物や食事を用意する」「実技指導(コーチ等)や練習補助をする」「試合の審判を行う」「試合やコンクールの運営を手伝う」「試合やコンクールの応援を手伝う」「合宿など遠征に帯同する」「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」「保護者間の連絡や情報共有を行う」「部/クラブの SNS やホームページ、メーリングリストの管理を行う」であった。

さらに母親と父親の比較をみると、運動部では「部の記録用に写真や動画の撮影を行う」「荷物や用具の運搬をする」「活動場所の手配や整備をする」「試合やコンクールの運営を手伝う」「試合やコンクールの応援を手伝う」「合宿など遠征に帯同する」「各種行事の運営や進行を行う」「保護者間の連絡や情報共有を行う」「会計を行う」で、母親が父親より 5 ポイント以上高かった(図表 1-12-3)。父親が母親を 5 ポイント以上上回ったのは「実技指導(コーチ等)や練習補助をする」「試合の審判を行う」のみであった。

スポーツクラブでは、母親のほうが 5 ポイント以上高かったのは「クラブの記録用に写真や動画の撮影を行う」「試合やコンクールの運営を手伝う」「合宿など遠征に帯同する」「クラブの SNS やホームページ、メーリングリストの管理を行う」「会計を行う」で、父親が 5 ポイント以上高かったのは「お子様の送迎をする」「お子様以外の子どもたちの送迎をする」「怪我人や体調不良者の手当てをする」「実技指導(コーチ等)や練習補助をする」「試合の審判を行う」「試合やコンクールの応援を手伝う」「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」であった(図表 1-12-4)。

以上の結果から、保護者のやりがいには部活動・スポーツクラブや保護者の性別による違いがあることがわかった。特に父親はスポーツクラブでより関与が多く、やりがいも高い傾向にあった。

図表 1-12-1 保護者のやりがい・負担感(部活動またはスポーツクラブに所属する場合)

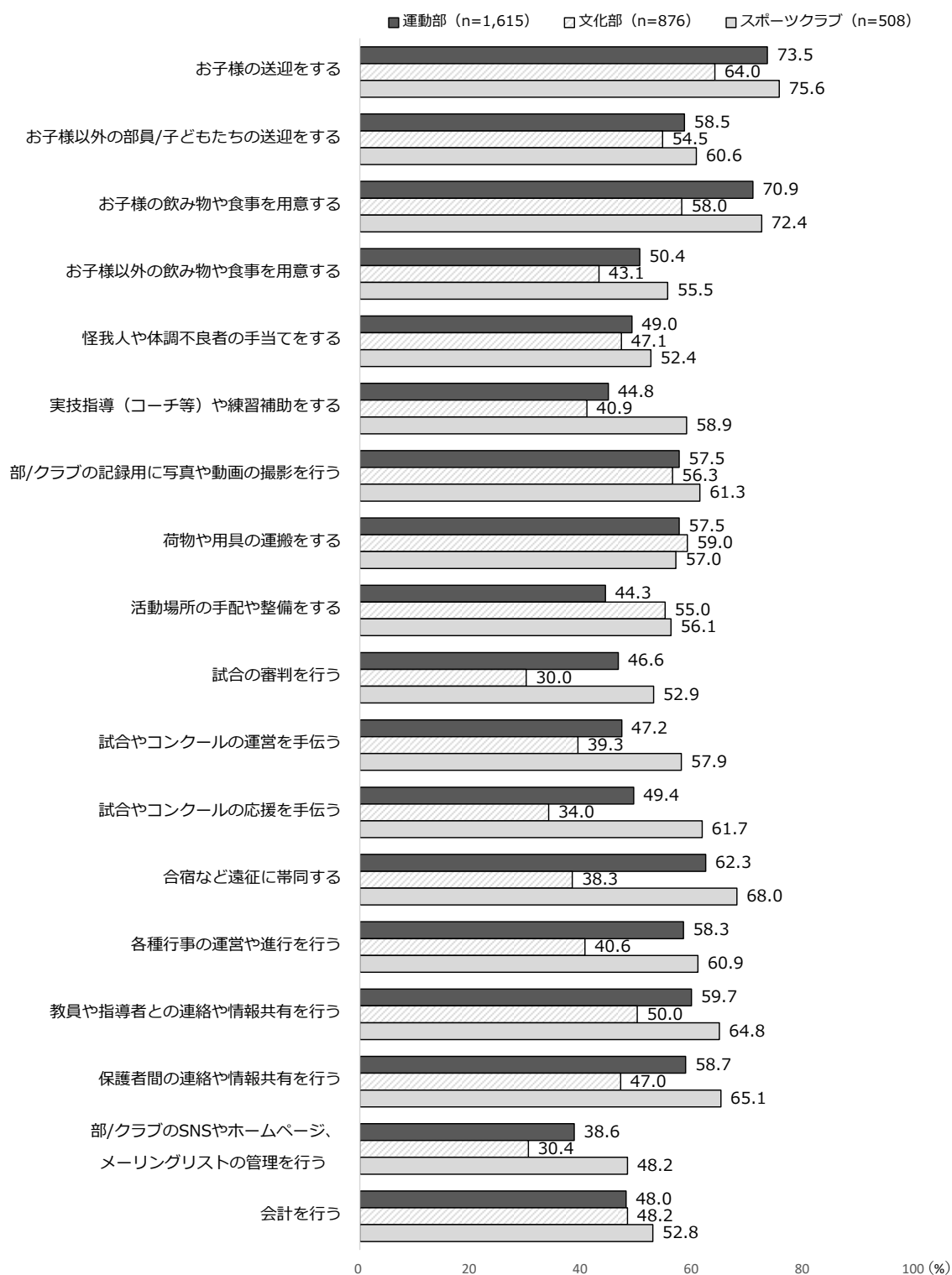


注 1) 「とてもやりがい/負担を感じている」+「まあやりがい/負担を感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にし、部活動・スポーツクラブに所属するのべ人数をもとに算出している。

注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

図表 1-12-2 保護者のやりがい

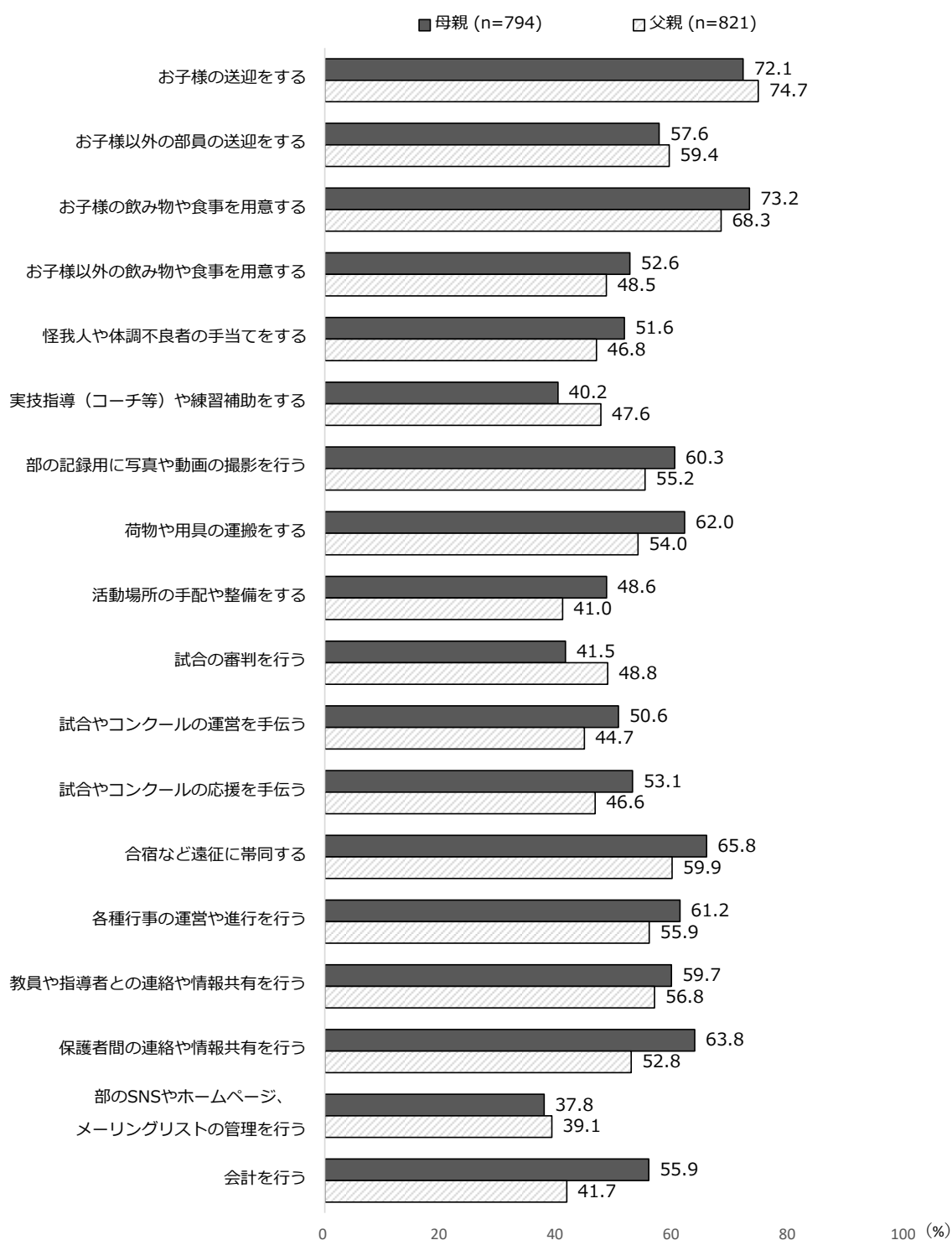


注 1) 「とてもやりがいを感じている」+「まあやりがいを感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にしている。

注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

図表 1-12-3 保護者のやりがい(運動部/母親・父親別)

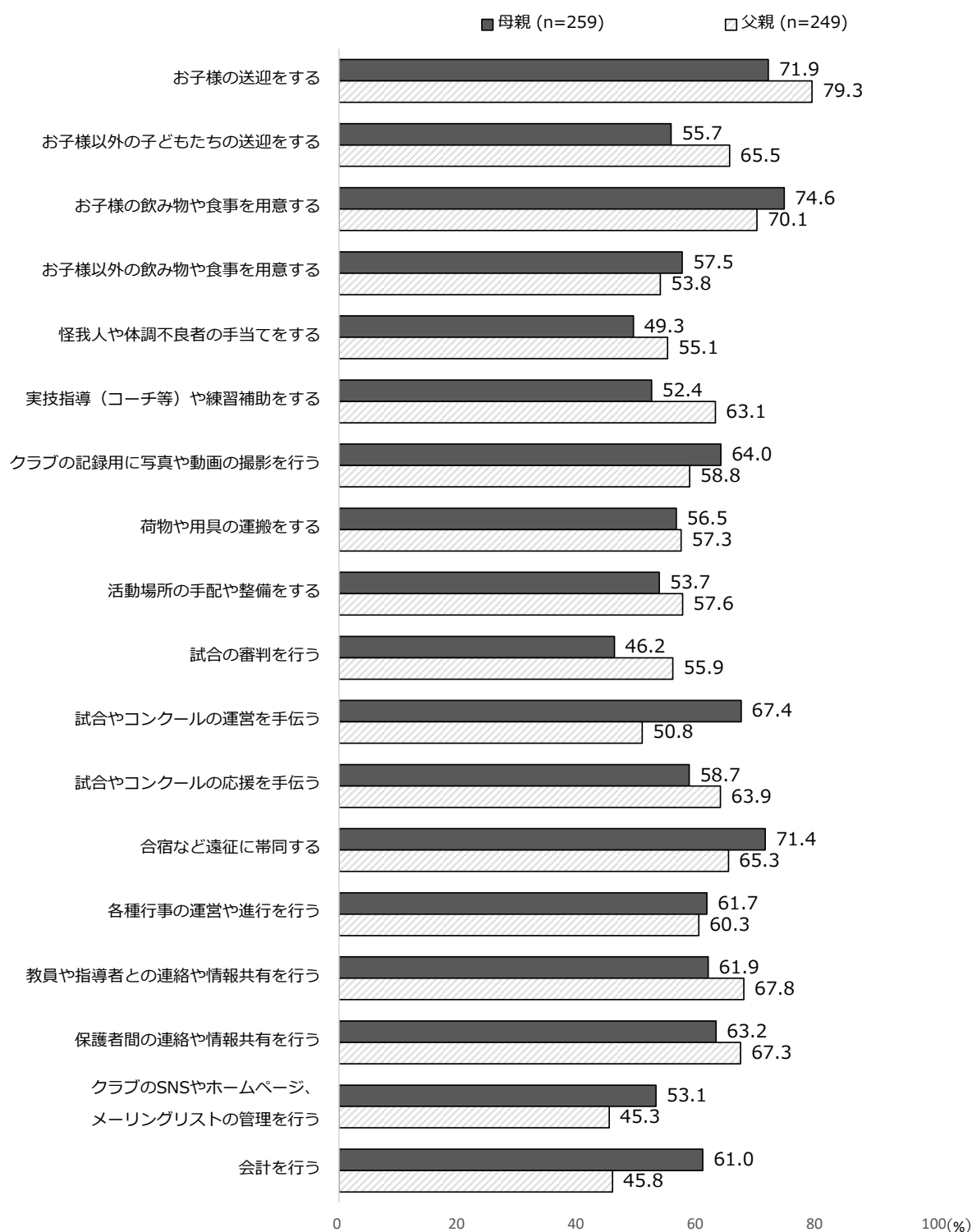


注 1) 「とてもやりがいを感じている」+「まあやりがいを感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にしている。

注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

図表 1-12-4 保護者のやりがい(スポーツクラブ/母親・父親別)



注 1) 「とてもやりがいを感じている」+「まあやりがいを感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にしている。

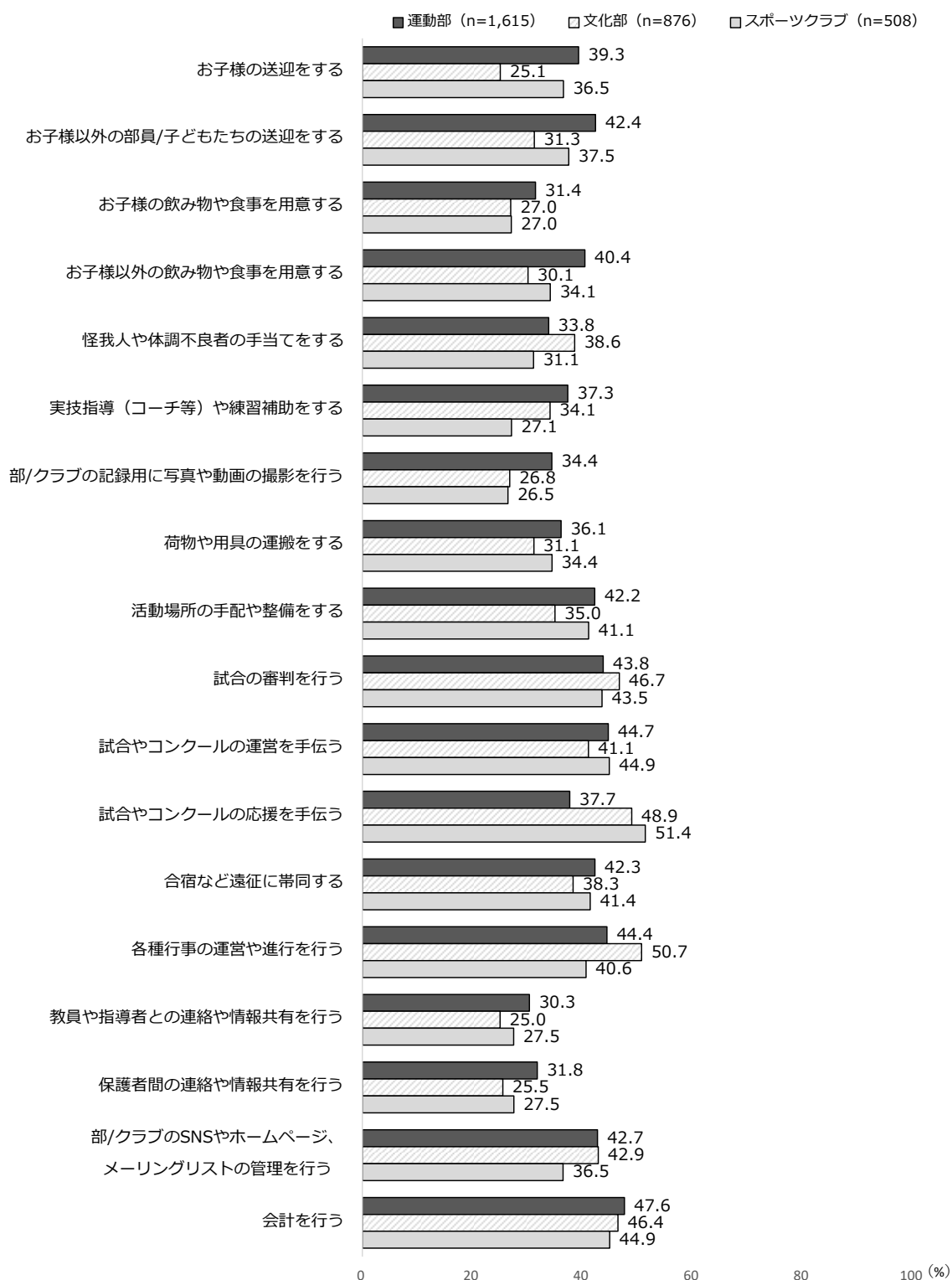
注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

続いて保護者の負担感について確認する。まずは部活動とスポーツクラブを比較すると、文化部の「負担を感じている」の割合が運動部・スポーツクラブより 5 ポイント以上高かったのは、「各種行事の運営や進行を行う」であった。文化部の負担感が 5 ポイント以上低かったのは「お子様の送迎をする」「お子様以外の部員/子どもたちの送迎をする」「活動場所の手配や整備をする」であった(図表 1-12-5)。一方、運動部が文化部・スポーツクラブと比較して 5 ポイント以上高かったのは「お子様以外の飲み物や食事を用意する」「部/クラブの記録用に写真や動画の撮影を行う」であった。スポーツクラブが運動部・文化部と比較して 5 ポイント以上高い項目はなかった。これらから、部活動に所属する子どもの保護者は、スポーツクラブに所属する子どもの保護者と比較して関与に負担を感じている傾向にあることがわかった。さらに、運動部の保護者は文化部の保護者と比較して負担を感じやすい傾向にあった。

母親と父親を比較すると、運動部の保護者では 18 項目中 12 項目で母親のほうが負担を感じる割合が高く、なかでも「お子様の送迎をする」「お子様以外の部員の送迎をする」「お子様の飲み物や食事を用意する」「お子様以外の飲み物や食事を用意する」「荷物や用具の運搬をする」では父親と 5 ポイント以上の差がみられた(図表 1-12-6)。一方、父親が母親よりも 5 ポイント以上高かったのは、「活動場所の手配や整備をする」「会計を行う」であった。

スポーツクラブでは、「クラブの記録用に写真や動画の撮影を行う」「会計を行う」を除いて、母親のほうが負担を感じている割合が高く、「お子様の送迎をする」「お子様以外の子どもたちの送迎をする」「お子様の飲み物や食事を用意する」「お子様以外の飲み物や食事を用意する」「活動場所の手配や整備をする」「試合の審判を行う」「試合やコンクールの運営を手伝う」「合宿など遠征に帯同する」「教員や指導者との連絡や情報共有を行う」「保護者間の連絡や情報共有を行う」「クラブの SNS やホームページ、メールリストの管理を行う」といった多くの項目で母親が父親よりも 5 ポイント以上高かった(図表 1-12-7)。父親が母親を 5 ポイント以上上回る項目はなかった。運動部・スポーツクラブのどちらも、父親よりも母親のほうが負担を感じている傾向にある。

図表 1-12-5 保護者の負担感

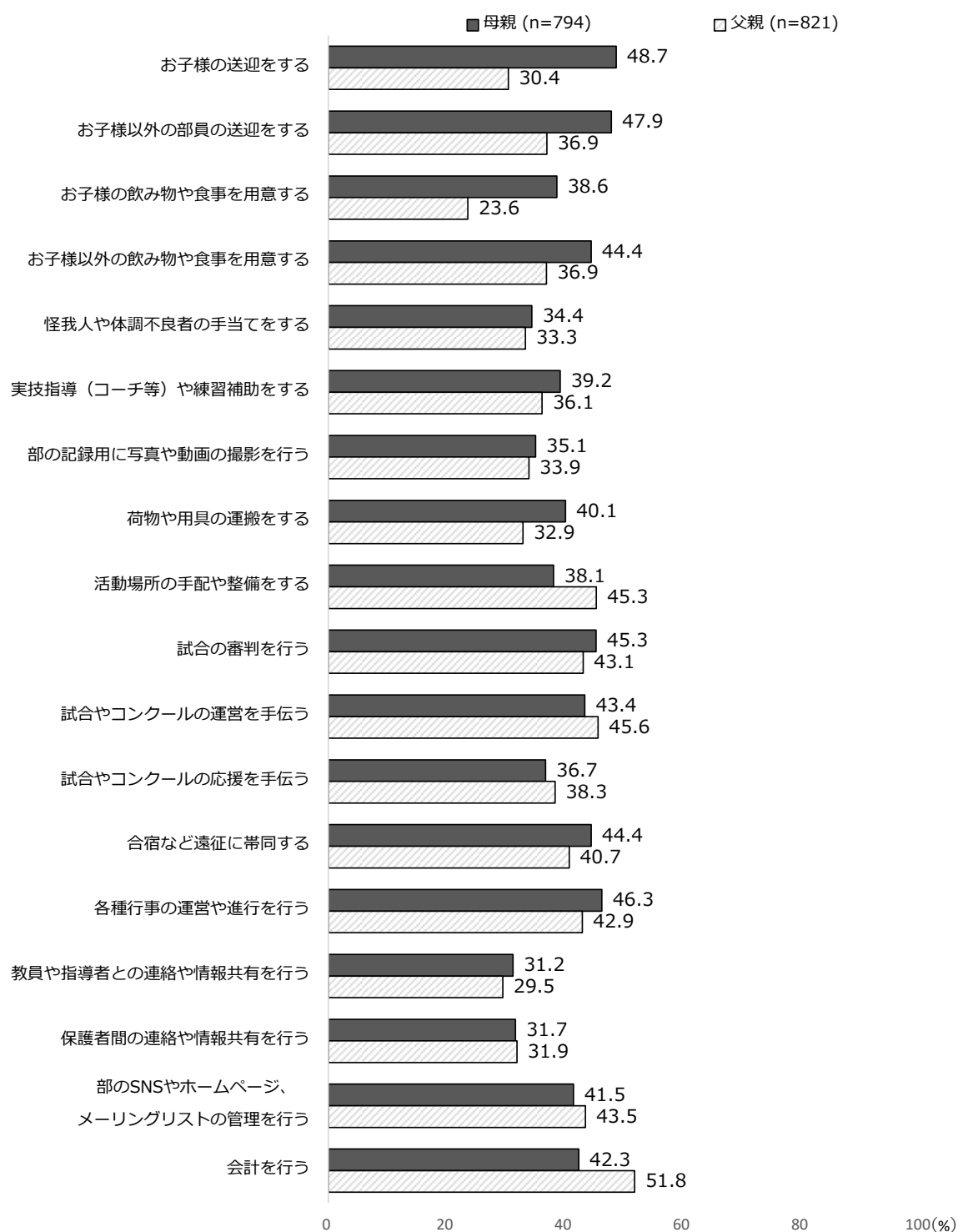


注 1) 「とても負担を感じている」+「まあ負担を感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にしている。

注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

図表 1-12-6 保護者の負担感(運動部/母親・父親別)

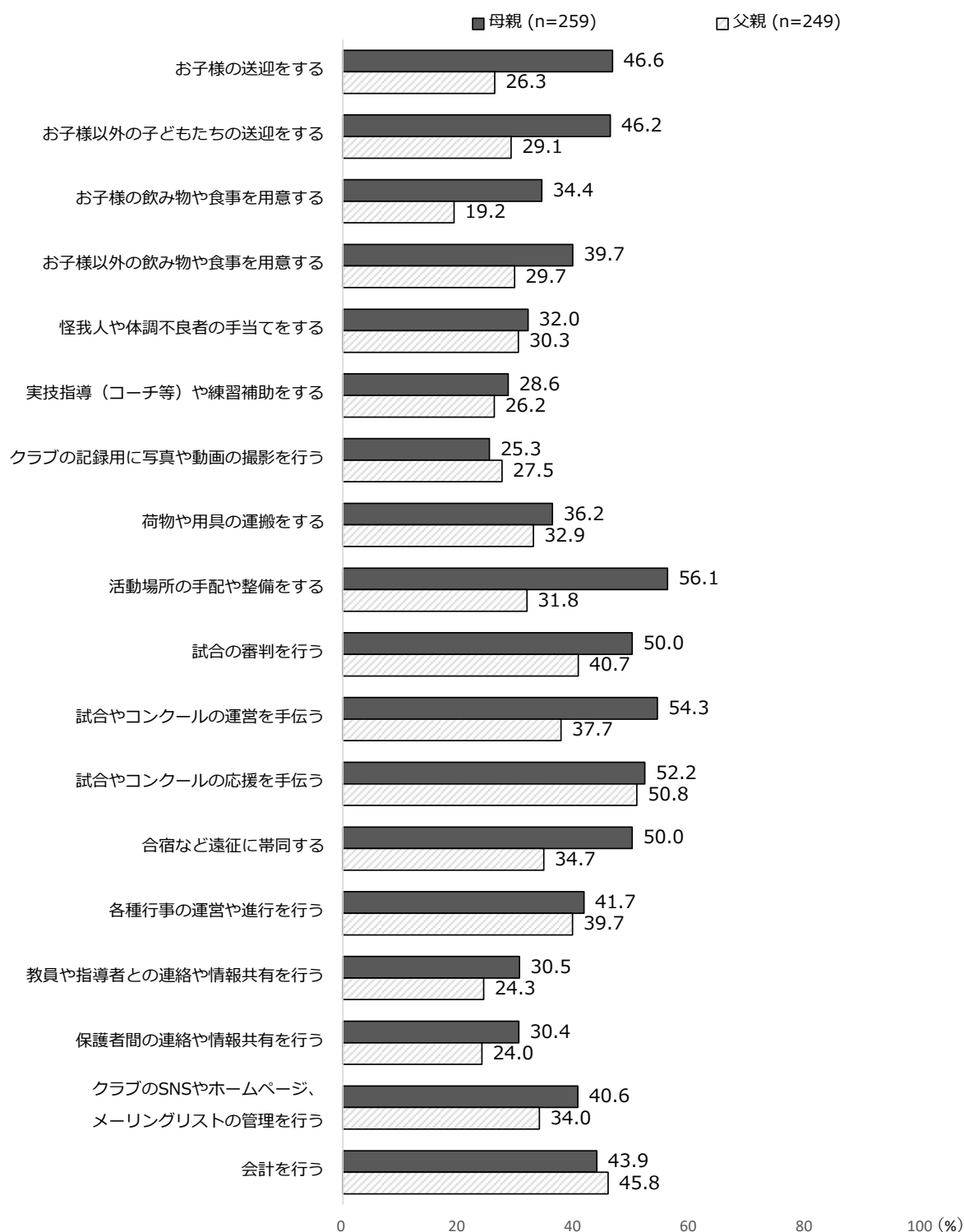


注 1) 「とても負担を感じている」+「まあ負担を感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にしている。

注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

図表 1-12-7 保護者の負担感(スポーツクラブ/母親・父親別)



注 1) 「とても負担を感じている」+「まあ負担を感じている」の%。

注 2) それぞれの関与を「あまりしない」「時々する」「よくする」人を母数にしている。

注 3) 質問紙上では、以下の注釈をつけている:「試合やコンクールの運営を手伝う(会場準備、受付、誘導、試合進行、アナウンスなど)」、「試合やコンクールの応援を手伝う(場所取り、チケットやグッズの手配、テントや横断幕の設営など)」、「各種行事の運営や進行を行う(歓迎会、壮行会、卒部会、季節の行事など)」、「会計を行う(費用の集金や管理)」。

1.13 保護者の関与に対する意識

保護者の関与に対する意識をたずね、〈ポジティブ項目〉と〈ネガティブ項目〉に分類し、整理した。〈ポジティブ項目〉は「やりがいを感じている」「満足している」「自分自身の居場所になっている」「もっと関わりたい」の4項目である。〈ネガティブ項目〉は「負担を感じている」「できることなら関わりたい」「関わることは保護者の義務だと感じている」「保護者間の役割分担が不公平だと感じる」の4項目である。選択肢は「まったくあてはまらない」を1、「とてもあてはまる」を10とし、各項目について10段階の数値を設定した。1～5は「あてはまらない」、6～10は「あてはまる」と解釈できる。

はじめに運動部・文化部・スポーツクラブを比較する(図表1-13-1)。まず文化部とほかの2群を比較すると、文化部では〈ポジティブ項目〉と〈ネガティブ項目〉いずれも「あてはまらない」が多い傾向にあった。特に、「やりがいを感じている」「居場所になっている」「もっと関わりたい」「負担を感じている」「義務だと感じている」の5項目は、運動部やスポーツクラブよりも「まったくあてはまらない」と回答する割合が10ポイント以上高かった。1.10および1.11で確認したように、文化部の保護者はそもそも関与する機会が少ないことが影響していると考えられる。次に運動部とスポーツクラブを比較すると、〈ポジティブ項目〉についてはスポーツクラブのほうが「あてはまる」傾向にあり、〈ネガティブ項目〉では大きな差はみられなかった。1.12で確認したように、スポーツクラブのほうが各サポートに対してやりがいを感じている保護者の割合が高かったことが、〈ポジティブ項目〉にも反映されていると考えられる。

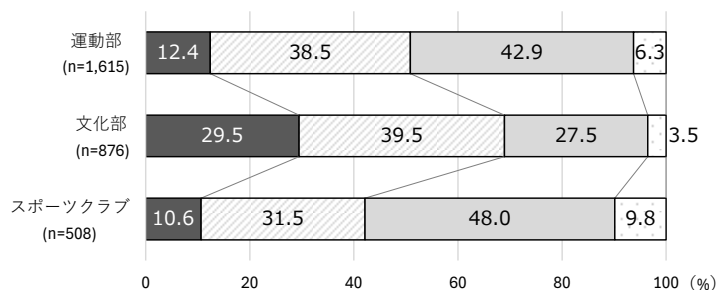
続いて母親と父親を比較する。まず、運動部に子どもが所属している保護者について、「あてはまる」に該当する6～10を足し合わせた数値をみると、「もっと関わりたい」は父親が5.4ポイント高く、「関わりたくない」「義務だと感じている」は母親がそれぞれ7.9ポイント、6.5ポイント高かった(図表1-13-2)。同様に、スポーツクラブに子どもが所属している保護者でも、「居場所になっている」「もっと関わりたい」は父親がそれぞれ6.3ポイント、11.8ポイント高く、「負担を感じている」「関わりたくない」「不公平だと感じる」は母親がそれぞれ13.3ポイント、13.7ポイント、7.4ポイント高かった(図表1-13-3)。〈ポジティブ項目〉は父親に「あてはまる」傾向にあり、〈ネガティブ項目〉は母親に「あてはまる」傾向にあるといえる。

図表 1-13-1 保護者の関与に対する意識

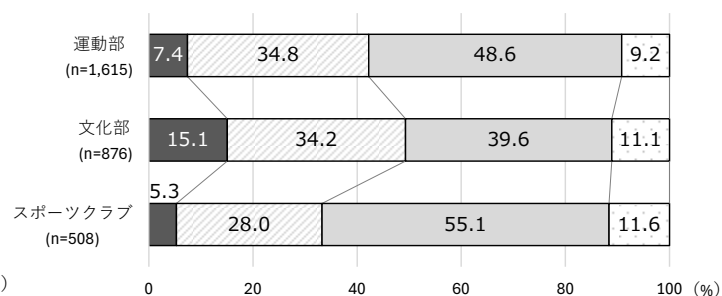
〈ポジティブ項目〉

■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

やりがいを感じている

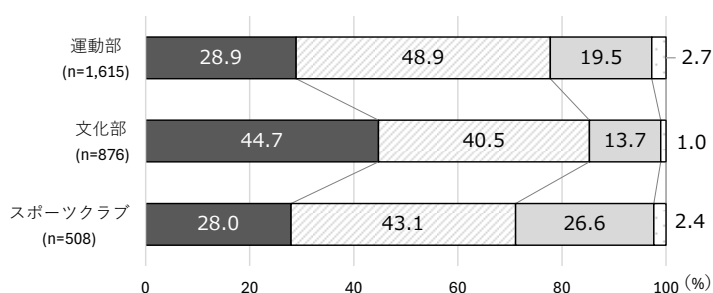


満足している

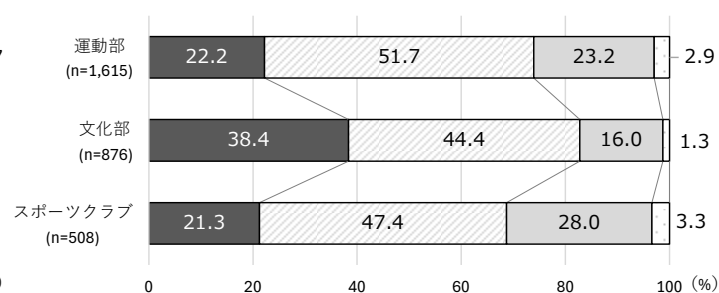


■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

居場所になっている



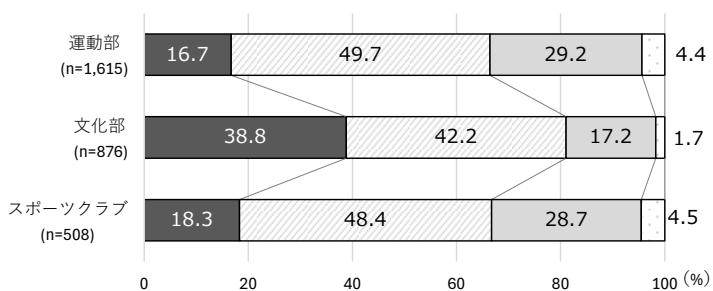
もっと関わりたい



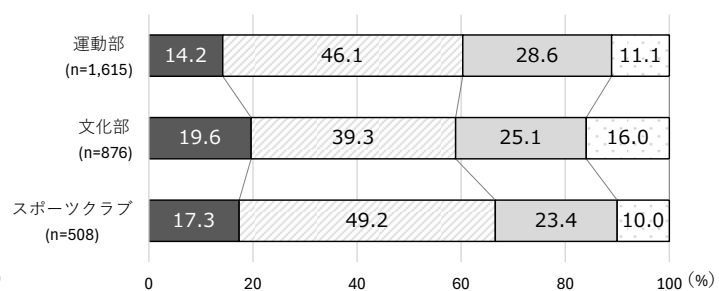
〈ネガティブ項目〉

■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

負担を感じている

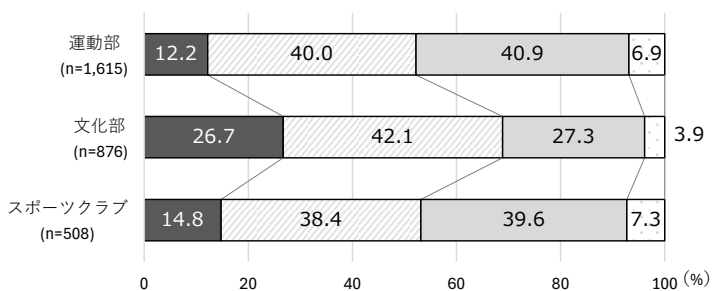


関わりたくない

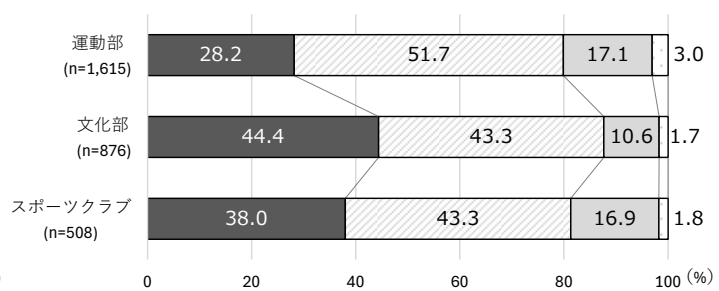


■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

義務だと思っている

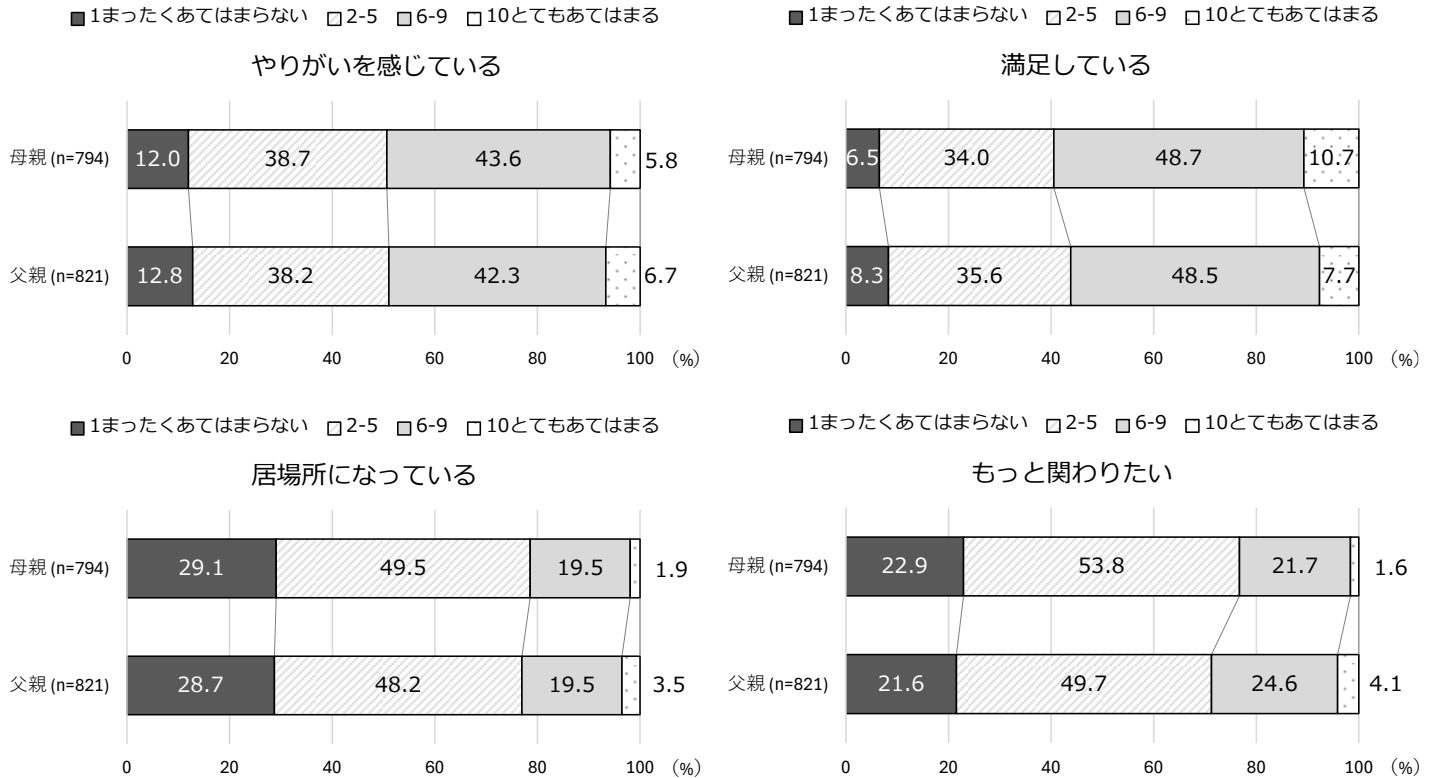


不公平だと感じる

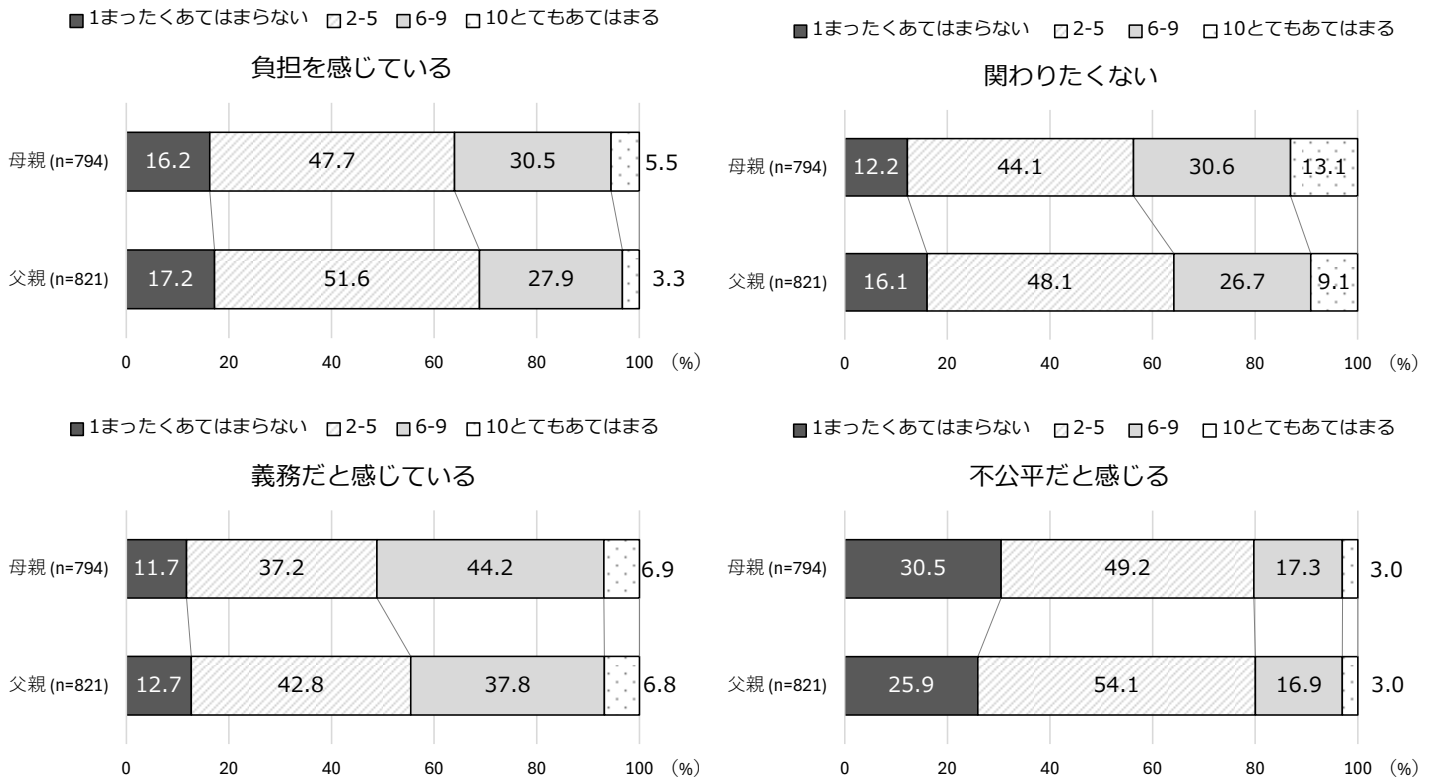


図表 1-13-2 保護者の関与に対する意識(運動部/母親・父親別)

〈ポジティブ項目〉



〈ネガティブ項目〉

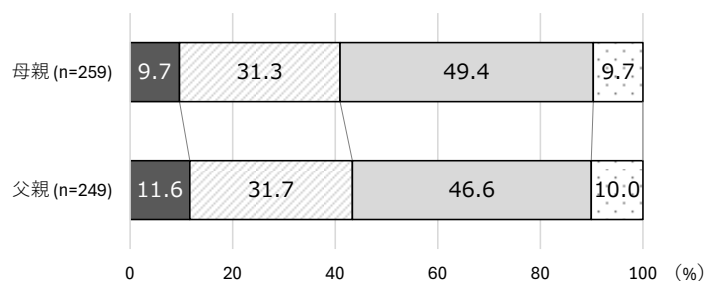


図表 1-13-3 保護者の関与に対する意識(スポーツクラブ/母親・父親別)

〈ポジティブ項目〉

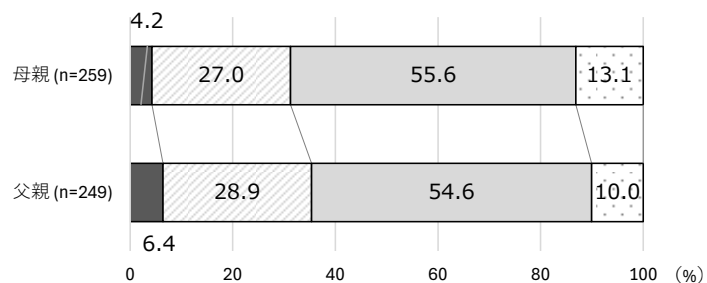
■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

やりがいを感じている



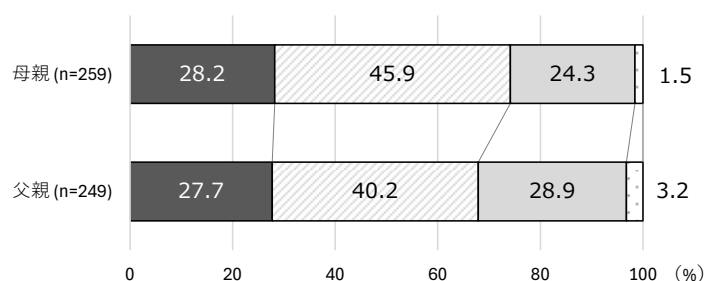
■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

満足している



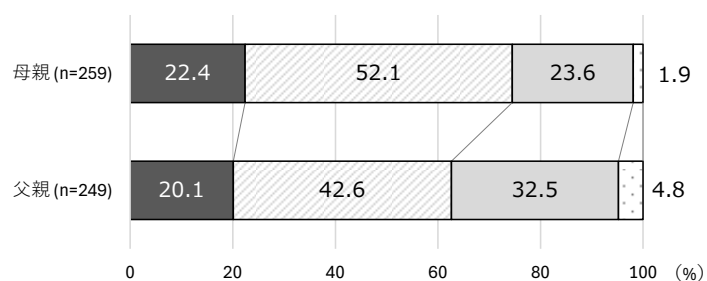
■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

居場所になっている



■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

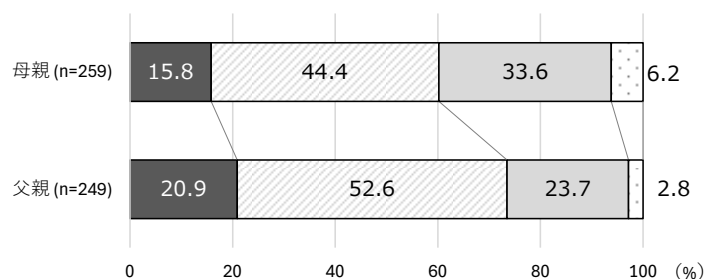
もっと関わりたい



〈ネガティブ項目〉

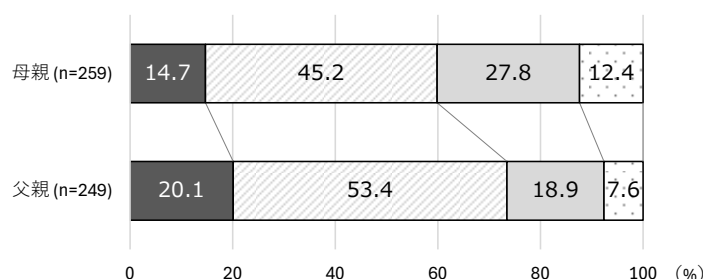
■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

負担を感じている



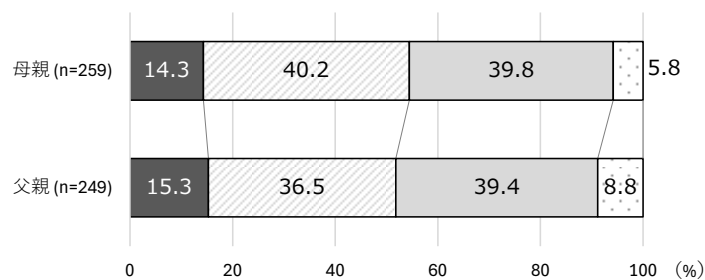
■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

関わりたくない



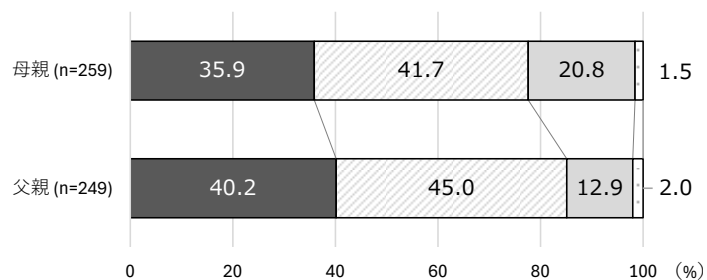
■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

義務だと感じている



■ 1まったくあてはまらない □ 2-5 □ 6-9 □ 10とてもあてはまる

不公平だと感じる



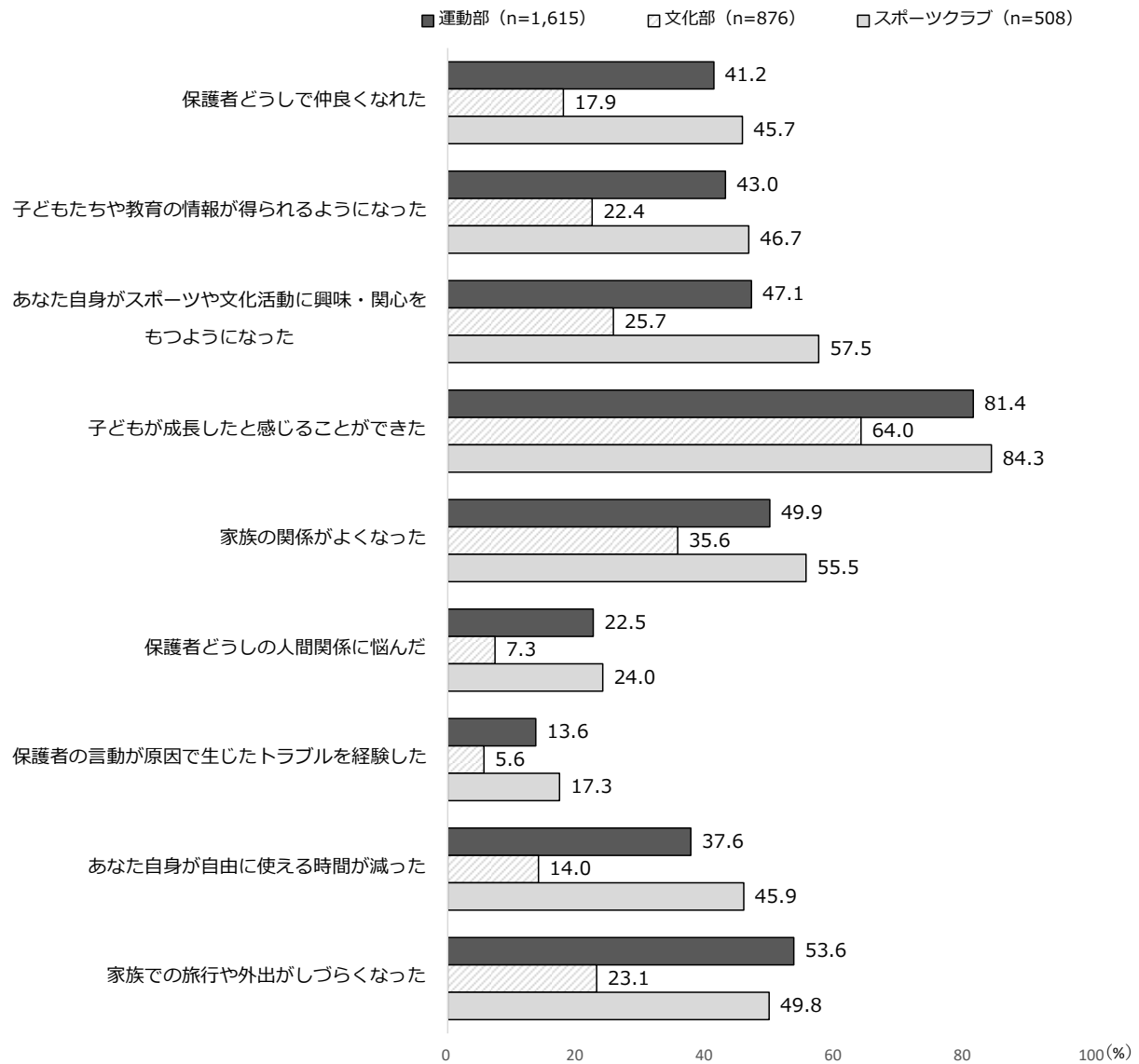
1.14 部活動・スポーツクラブを通した保護者の経験

部活動・スポーツクラブを通した保護者の経験を整理した。はじめに運動部・文化部・スポーツクラブを比較すると、全項目で運動部とスポーツクラブの割合が文化部より高かった(図表 1-14-1)。1.10 および 1.11 で確認したように、文化部の保護者はそもそも関与する機会が少ないことが影響していると考えられる。次に運動部とスポーツクラブを比較すると、「あなた自身がスポーツや文化活動に興味・関心をもつようになった」「家族の関係がよかった」「あなた自身が自由に使える時間が減った」の 3 項目はいずれもスポーツクラブの割合が 5 ポイント以上高かった。スポーツクラブのほうが、保護者は子どもの活動への関与を通してさまざまな経験をしていることがわかる。

続いて母親と父親を比較する。まず、運動部を通した経験についてみると、「保護者どうして仲良くなれた」「あなた自身がスポーツや文化活動に興味・関心をもつようになった」「子どもが成長したと感ずることができた」「あなた自身が自由に使える時間が減った」「家族での旅行や外出がしづらくなった」の 5 項目で母親が父親を 5 ポイント以上上回った(図表 1-14-2)。同様に、スポーツクラブを通した保護者の経験についてみても、「保護者どうして仲良くなれた」「子どもたちや教育の情報が得られるようになった」「あなた自身がスポーツや文化活動に興味・関心をもつようになった」「あなた自身が自由に使える時間が減った」の 4 項目で、母親のほうが 5 ポイント以上高かった(図表 1-14-3)。

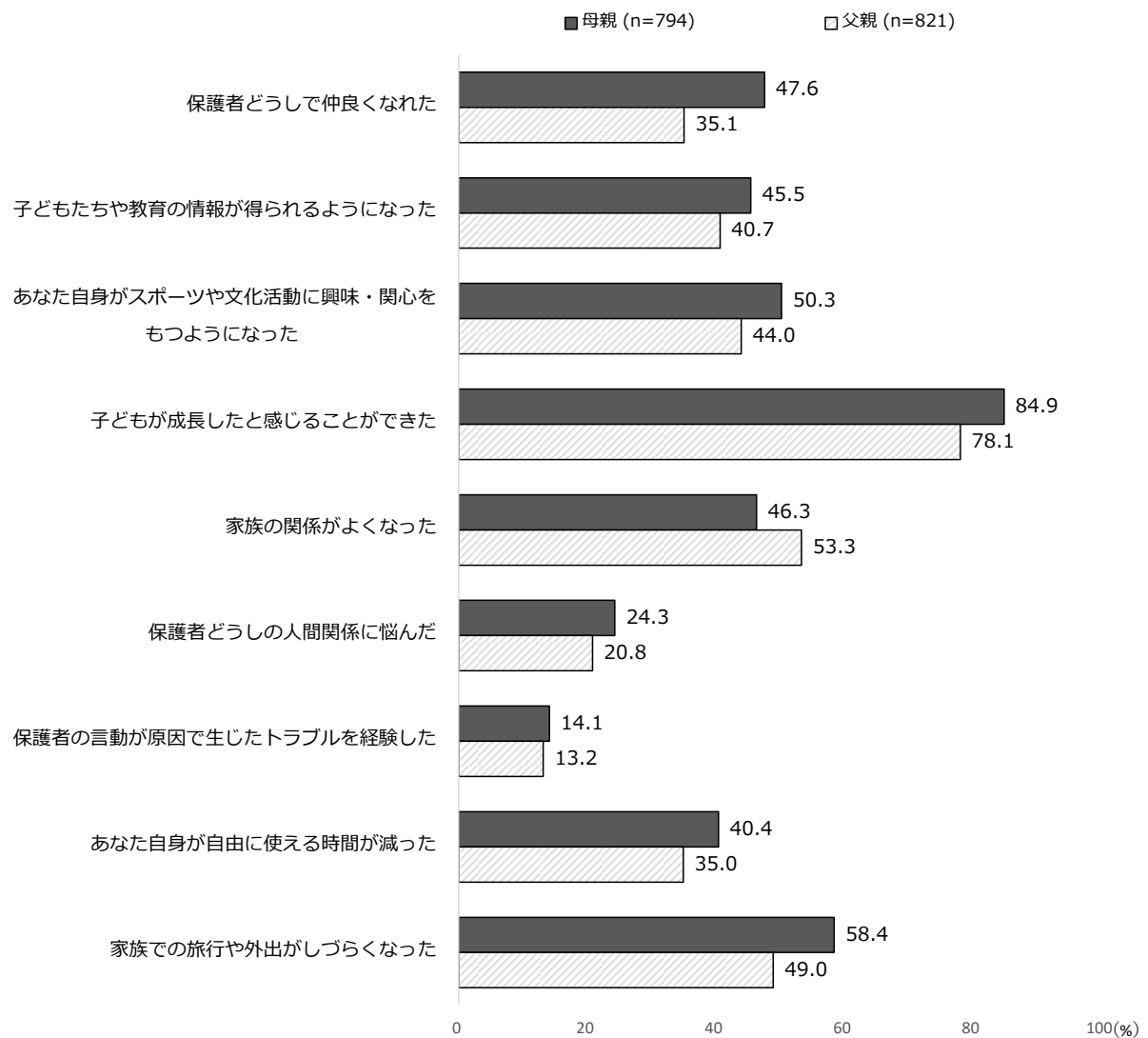
運動部・スポーツクラブともに母親の割合が高い中で、唯一「家族の関係がよかった」のみ父親の割合が高かった。この理由についてはさらなる調査が必要であるが、全体として母親のほうが、子どものスポーツ活動への関与を通してさまざまな経験をしていることがわかる。なお、「子どもが成長したと感ずることができた」については運動部・スポーツクラブ、母親・父親ともに高い割合を示していた。スポーツ活動を通して子どもの成長を実感している保護者が多いといえる。

図表 1-14-1 部活動・スポーツクラブを通じた保護者の経験



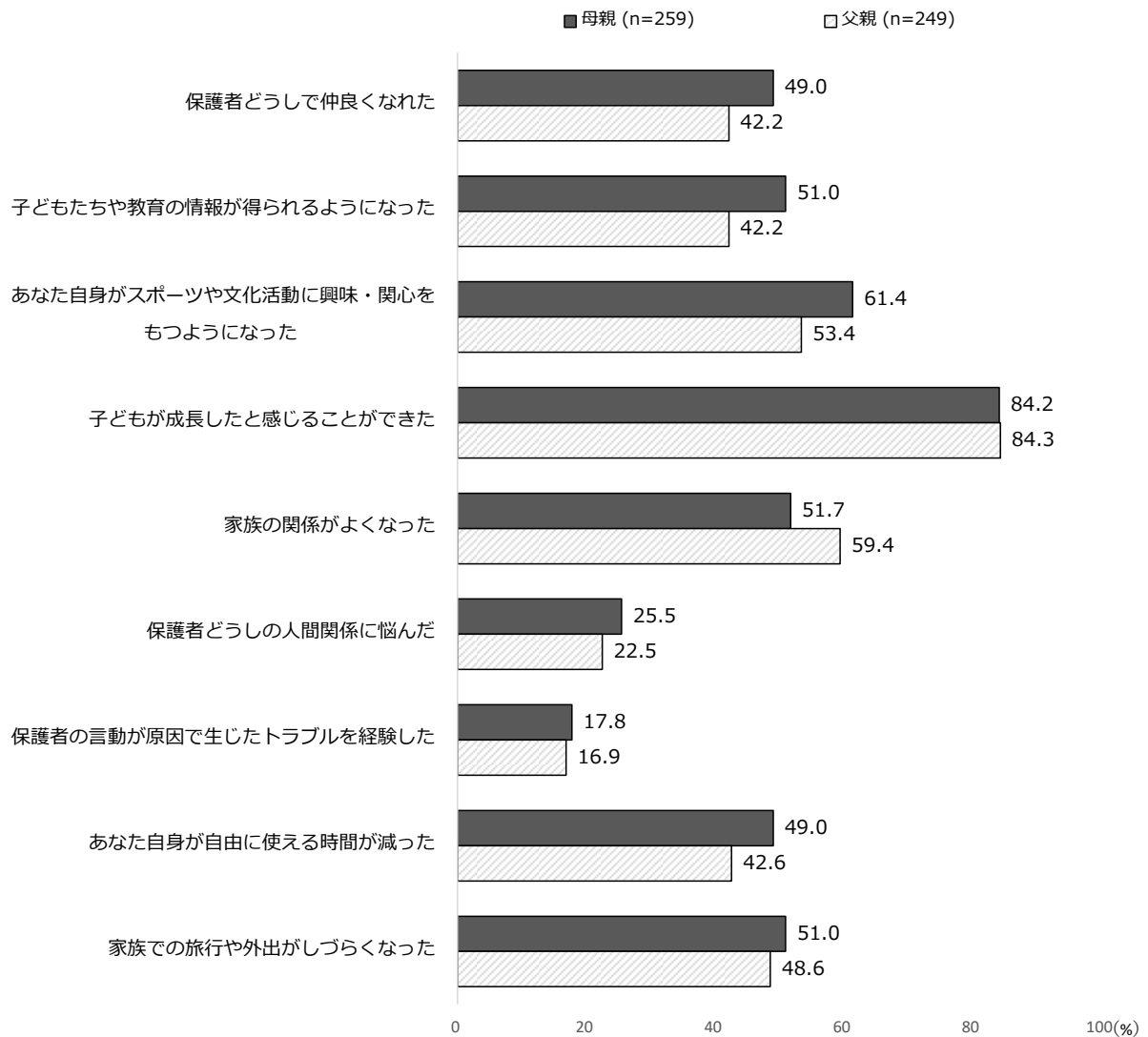
注 1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

図表 1-14-2 運動部を通じた保護者の経験(母親・父親別)



注 1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

図表 1-14-3 スポーツクラブを通した保護者の経験(母親・父親別)



注 1)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

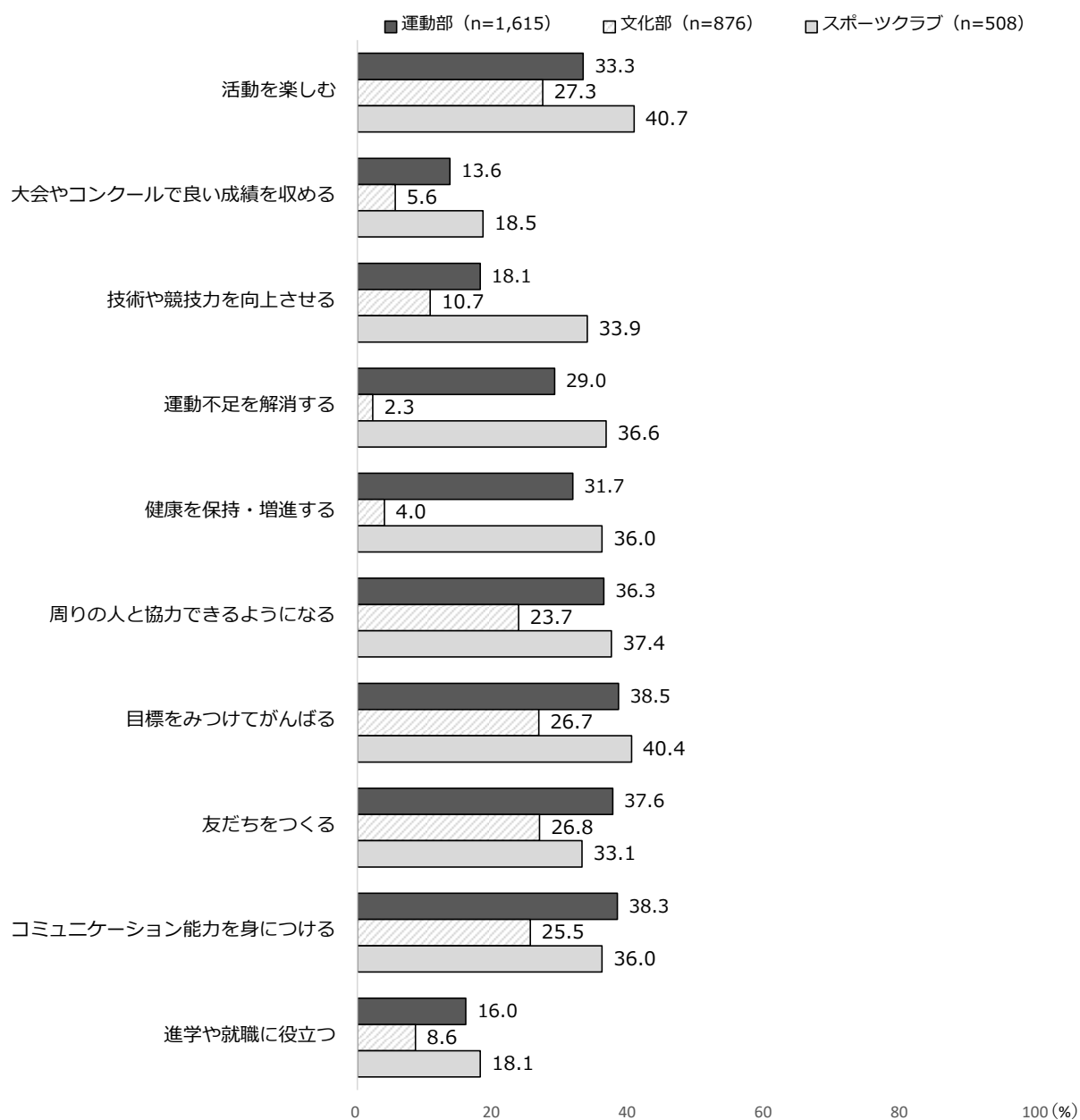
1.15 部活動・スポーツクラブへの期待

保護者の部活動・スポーツクラブへの期待を整理した。図表 1-15-1 から図表 1-15-3 は、「とても期待している」と回答した保護者の割合を示している。はじめに運動部・文化部・スポーツクラブを比較すると、全体的な傾向として運動部とスポーツクラブの割合が、文化部より高かった(図表 1-15-1)。1.10 および 1.11 で確認したように、文化部の保護者はそもそも関与する機会が少ない傾向にあり、部活動への期待が小さいことにも影響している可能性がある。次に運動部とスポーツクラブを比較すると、5 ポイント以上の差があったのは「活動を楽しむ」「技術や競技力を向上させる」「運動不足を解消する」の 3 項目で、すべてスポーツクラブの割合が運動部よりも高かった。スポーツクラブのほうが、保護者はより多様な期待を寄せていることがわかる。

続いて母親と父親を比較する。まず運動部への期待についてみると、「活動を楽しむ」「運動不足を解消する」「健康を保持・増進する」「目標をみつけてがんばる」「友だちをつくる」の 5 項目で、母親が父親を 5 ポイント以上上回った(図表 1-15-2)。同様にスポーツクラブへの期待についてみると、「活動を楽しむ」「大会やコンクールで良い成績を収める」「運動不足を解消する」「健康を保持・増進する」「周りの人と協力できるようになる」「目標をみつけてがんばる」「進学や就職に役立つ」の 7 項目で、母親の割合が父親よりも 5 ポイント以上高かった(図表 1-15-3)。母親のほうが、幅広い期待を抱いているといえる。

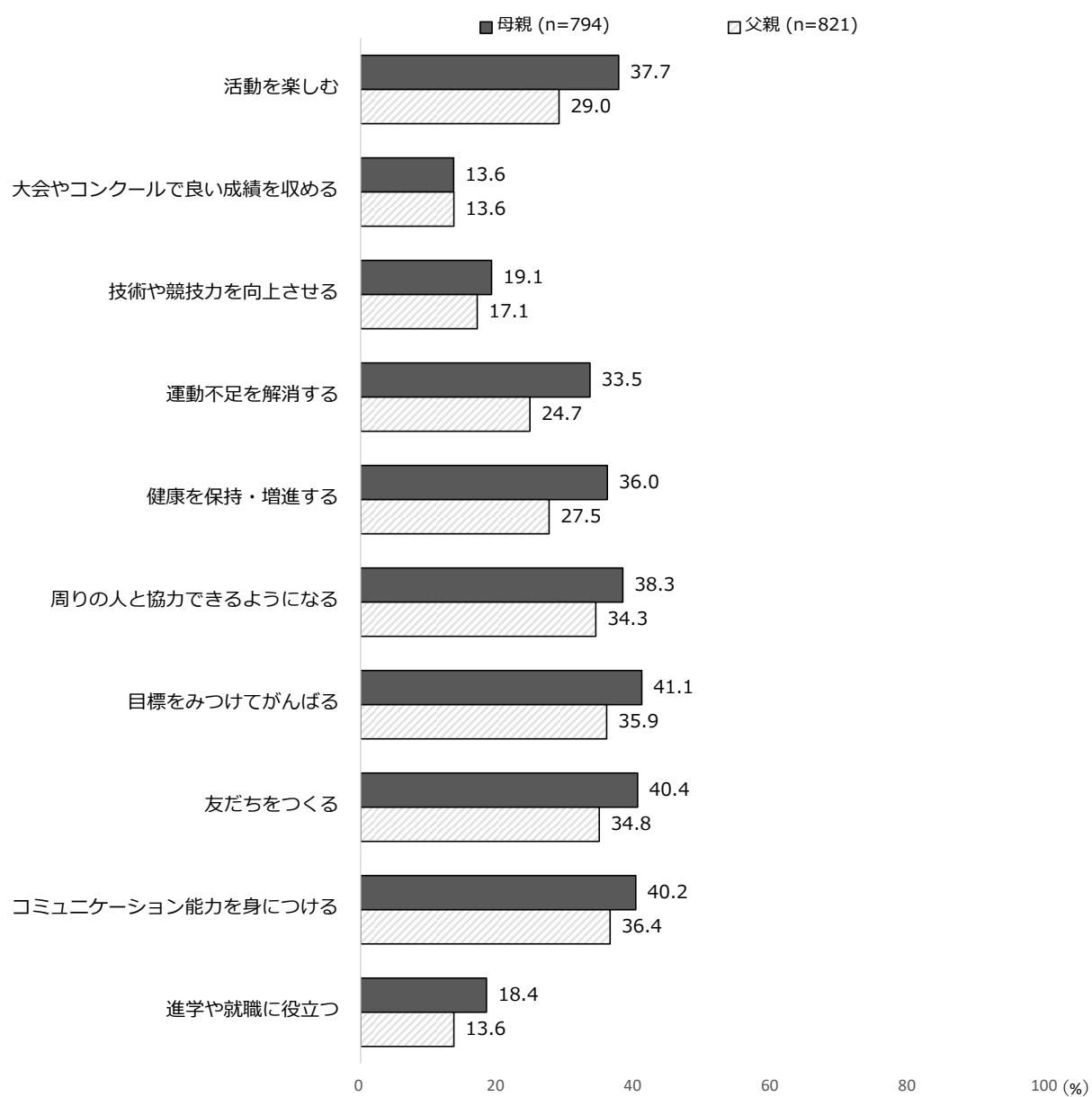
もっとも、「とても期待している」と「まあ期待している」の割合を合計すると、運動部・スポーツクラブ、母親・父親ともに、「大会やコンクールで良い成績を収める」「進学や就職に役立つ」以外の項目では 8~9 割程度を占めていた。総じて、子どものスポーツ活動に対して保護者は多様な期待を寄せているといえる。

図表 1-15-1 部活動・スポーツクラブへの期待



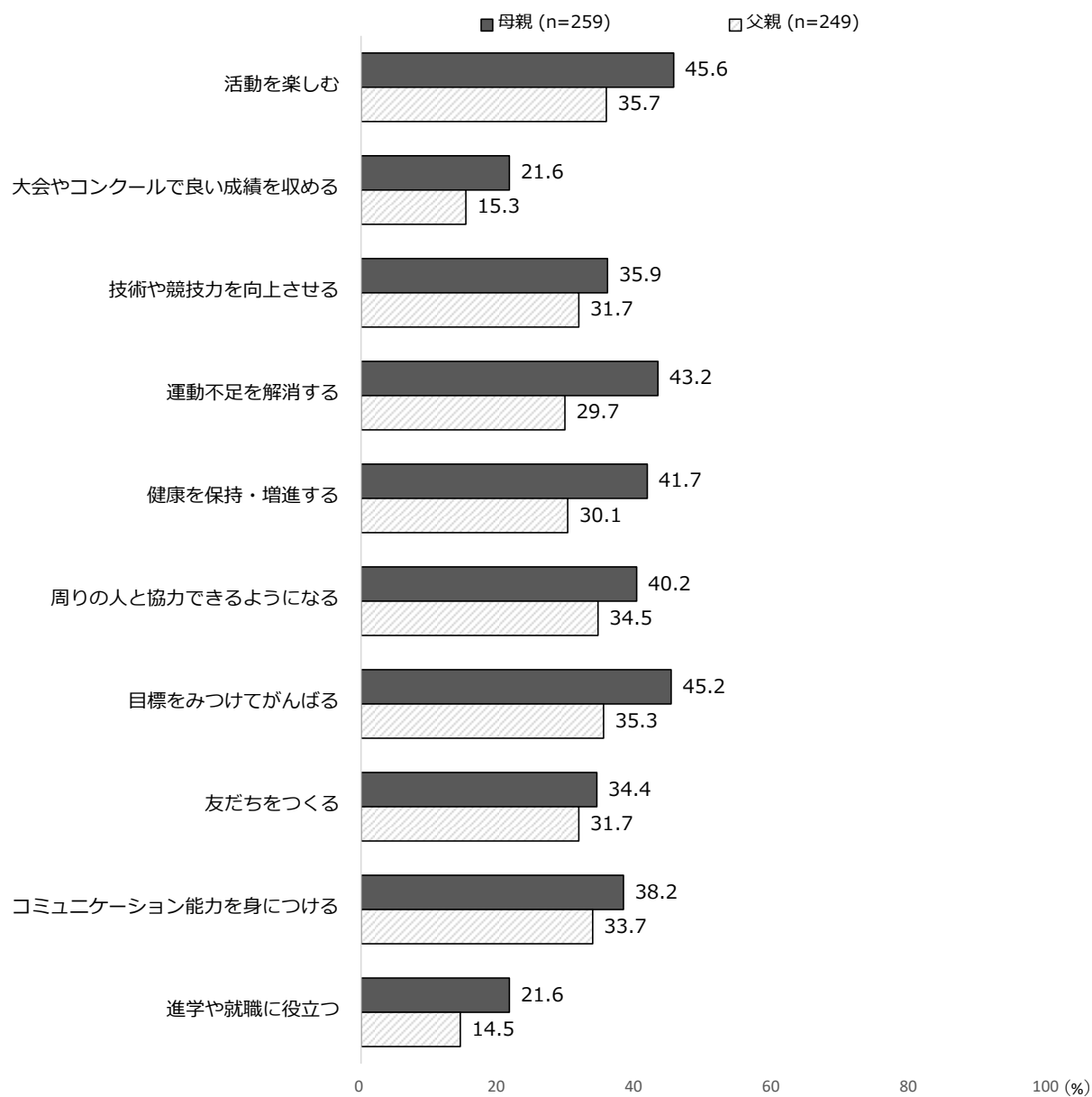
注 1)「とても期待している」の%。

図表 1-15-2 運動部への期待(母親・父親別)



注 1)「とても期待している」の%。

図表 1-15-3 スポーツクラブへの期待(母親・父親別)



注 1)「とても期待している」の%。

2. 子どものスポーツに対する意識

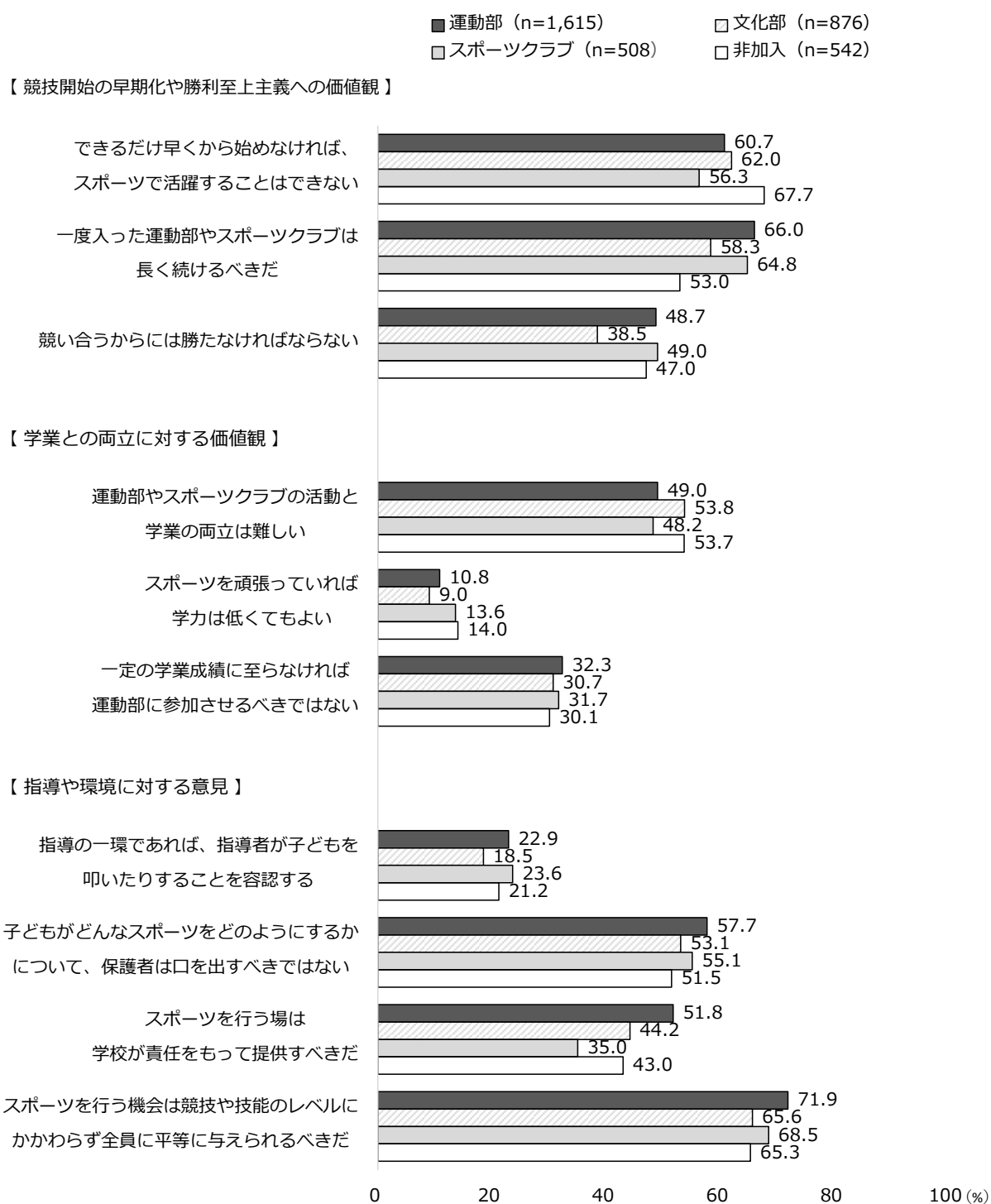
2.1 中学生のスポーツに対する価値観や意見

中学生のスポーツに対する価値観や意見について整理した。はじめに運動部、文化部、スポーツクラブ、非加入の4群を比較する。なお、部活動とスポーツクラブの両方に加入している者は、双方の分析対象に含めている。非加入群は部活動・スポーツクラブのいずれにも加入していないケースである。

まず競技開始の早期化や勝利至上主義への価値観の項目をみると、「できるだけ早くから始めなければ、スポーツで活躍することはできない」は非加入群が67.7%と最も高かった。(図表2-1-1)。「一度入った運動部やスポーツクラブは長く続けるべきだ」「競い合うからには勝たなければならない」は運動部とスポーツクラブで高く、文化部で低い傾向にあった。次に学業との両立に対する価値観の項目をみると、「運動部やスポーツクラブの活動と学業の両立は難しい」は各群で5割前後であり、困難を感じている保護者が一定数いることがわかる。他方、「スポーツを頑張っていれば学力は低くてもよい」は各群で1割前後、「一定の学業成績に至らなければ運動部に参加させるべきではない」は3割前後であり、学業をおろそかにしてはならないと考えている保護者も一定数いる。最後に指導や環境に対する意見の項目をみると、「指導の一環であれば、指導者が子どもを叩いたりすることを容認する」は各群で2割前後とやや低く、「子どもがどんなスポーツをどのようにするかについて、保護者は口を出すべきではない」は5~6割であった。「スポーツを行う場は学校が責任をもって提供すべきだ」は運動部が51.8%と最も高く、スポーツを行う場として学校に期待を寄せていることがわかる。「スポーツを行う機会は競技や技能のレベルにかかわらず全員に平等に与えられるべきだ」は運動部が7割を超え、ほかの群に比べて高かった。

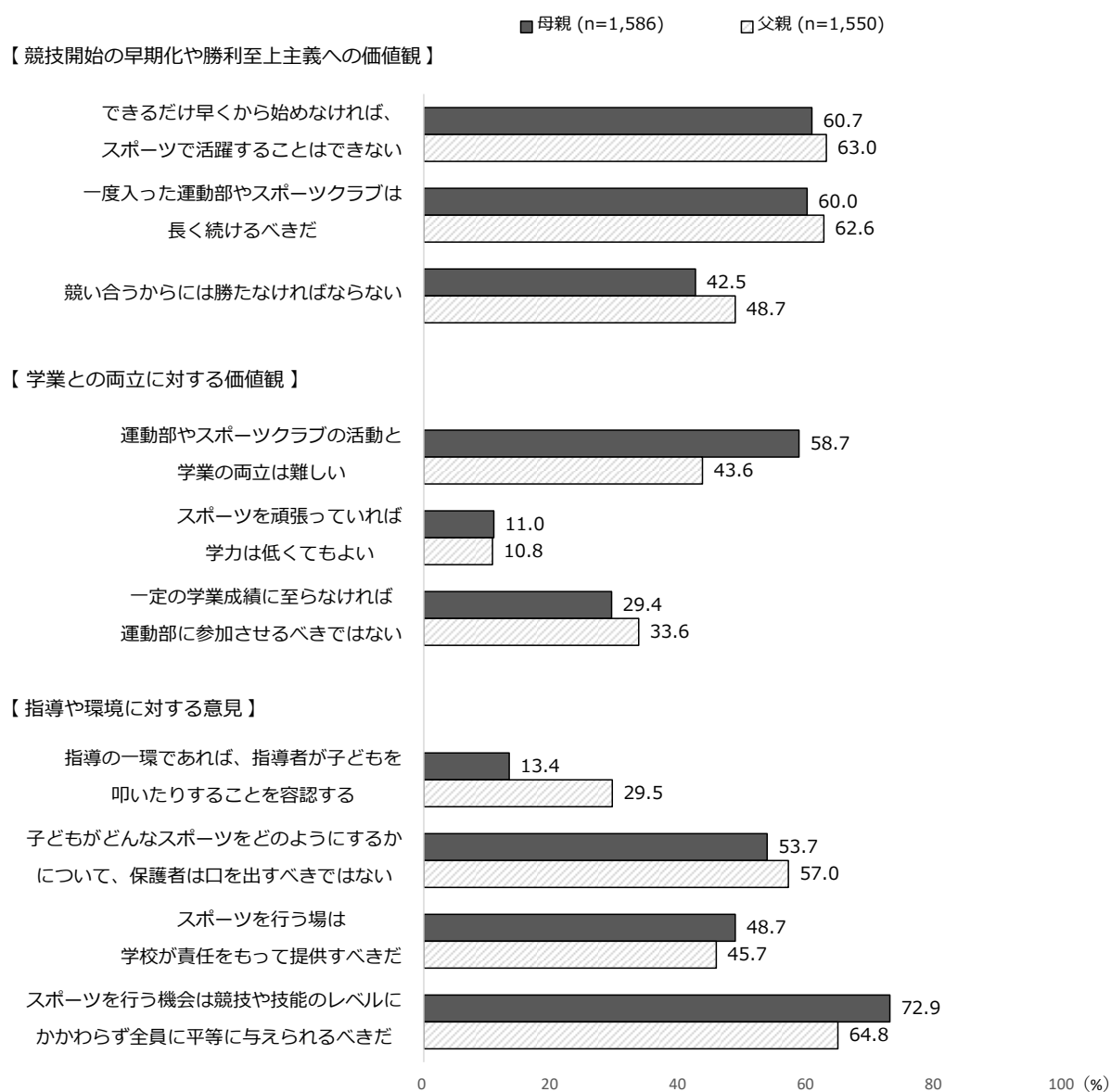
続いて母親と父親を比較する(図表2-1-2)。まず競技開始の早期化や勝利至上主義への価値観については、「できるだけ早くから始めなければ、スポーツで活躍することはできない」「一度入った運動部やスポーツクラブは長く続けるべきだ」には大きな差はみられなかった。「競い合うからには勝たなければならない」は父親が6.2ポイント高く、母親よりも勝利至上主義的な傾向がみられた。次に学業との両立に対する価値観については、「運動部やスポーツクラブの活動と学業の両立は難しい」は母親の割合が高く、学業との両立に困難を感じていることがわかる。「スポーツを頑張っていれば学力は低くてもよい」「一定の学業成績に至らなければ運動部に参加させるべきではない」には大きな差はみられなかった。最後に指導や環境に対する意見については、「指導の一環であれば、指導者が子どもを叩いたりすることを容認する」は父親が16.1ポイント高かった。「子どもがどんなスポーツをどのようにするかについて、保護者は口を出すべきではない」「スポーツを行う場は学校が責任をもって提供すべきだ」には大きな差はみられなかった。「スポーツを行う機会は競技や技能のレベルにかかわらず全員に平等に与えられるべきだ」は母親が8.1ポイント高かった。

図表 2-1-1 中学生のスポーツに対する価値観や意見（部活動・スポーツクラブ・非加入別）



注 1)「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

図表 2-1-2 中学生のスポーツに対する価値観や意見（母親・父親別）



注 1)「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

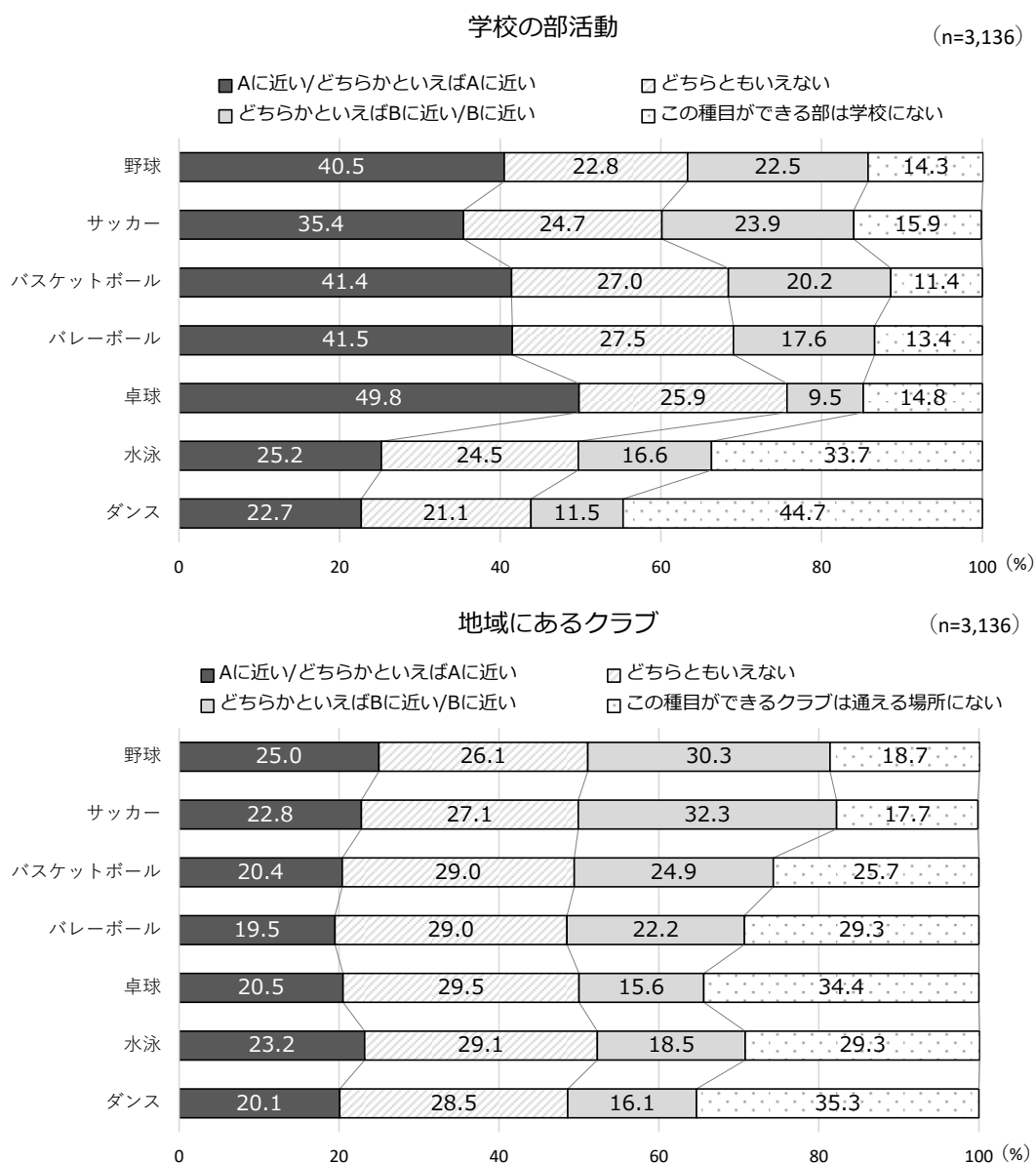
2.2 子どものスポーツ環境

学校の部活動や地域のクラブについて、種目ごとに「A:初心者の中中学生でも加入しやすい」か「B:経験者の中学生でないと加入しづらい」かをたずねた(図表2-2)。種目によって男女差があるため、子どもと同じ性別の中中学生が加入する場合を想定して回答を求めた。

まず学校の部活動では、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球の5種目で「A:初心者の中中学生でも加入しやすい」が3~4割に達した。いずれも地域にあるクラブより高く、初心者でも加入しやすい環境として認識されている。水泳とダンスは「学校にない」が3~4割となり、部自体が存在しない学校が多い様子がうかがえる。

地域にあるクラブでは、野球、サッカー、バスケットボール、バレーボールの4種目で「B:経験者の中学生でないと加入しづらい」がAを上回った。また、野球・サッカーを除く5種目で「通える場所がない」が2割を超え、特にバスケットボール、バレーボール、卓球では部活動における「学校にない」より10ポイント以上高かった。

図表2-2 子どものスポーツ環境



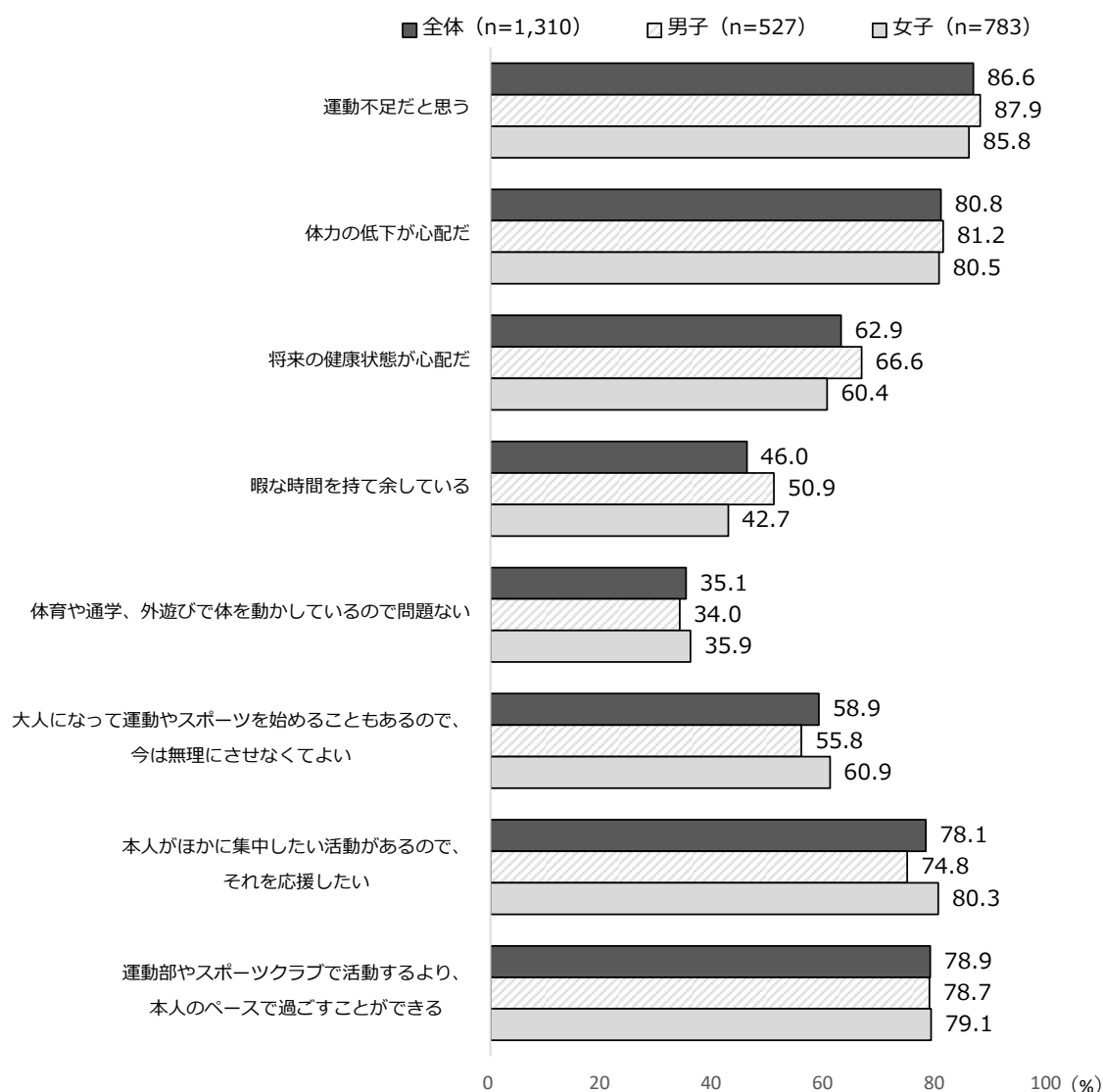
2.3 非加入群における子どものスポーツに対する意識

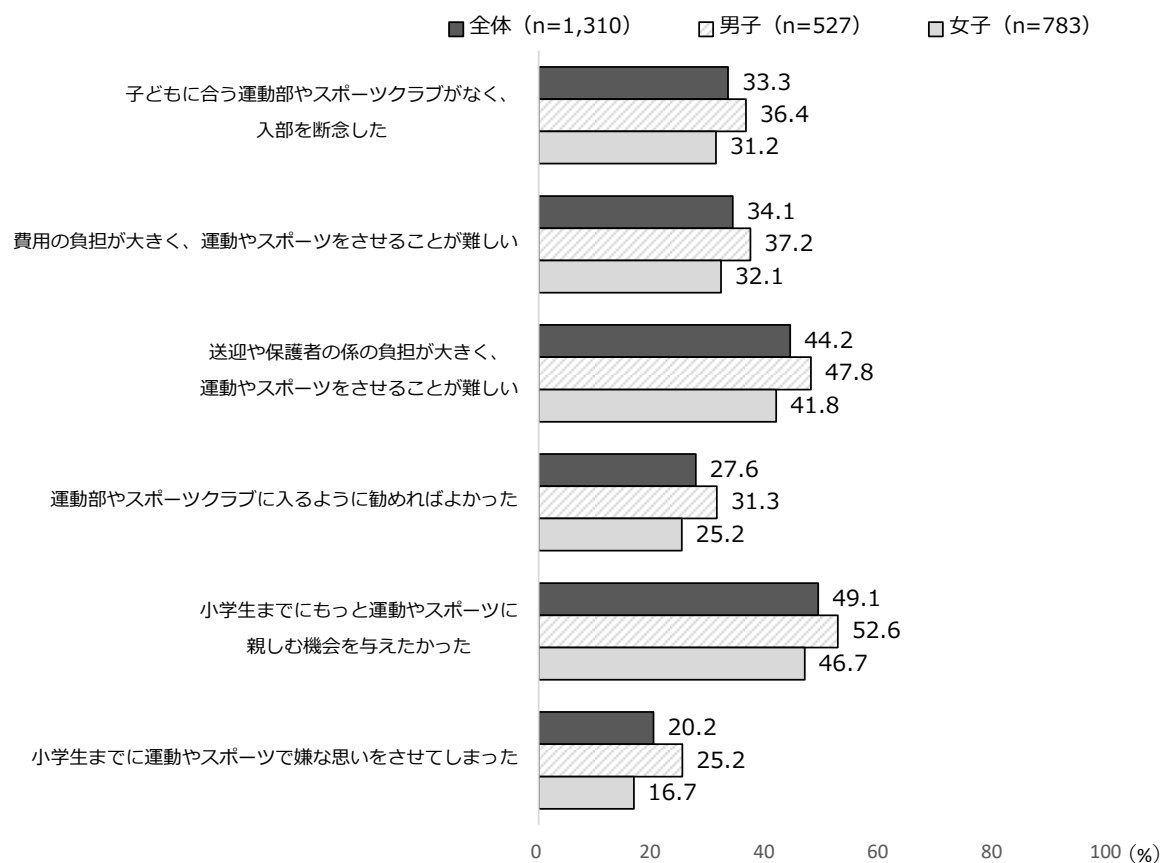
運動部やスポーツクラブに加入していない子どもの保護者に対し、日ごろの様子や運動・スポーツに関する意識をたずねた(図表 2-3-1)。全体では「運動不足だと思う」86.6%、「体力の低下が心配だ」80.8%が 8 割を超え、多くの保護者が子どもの運動不足や体力低下を懸念している。一方で「本人がほかに集中したい活動があるので、それを応援したい」78.1%、「運動部やスポーツクラブで」活動するより、本人のペースで過ごすことができる」78.9%は 8 割近くに達し、子どもの希望や生活スタイルを尊重する姿勢もみられる。

また、加入しなかった理由や小学生までの状況を振り返る項目では、「小学生までにもっと運動やスポーツに親しむ機会を与えたかった」49.1%が半数近くにのぼった。「費用の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい」は 34.1%、「送迎や保護者の係の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい」は 44.2%であった。

子どもの性別による差は全体的に小さいが、男子では「暇な時間を持て余している」「小学生までにもっと運動に親しむ機会を与えたかった」「小学生までに運動で嫌な思いをさせてしまった」が女子より多かった。

図表 2-3-1 子どものスポーツに対する意識
(運動部・スポーツクラブ非加入の場合/子どもの性別)

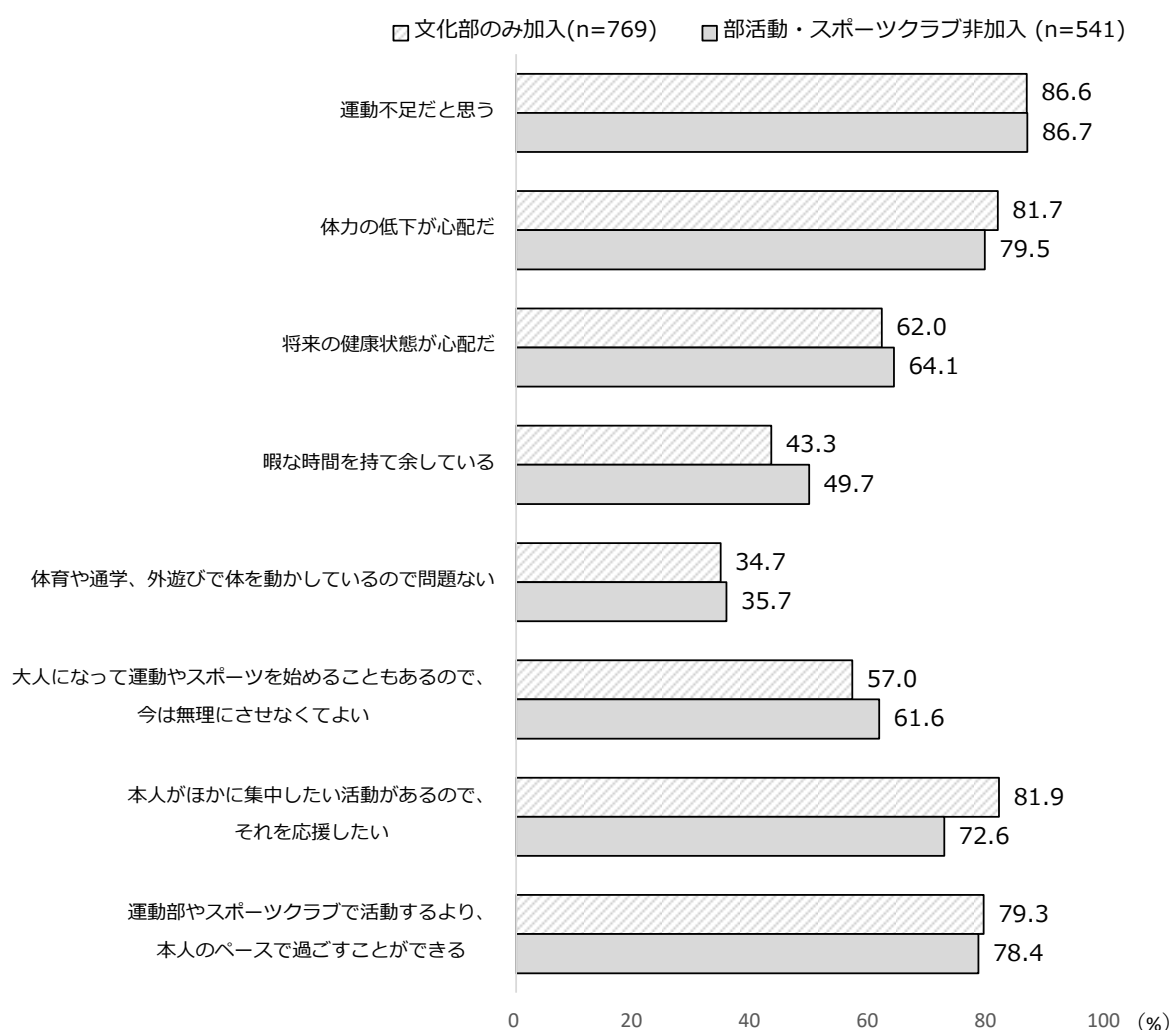


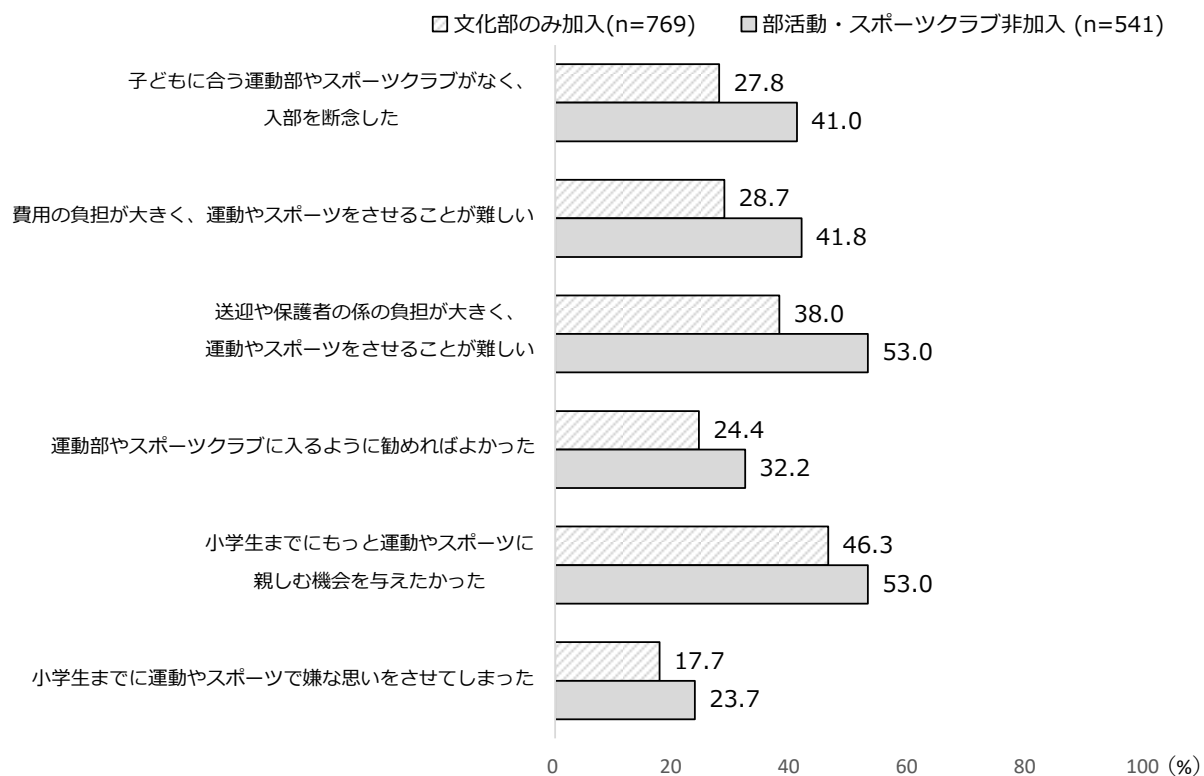


注 1)「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

同じ項目の結果を、文化部に加入している場合と、いずれの部活動・スポーツクラブにも加入していない場合に分けて示した(図表 2-3-2)。文化部加入者のほうが 5 ポイント以上多い項目は、「本人がほかに集中したい活動があるので、それを応援したい」(文化部 81.9%、非加入 72.6%、以下同)であった。非加入群のほうが 5 ポイント以上多い項目は、「暇な時間を持て余している」(43.3%、49.7%)、「子どもに合う運動部やスポーツクラブがなく、入部を断念した」(27.8%、41.0%)、「費用の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい」(28.7%、41.8%)、「送迎や保護者の係の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい」(38.0%、53.0%)、「運動部やスポーツクラブに入るように勧めればよかった」(24.4%、32.2%)、「小学生までにもっと運動やスポーツに親しむ機会を与えたかった」(46.3%、53.0%)、「小学生までに運動やスポーツで嫌な思いをさせてしまった」(17.7%、23.7%)であった。

図表 2-3-2 子どものスポーツに対する意識(文化部・非加入別)





注 1)「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%。

同じ項目を世帯年収別に分析した(図表 2-3-3)。全体でも数値が高かった「運動不足だと思う」「体力の低下が心配だ」「本人がほかに集中したい活動があるので、それを応援したい」「運動部やスポーツクラブで活動するより、本人のペースで過ごすことができる」は、いずれの年収群でも 7～9 割程度と高い割合を示した。

世帯年収によって差がみられたのは、「費用の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい」(400 万円未満 52.1%、1,000 万円以上 18.1%、以下同)や「送迎や保護者の係の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい」(59.5%、29.8%)で、世帯年収が低い群ほど「そう思う」とする割合が高かった。また、「小学生までにもっと運動やスポーツに親しむ機会を与えたかった」は 400 万円未満が 61.3%と、ほかの群を 15 ポイントほど上回っていた。

図表 2-3-3 子どものスポーツに対する意識(運動部・スポーツクラブ非加入の場合/世帯年収別)

	(%)				
	400万円 未満 (n=163)	600万円 未満 (n=190)	800万円 未満 (n=237)	1,000万円 未満 (n=150)	1,000万円 以上 (n=171)
運動不足だと思う	86.5	90.5	86.9	86.0	85.4
体力の低下が心配だ	83.4	85.8	82.3	74.7	78.9
将来の健康状態が心配だ	70.6	65.8	64.1	54.0	62.6
暇な時間を持て余している	47.9	46.3	52.3	44.0	41.5
体育や通学、外遊びで体を動かしているので問題ない	30.1	35.3	31.6	34.7	36.3
大人になって運動やスポーツを始めることもあるので、今は無理にさせなくてよい	56.4	65.3	56.5	58.0	59.6
本人がほかに集中したい活動があるので、それを応援したい	73.6	81.1	78.1	75.3	78.9
運動部やスポーツクラブで活動するより、本人のペースで過ごすことができる	79.8	84.2	78.1	75.3	80.1
子どもに合う運動部やスポーツクラブがなく、入部を断念した	37.4	35.8	35.4	23.3	28.1
費用の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい	52.1	44.2	34.2	23.3	18.1
送迎や保護者の係の負担が大きく、運動やスポーツをさせることが難しい	59.5	51.1	40.5	36.0	29.8
運動部やスポーツクラブに入るように勧めればよかった	27.6	26.8	33.3	28.0	28.1
小学生までにもっと運動やスポーツに親しむ機会を与えたかった	61.3	46.8	46.8	42.7	45.0
小学生までに運動やスポーツで嫌な思いをさせてしまった	27.6	21.6	21.5	19.3	16.4

注 1)「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

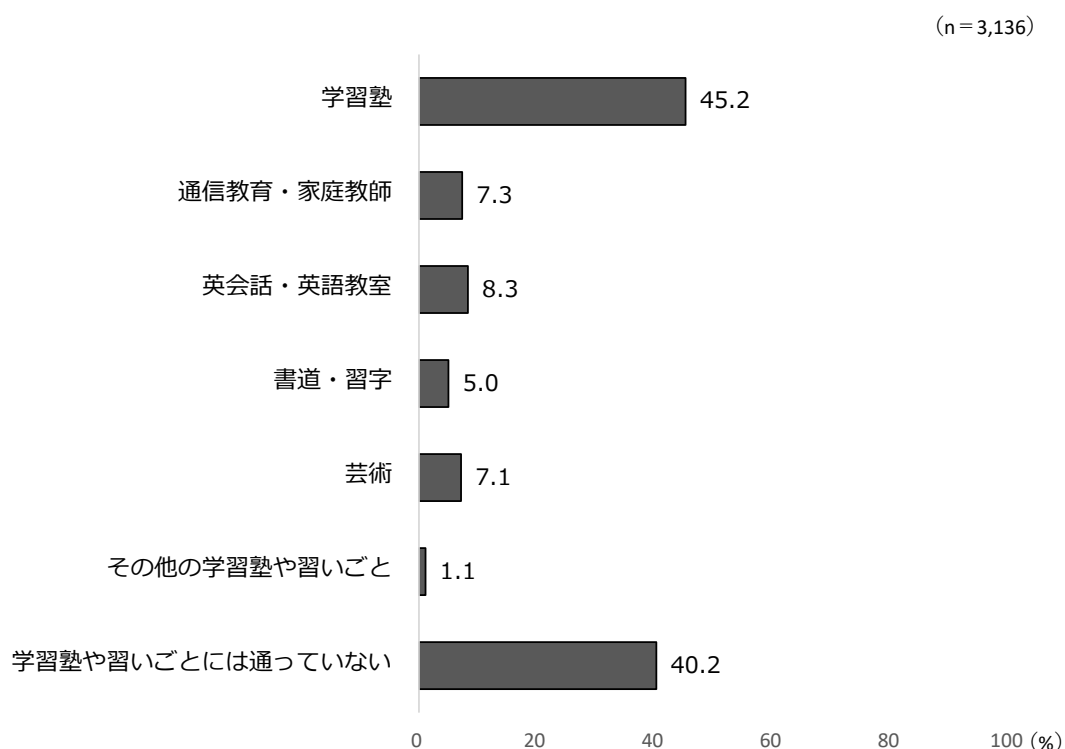
3. 子どものスポーツ歴・教育

3.1 習いごとの種類

中学生が実施している習いごとの種類を整理した。なお、1.1～1.3 で示した学校の部活動やスポーツクラブは除いてたずねている。

全体で最も割合が高かったのは「学習塾」で 45.2%であった。「通信教育・家庭教師」「英会話・英語教室」「書道・習字」「芸術」は 5～8%程度であった(図表 3-1)。他方で「学習塾や習いごとには通っていない」は 40.2%であり、中学生のおよそ 4 割は習いごとを行っていないことがわかる。

図表 3-1 習いごとの種類



注 1) 複数回答。

注 2) 質問紙上では、「芸術」には「音楽、絵画、茶華道など含む」という注釈をつけている。

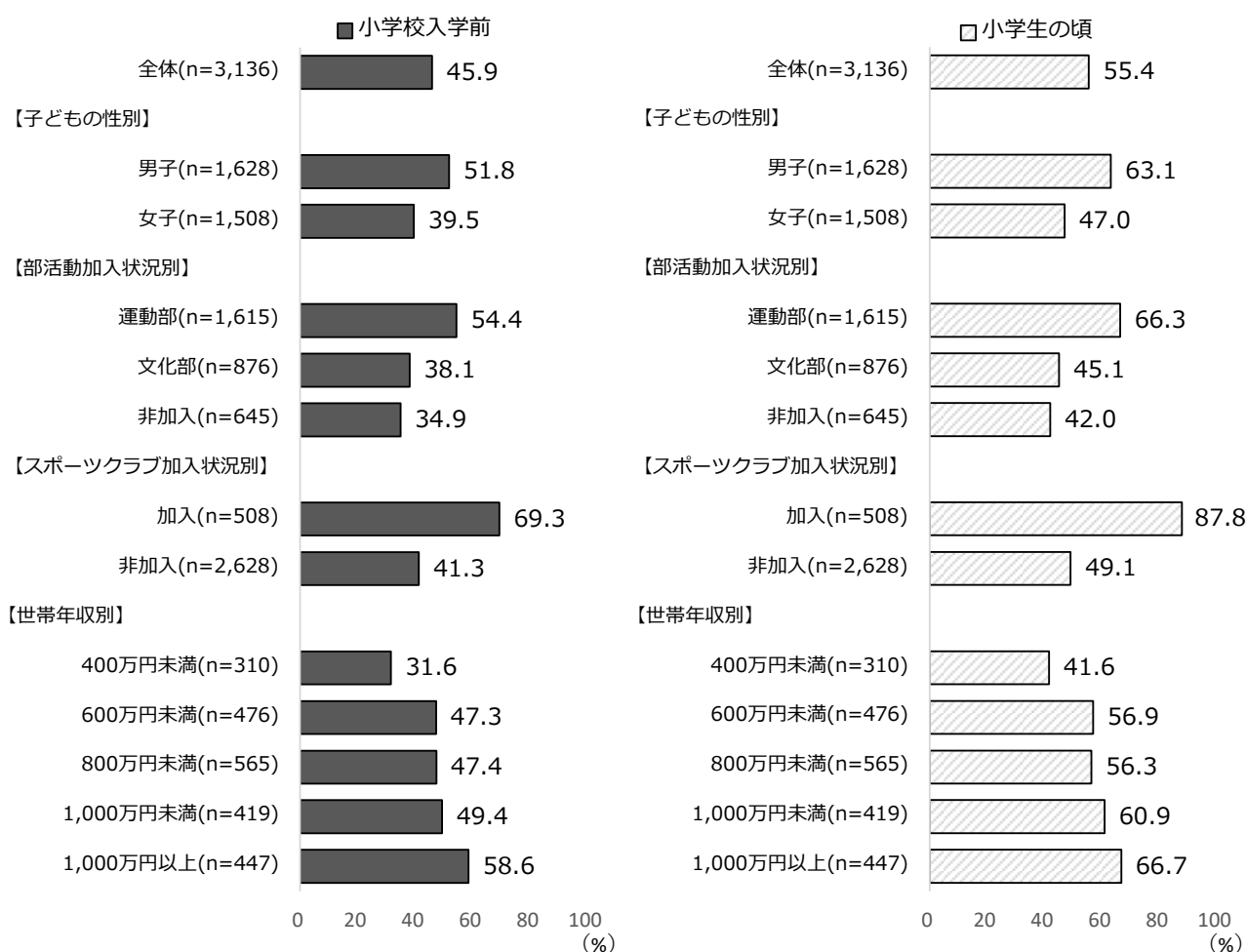
3.2 中学校入学前のスポーツ経験

子どもが中学校入学前に組織的なスポーツ活動を行っていたかをたずねた。実際の質問項目では、現在の部活動やスポーツクラブと同じ種目か否かも含めて複数回答で確認したが、現在の加入状況と矛盾する回答が一部にみられたため、ここでは「クラブや教室に所属してスポーツをしていたか否か」というおおまかな傾向の把握にとどめた。なお、「クラブや教室」にはスポーツ少年団・スポーツクラブや民間の教室、保育所・幼稚園での課外教室や小学校の部活動などが含まれる。

全体では小学校入学前に 45.9%、小学生の頃に 55.4%が組織的なスポーツ活動を経験していた(図表 3-2)。子どもの性別では、小学校入学前は男子 51.8%、女子 39.5%、小学生の頃は男子 63.1%、女子 47.0%で、いずれの時期も男子の割合が高かった。現在の部活動やスポーツクラブの加入状況別に見ると、運動部やスポーツクラブに加入しているほうが、加入していない場合よりも中学校入学前の実施率が高かった。中学校入学前のスポーツ歴と入学後の活動との間には、一定の関連が確認できる。

世帯年収別では、「400 万円未満」では小学校入学前 31.6%、小学生の頃 41.6%であるのに対し、「1,000 万円以上」では 58.6%、66.7%と、いずれも 3 割弱の差がみられた。

図表 3-2 中学校入学前のスポーツ経験（子どもの性別、部活動・スポーツクラブ加入状況別、世帯年収別）



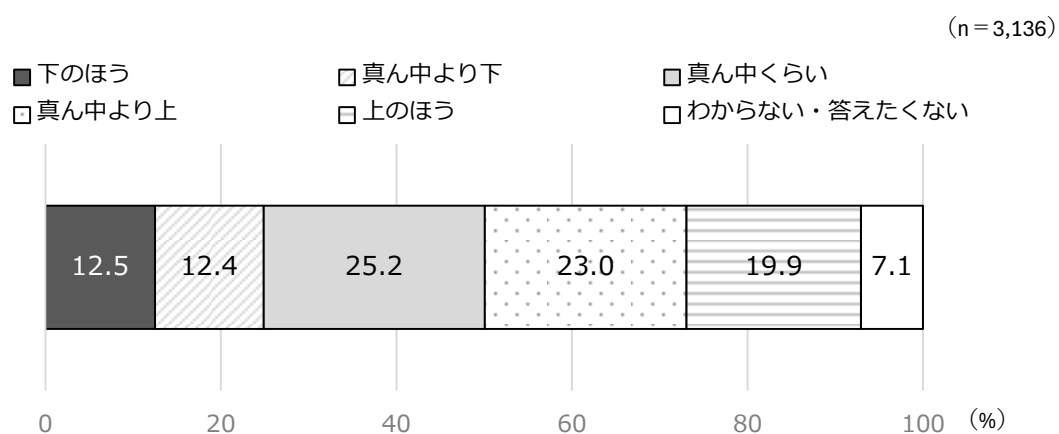
注 1) それぞれの時期に組織的なスポーツ活動を行った経験がある割合を示している。

3.3 学業成績・進学希望

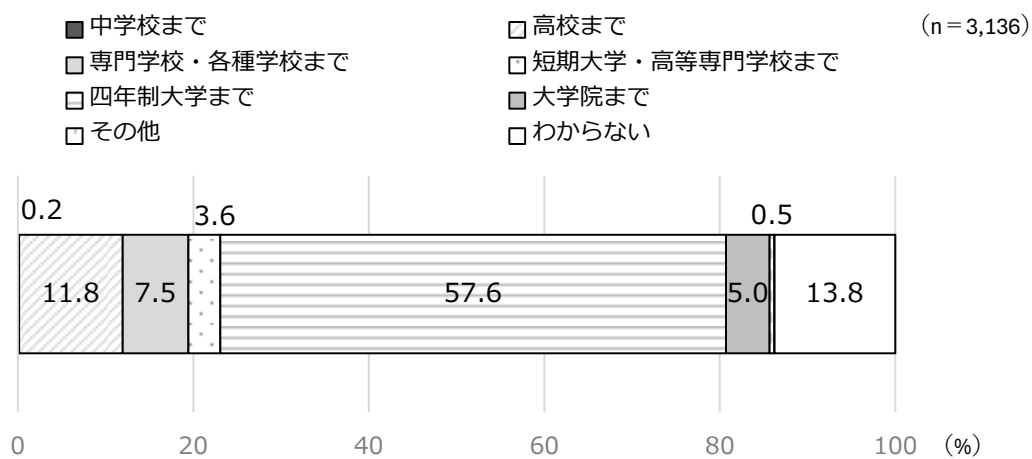
中学生の学業成績や進学希望を整理した。まず学業成績をみると、「真ん中くらい」「真ん中より上」「上のほう」はそれぞれ2～2.5割程度であった。「下のほう」「真ん中より下」は約12%であった(図表3-3-1)。

次に進学希望をみると、「四年制大学まで」が57.6%と過半数を占めていた(図表3-3-2)。そのほかの選択肢は「高校まで」が11.8%、「専門学校・各種学校まで」が7.5%、「短期大学・高等専門学校まで」が3.6%、「大学院まで」が5.0%で、それぞれ一定数の保護者が希望していることがわかる。「中学校まで」は0.2%であった。

図表 3-3-1 学業成績



図表 3-3-2 進学希望



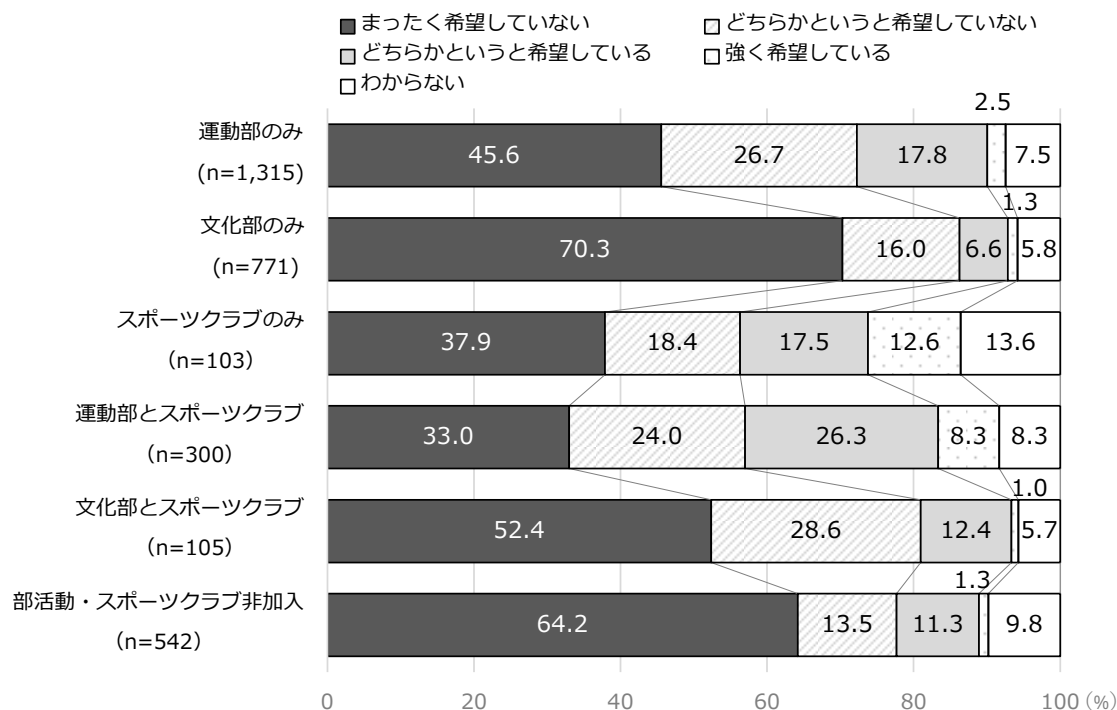
注 1) 質問紙上では、「大学院まで」には「医学部・薬学部などの六年制大学を含む」という注釈をつけている。

3.4 スポーツ推薦の希望

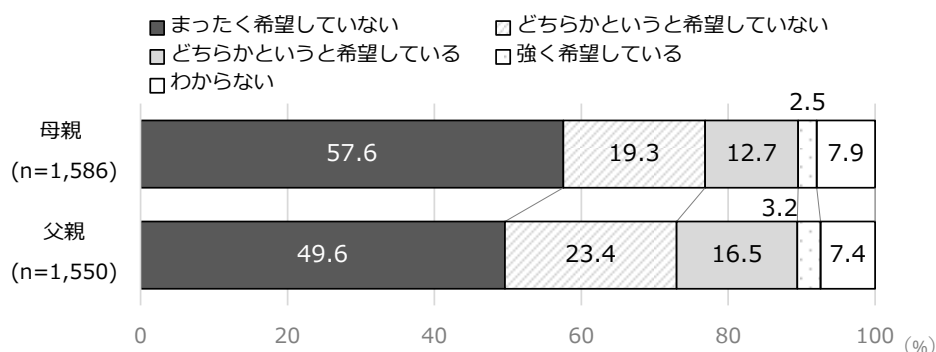
家庭での子どものスポーツ推薦希望を整理した。はじめに「運動部のみ」に加入、「文化部のみ」に加入、「スポーツクラブのみ」に加入、「運動部とスポーツクラブ」の両方に加入、「文化部とスポーツクラブ」の両方に加入、「部活動・スポーツクラブ非加入」の6つの加入パターンを比較した。スポーツ推薦を希望する（「どちらかという希望している」＋「強く希望している」）割合の高い順に「運動部とスポーツクラブ」34.6%、「スポーツクラブのみ」30.1%、「運動部のみ」20.3%、「文化部とスポーツクラブ」13.4%、「部活動・スポーツクラブ非加入」12.6%、「文化部のみ」7.9%であった（図表 3-4-1）。スポーツクラブに加入する子ども、スポーツクラブに加えて運動部に入っている子どもの家庭では、ほかの群に比べてよりスポーツ推薦を希望している傾向にあった。

次に母親と父親の回答を比較した。スポーツ推薦を希望していない割合は母親 76.9%、父親 73.0%で、いずれも希望している割合を上回った（図表 3-4-2）。母親と父親で大きな違いはみられず、5 ポイント以上の差があったのは「まったく希望していない」（母親 57.6%、父親 49.6%）のみであった。

図表 3-4-1 スポーツ推薦の希望（加入パターン別）



図表 3-4-2 スポーツ推薦の希望（母親・父親別）

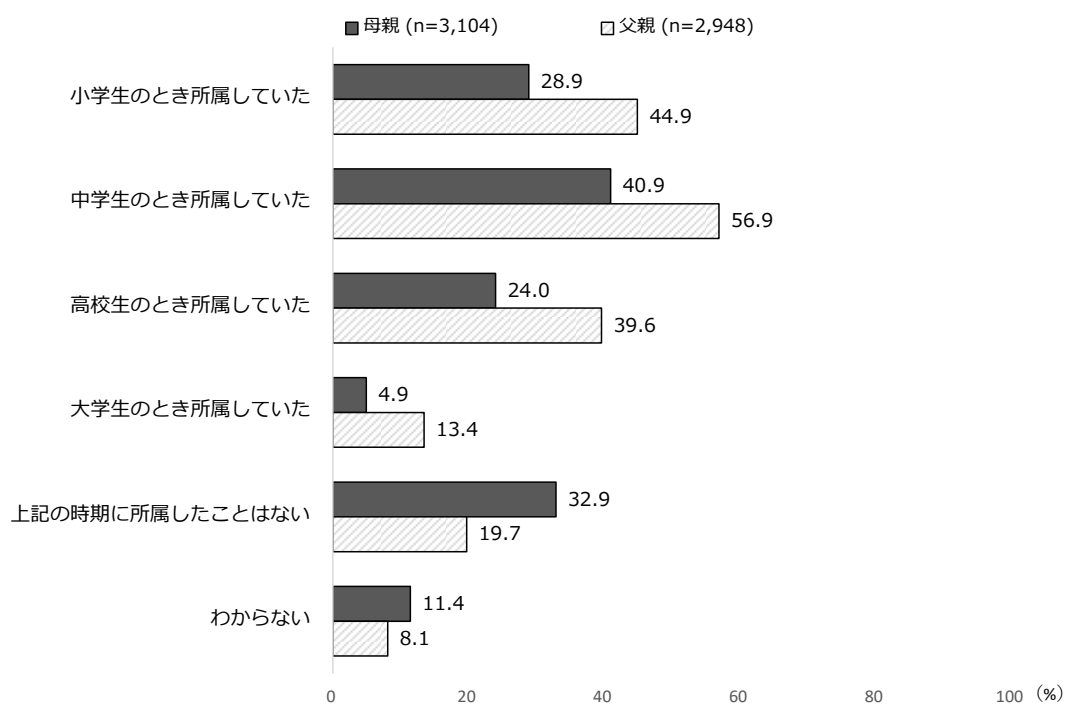


3.5 保護者のスポーツ歴

保護者のスポーツ歴について、母親と父親で分けて整理した。母親の割合は、母親本人による回答と父親による配偶者回答を合算した実数値から、父親の割合も同様に、父親本人による回答と母親による配偶者回答を合算した実数値から算出している。全体的な傾向として、「中学生のとき所属していた」が母親 40.9%、父親 56.9%で、いずれも最も高かった(図表 3-5)。母親・父親ともに「小学生のとき所属していた」よりも「中学生のとき所属していた」割合が高くなっている(母親 28.9%→40.9%、父親 44.9%→56.9%)ことから、中学校の部活動がスポーツ経験を広げる契機となっていた可能性が示唆される。他方で、母親も父親も「高校生のとき所属していた」の割合は「中学生のとき所属していた」から低くなる(母親 40.9%→24.0%、父親 56.9%→39.6%)ことから、中学から高校段階へ上がるタイミングでのスポーツ継続に課題があるといえる。

次に母親と父親を比較すると、「小学生のとき所属していた」は母親 28.9%、父親 44.9%(以下同)、「中学生のとき所属していた」40.9%、56.9%、「高校生のとき所属していた」24.0%、39.6%、「大学生のとき所属していた」4.9%、13.4%であり、いずれも父親が 5 ポイント以上高かった。小学生から大学生までの時期にスポーツ活動を行う団体に「所属したことはない」割合は母親 32.9%、父親 19.7%で、母親のほうが高かった。

図表 3-5 保護者のスポーツ歴(母親・父親別)



注 1) 複数回答。